

2021年度  
**講義概要**

---

32期生

学校法人 慈恵大学  
**慈恵第三看護専門学校**



# 目 次

---

---

I. 教育課程 .....	3
1. 教育理念 .....	3
2. 教育目的 .....	3
3. 教育目標 .....	3
4. 主要概念の定義 .....	3
5. 各分野の考え方 .....	4
6. 教育課程の構造図 .....	4
7. 科目の構成・講義時間 .....	5
II. 学科進度 .....	9
III. 教育計画 .....	13
IV. 分野別講義要綱 .....	19
1. 基礎分野 .....	19
人間と生活・社会の理解 / 科学的思考の基盤	
2. 専門基礎分野 .....	35
人体の構造と機能 / 疾病の成り立ちと回復の促進	
健康支援と社会保障制度	
3. 専門分野 I .....	67
基礎看護学	
4. 専門分野 II .....	93
成人看護学 / 老年看護学	
小児看護学 / 母性看護学	
精神看護学	
5. 統合分野 .....	153
在宅看護論 / 看護の統合と実践	



---

---

# I. 教育課程

---

---



## 1. 教育理念

本校は、明治18年創設者高木兼寛がナイチンゲール看護婦学校に範を得て「常にひとびとの幸を願いそのために献身する」という慈恵の精神に基づき、看護教育を開始したわが国最初の看護師教育機関を礎としている。以後、一貫して社会に貢献できる看護実践者を育成しています。

教育にあたっては、専門職として必要な知識・技術を身につけ、教育所開設当初より大切にしてきた、品位、礼儀、辞讓、温和な態度で対象である人間を尊重した看護を実践できる看護師を育成します。

慈恵の看護教育を受けた看護師は社会のニーズに応じて医療施設のみならず在宅及び保健福祉分野に貢献できる専門職として人々の健康に寄与しています。

## 2. 教育目的

看護に関する専門教育を行い、人格の涵養に努め社会に貢献し得る有能な看護師を育成する。

## 3. 教育目標

1. 人間の存在を尊重し、人間の理解を深めるための能力を養う
2. あらゆる人々の健康状態に対応した看護を実践する基礎的能力を養う
3. 保健医療福祉を総合的に理解し、看護の主体性を発揮する能力を養う
4. 豊かな人間性を養い、社会人として良識ある態度が形成できる
5. 専門職業人として、看護を探求する姿勢を養う

## 4. 主要概念の定義

本校では、看護、人間、健康、環境を次のように捉えます。

**看護とは**、「その人の生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整えることである」という、ナイチンゲールの提唱する看護に基づき、あらゆる人びとの成長と発達、健康の状態に応じて、自立を助け、その人らしく日常生活が営めるように援助する活動です。看護は、人間関係を基盤とし、その対象に応じて教育的機能や相談・支持的機能・調整的機能を持ちます。

**人間とは**、基本的人権を有し尊重される存在です。人間は、受精から死ぬまでの生命現象をもち、身体的・精神的・社会的・霊的に統合され、成長しつづける存在です。

**健康とは**、身体的・精神的・社会的に調和がとれている状態です。健康は基本的権利の一つであり、個人のQOLに影響を与えるものです。健康のありようは流動的かつ連続的なもので、個人の価値観に基づいて自らが創り出していくものです。

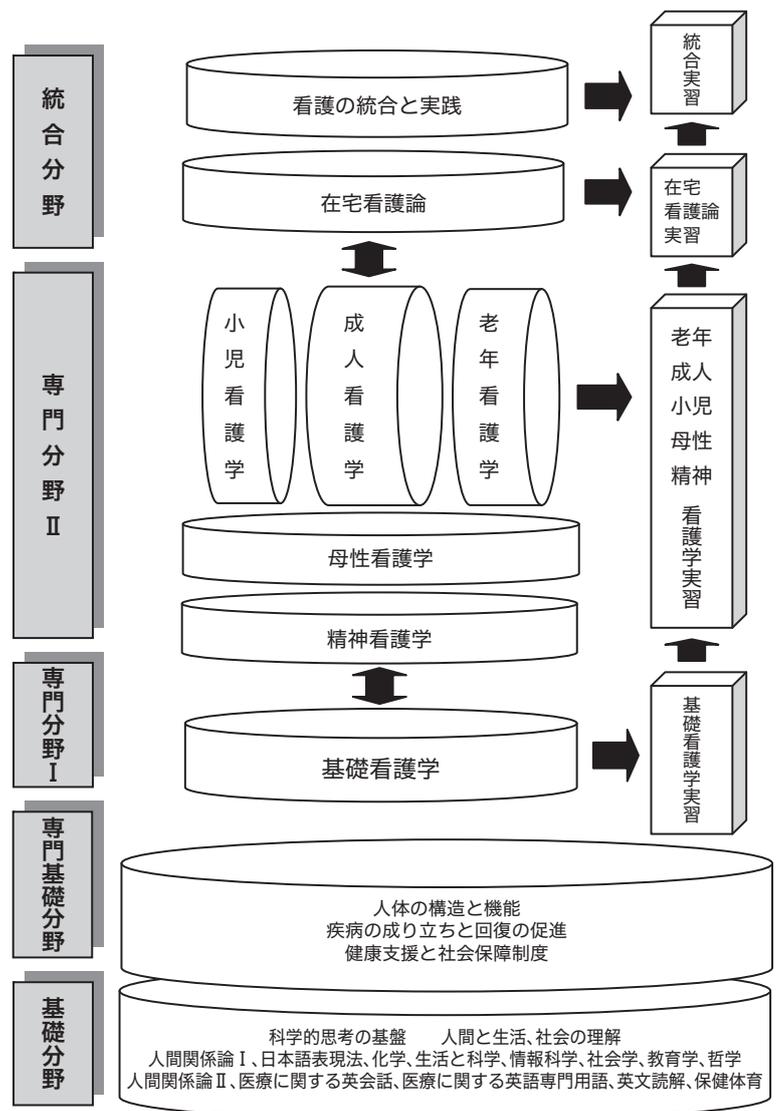
**環境とは**、人間を取り巻くすべてをさし、つねに相互に関連しあい、人間の成長・発達や健康に影響を及ぼしています。人間もまたその環境の一部です。

## 5. 各分野の考え方

1. 基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野の5分野で構成する。
2. 基礎分野は、専門基礎分野、専門分野の基礎として位置付ける。
3. 専門基礎分野は、看護学を学ぶ上での基礎として位置付け「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」の教育内容から構成する。
4. 看護学の科目は、基礎分野、専門基礎分野の学習をふまえ、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野の3分野で構成する。
5. 専門分野Ⅰは、看護学(専門分野Ⅱ、統合分野)の土台として位置付け、主に看護の概念や役割、看護実践の基礎となる看護技術、問題解決の方法を教育内容とし専門分野Ⅱに共通する基礎的知識・技術を習得する。
6. 専門分野Ⅱは、「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」で構成する。専門分野Ⅰから発展して対象特性を踏まえた看護を学習する。
7. 統合分野は、「在宅看護論」「看護の統合と実践」で構成する。統合分野は、看護学の集大成としてこれまで学んだ知識と技術を応用して実践する。

## 6. 教育課程の構造図

1. 基礎分野、専門基礎分野は専門分野、統合分野の看護学を学ぶ土台と考え学ぶ順序性に沿った上行への分野構成を示した。
2. 精神看護学、母性看護学は対象特性を示す他の専門分野Ⅱにそれぞれつながっている。そのため同じ専門分野Ⅱに位置するが土台として置き、小児看護学、成人看護学、老年看護学を中心に置いた。
3. 在宅看護論は対象特性を踏まえて「場の変化(在宅療養者とその家族の看護)」に対して学ぶ科目内容であるため専門分野Ⅱの上に位置付けた。
4. 矢印は各分野における学びが相互に関連し、影響し合っって学習が広がっていくことを示している。



## 7. 科目の構成・講義時間

分野		科目名	単位数・時間数		1年	2年	3年
基礎分野	人間と生活・社会の理解 科学的思考の基盤	人間関係論Ⅰ(コミュニケーション)	1	15	○		
		日本語表現法	1	15	○		
		化学	1	30	○		
		生活と科学	1	30	○		
		情報科学	1	30	○		
		社会学	1	30	○		
		教育学	1	15		○	
		哲学	1	30		○	
		人間関係論Ⅱ	1	30	○		
		医療に関する英会話	1	30	○		
		医療に関する英語専門用語	1	30		○	
		英文読解	1	30			○
		保健体育	1	30	○		
小計			13	345	9 (240)	3 (75)	1 (30)
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の発生	1	15	○		
		解剖生理学Ⅰ(消化器、循環器系の構造と機能)	1	30	○		
		解剖生理学Ⅲ(呼吸器、腎・泌尿器、内分泌、生殖器系の構造と機能)	1	30	○		
		解剖生理学Ⅱ(運動器、感覚器、神経系の構造と機能)	1	30	○		
		生化学(栄養学を含む)	1	30	○		
		臨床生理	1	15	○		
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	15	○		
		微生物学	1	30	○		
		消化器、呼吸器系の疾病と治療	1	30		○	
		循環器、腎・泌尿器、内分泌・代謝の疾病と治療	1	30		○	
		脳神経、腫瘍・血液、運動器の疾病と治療	1	30		○	
		感染症、アレルギー、膠原病、感覚器の疾病と治療	1	30		○	
		薬物療法の基礎	1	30	○		
		手術療法、放射線療法、リハビリテーション療法の基礎	1	30	○		
	健康支援と社会保障制度	薬物療法、栄養療法の実際	1	30		○	
		医療のあゆみ	1	15	○		
		公衆衛生の基本と法制度および保健活動	1	30		○	
		社会保障制度と社会福祉活動	2	30			○
		法の基礎知識	1	15			○
	医療と法律	1	15			○	
	小計			21	510	11 (270)	6 (180)
専門分野Ⅰ	基礎看護学	基礎看護学概論	1	30	○		
		看護理論と看護の歴史	1	15	○		
		看護倫理とコミュニケーション	1	30	○		
		フィジカルアセスメント	1	30	○		
		日常生活の援助技術	1	30	○		
		日常生活の援助技術の実際	1	45	○		
		診療に伴う援助技術	1	30	○		
		診療に伴う援助技術の実際	1	45	○		
		問題解決思考に基づく看護の展開をするための技術	1	30	○		
		臨床看護総論	1	30	○		
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ〈日常生活の援助〉	1	45	○		
		基礎看護学実習Ⅱ〈看護過程の展開〉	2	90		○	
		小計			13	450	11 (360)

分野		科目名	単位数・時間数		1年	2年	3年
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人の生活と健康	1	15	○		
		健康危機状況にある人の看護	1	30		○	
		セルフマネジメントに向けての看護	1	30		○	
		セルフケア再獲得に向けての看護	1	30		○	
		緩和ケアを必要とする人の看護	1	30		○	
		看護過程を展開する技術	1	30		○	
	老年看護学	老年看護学概論	1	30	○		
		老いることとその支援	1	15		○	
		老年者の健やかな生活への看護	1	30		○	
		老年者の健康障害時の看護	1	30		○	
	小児看護学	小児の特徴と成長発達	1	15	○		
		小児の健康増進のための看護	1	30		○	
		小児の疾病と病態生理	1	30		○	
		小児の健康状態に応じた看護	1	30		○	
	母性看護学	母性看護学概論	1	30	○		
		生殖・周産期の基礎	1	15		○	
		周産期・新生児の看護	1	30		○	
		周産期・新生児の看護技術と看護過程の展開	1	30		○	
	精神看護学	精神看護学概論	1	30	○		
		精神看護の基本技術	1	15		○	
		精神障害の分類とその特徴と治療	1	30		○	
		精神障害を持つ人の生活と看護	1	30		○	
	臨地実習	成人看護学実習A〈セルフマネジメントに向けての看護・セルフケア再獲得に向けての看護〉	2	90			○
		成人看護学実習B〈健康危機状況にある人の看護〉	2	90			○
		成人看護学実習C〈緩和ケアを必要とする人の看護〉	2	90			○
		老年看護学実習Ⅰ〈地域で生活する高齢者への看護〉	2	90		○	
		老年看護学実習Ⅱ〈高齢者の健康障害時の看護〉	2	90			○
		小児看護学実習	2	90			○
		母性看護学実習	2	90			○
		精神看護学実習	2	90		○	
		小計		38	1305	5 (120)	21 (645)
	統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	1	15		○
在宅療養を支える社会資源とケアシステム			1	15		○	
在宅における援助の基本技術			1	30		○	
在宅における生活援助技術の実際			1	30		○	
看護の統合と実践		看護実践マネジメントと医療安全	1	30			○
		災害時看護と国際協力	1	30		○	
		臨床看護の実際	1	30			○
		看護研究の進め方	1	15		○	
臨地実習		看護研究の実際	1	15			○
		在宅看護論実習	2	90			○
		統合実習	2	90			○
小計		13	390		6 (135)	7 (255)	
総計			98	36	38	24	
			3000	990	1125	885	

---

---

## II. 学 科 進 度

---

---





---

---

## Ⅲ. 教育計画

---

---



教育計画

	1 年 次		2 年 次		3 年 次	
学年目標	1. 新しい環境に適応し、主体的に学習する姿勢を身に付ける。 2. 感性を磨き、人間関係を豊かにする。 3. 看護・人間・環境・健康に関心を持つ。 4. 看護に共通する基礎技術を習得する。		1. 看護の対象である人間の理解を深める。 2. 広く知識を深め、問題解決能力を養い、看護実践に繋げることができる。 3. リーダーシップおよびメンバーシップを養う。		1. 対象に応じた看護の展開ができる。 2. 保健・医療・福祉の動向において看護の役割を理解する。 3. 専門職業人としての自覚を持ち、責任ある行動ができる。 4. 研究的態度を養い自己啓発に努める。	
主な行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学式</li> <li>保護者会</li> <li>入学時オリエンテーション</li> <li>健康診査</li> <li>スポーツ大会</li> <li>学校祭</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>戴帽式</li> <li>キャンドルサービス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診査</li> <li>スポーツ大会</li> <li>教育キャンプ</li> <li>保護者会</li> <li>学校祭</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャンドルサービス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診査</li> <li>スポーツ大会</li> <li>保護者会</li> <li>学校祭</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャンドルサービス</li> <li>東京都看護学生看護研究学会</li> <li>看護研究発表会</li> <li>看護観発表会</li> <li>卒業式</li> </ul>
試験	前期終講試験(9月) 基礎看護技術実技試験 (日常生活援助技術)	後期終講試験(2月) 基礎看護技術実技試験 (診療に伴う援助技術・フィジカルアセスメント)	前期終講試験(9月)	後期終講試験(2月)		終講試験(12月) 各領域実力試験 第111回看護師国家試験
基礎分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間関係論Ⅰ</li> <li>人間関係論Ⅱ</li> <li>日本語表現法</li> <li>化学</li> <li>生活と科学</li> <li>情報科学</li> <li>社会学</li> <li>医療に関する英会話</li> <li>保健体育</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>哲学</li> <li>医療に関する英語専門用語</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英文読解</li> </ul>	
専門基礎分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>人体の発生</li> <li>解剖生理学Ⅰ (消化器、循環器系の構造と機能)</li> <li>解剖生理学Ⅲ (呼吸器、腎、泌尿器、内分泌、生殖器系の構造と機能)</li> <li>病理学</li> <li>医療のあゆみ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>解剖生理学Ⅱ (運動器、感覚器、神経系の構造と機能)</li> <li>生化学</li> <li>微生物学</li> <li>薬物療法の基礎</li> <li>臨床生理</li> <li>手術療法、放射線療法、リハビリテーション療法の基礎</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>消化器、呼吸器系の疾病と治療</li> <li>脳神経、腫瘍、血液、運動器の疾病と治療</li> <li>循環器、腎・泌尿器、内分泌・代謝の疾病と治療</li> <li>脳神経、腫瘍、血液、運動器の疾病と治療</li> <li>薬物療法、栄養療法の実際</li> <li>公衆衛生の基本と法制度および保健活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症、アレルギー、膠原病、感覚器の疾病と治療</li> </ul>		
専門分野Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎看護学概論</li> <li>看護理論と看護の歴史</li> <li>日常生活の援助技術</li> <li>日常生活の援助技術の実際</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>診療に伴う援助技術</li> <li>診療に伴う援助技術の実際</li> <li>フィジカルアセスメント</li> <li>問題解決思考に基づく看護の展開をするための技術</li> <li>看護倫理とコミュニケーション</li> <li>臨床看護総論</li> <li>*基礎看護学実習Ⅰ</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>*基礎看護学実習Ⅱ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会保障制度と社会福祉活動</li> <li>法の基礎知識</li> <li>医療と法律</li> </ul>	
専門分野Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>成人の生活と健康</li> <li>老年看護学概論</li> <li>母性看護学概論</li> <li>小児の特徴と成長発達</li> <li>精神看護学概論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康危機状況にある人の看護</li> <li>セルフマネジメントに向けての看護</li> <li>老年者の健やかな生活への看護</li> <li>老いることとその支援</li> <li>生殖・周産期の基礎</li> <li>小児の疾病と病態生理</li> <li>小児の健康増進のための看護</li> <li>精神障害の分類とその特徴と治療</li> <li>精神看護の基本技術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>セルフケア再獲得に向けての看護</li> <li>緩和ケアを必要とする人の看護</li> <li>看護過程を展開する技術</li> <li>老年者の健康障害時の看護</li> <li>周産期・新生児の看護</li> <li>周産期・新生児の看護技術と看護過程の展開</li> <li>小児の健康状態に応じた看護</li> <li>精神障害を持つ人の生活と看護</li> <li>*老年看護学実習Ⅰ</li> <li>*精神看護学実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*成人看護学実習A</li> <li>*成人看護学実習B</li> <li>*成人看護学実習C</li> <li>*老年看護学実習Ⅱ</li> <li>*母性看護学実習</li> <li>*小児看護学実習</li> </ul>		
統合分野			<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅看護概論</li> <li>在宅療養を支える社会資源とケアシステム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅における生活援助技術の実際</li> <li>在宅における援助の基本技術</li> <li>災害時看護と国際協力</li> <li>看護研究の進め方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護実践マネジメントと医療安全</li> <li>看護研究の実際</li> <li>*在宅看護論実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床看護の実践</li> <li>*統合実習</li> </ul>

---

---

## IV. 分野別講義要綱

---

---



## 1. 基礎分野

---

人間と生活・社会の理解

科学的思考の基盤



## 1. 考え方

基礎分野は、専門基礎分野と共に専門分野である各看護学を支える学問領域である。

ここでは、「科学的思考の基盤」「人間と生活、社会の理解」を学ぶ。

そのために、科学的、論理的思考を育成し、国際化や情報化社会への対応能力を高め、成長発達に伴う変化や教育、世界各国の文化・社会・価値観を学び、人間愛及び生命の尊厳を基盤とした人間と人間生活、社会の理解を深めていく。

基礎分野の学びをとおして、専門分野を学ぶための資質を培い、豊かな感性を育み、主体性のある学生の人間形成に寄与することをねらいとする。

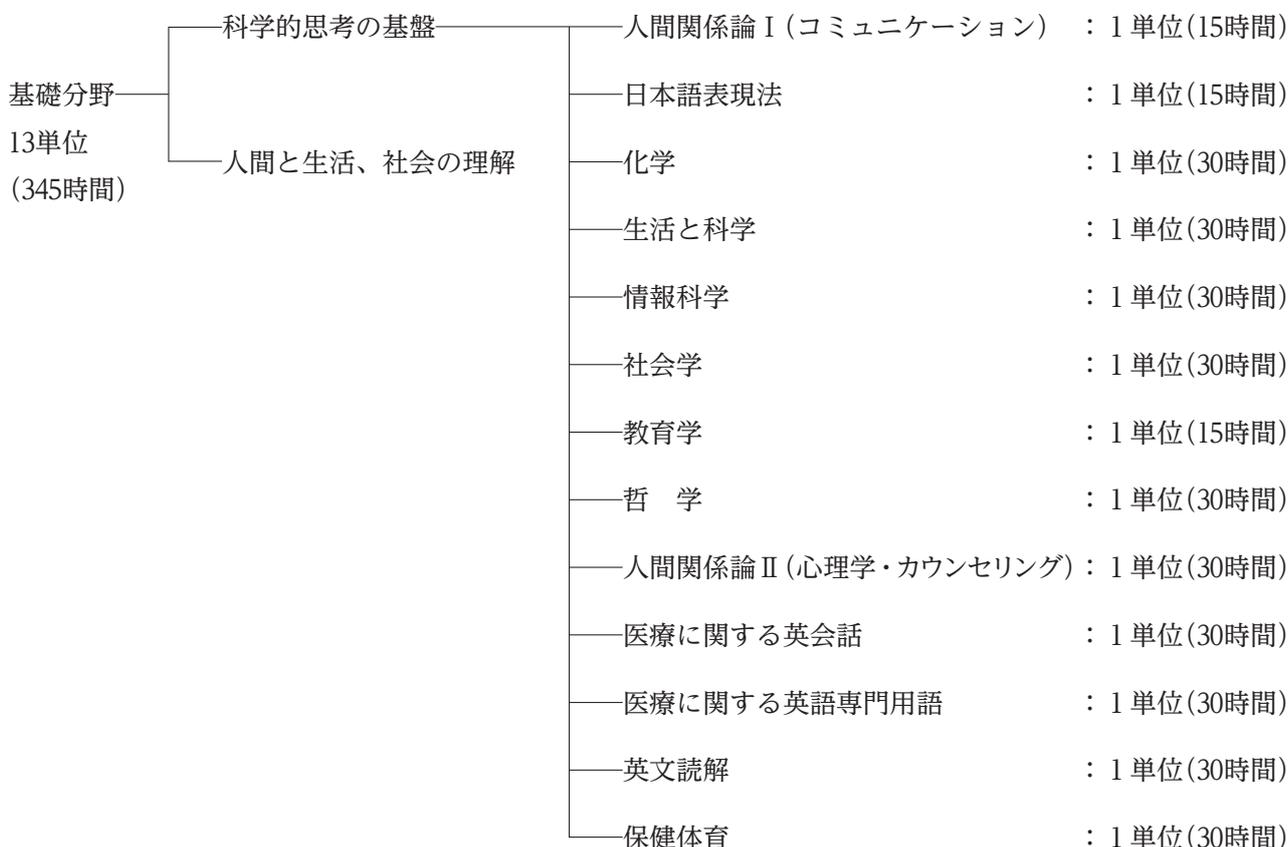
## 2. 目的

- 1) 科学的・論理的思考の基礎を養い、自ら学習する能力を育てる。
- 2) 人間生活、社会を理解し、豊かな感性と共に自ら人間として成長する基礎を養う。

## 3. 目標

- 1) 看護に応用できる科学的思考の基礎を学ぶ。
- 2) 思考の形成、法則を学び理論的思考や文章表現力を養う。
- 3) 国際化、情報化社会に対応できる能力を養う。
- 4) 人格の形成、知能、発達心理などについて学び人間への理解を深める。
- 5) 人間の生活や社会的役割を知り、社会的存在としての人間を理解する。
- 6) 人間の存在、価値観、ものの見方などを理解する。

## 4. 科目の構成



科目名	人間関係論 I (コミュニケーション)		単位数	1	時間数	15
開講時期	1年次 前期	担当者	國広光代、山下美穂			
設定理由	<p>看護に携わる人として、必要な能力とは何でしょうか？ 知識や技術、それはもちろんですが、患者さんを一人の人間として尊重し大切にしようとする気持ちもまた、重要であると思います。そしてその態度を、患者さんやそのご家族に伝えるためには、言語や非言語でそれを表現する力が不可欠です。</p>					
科目目標	<p>将来患者さんと良好な関係を築くために必要な態度と、それを表現するためのコミュニケーションの力のうち、聴く力、話す力を身につけましょう。</p>					
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 聞き方</li> <li>2. 話し方</li> <li>3. 違いを知る</li> <li>4. リフレーミング</li> <li>5. 価値観について考えよう</li> <li>6. 機能的リーダーシップ</li> <li>7. 合意形成</li> <li>8. まとめ</li> </ol>					
評価方法	出席状況、小テスト、提出物、授業態度等により総合的に評価する。					
使用テキスト	なし					
備考	<p>毎回、インタビューする、スピーチをするなどの多種の課題が設けられるので、ハードかもしれません。しかしそれらを通して、看護に携わる人として、そして社会人として必要なコミュニケーション能力について、ともに考えていきましょう。</p>					

科目名	日本語表現法		単位数	1	時間数	15
開講時期	1年次 前期	担当者	大場理恵子			
設定理由	日本語によるコミュニケーションの基本を理解し、演習によって身につけるため					
科目目標	1. 相手に分かりやすく伝えることができるようになる。 2. 論理的な文章が書けるようになる					
回数	学習内容					学習形態
1	効果的な自己紹介	オリエンテーション・効果的な自己紹介をする				講義と演習
2	メールの書き方	メールのルールを理解し、効果的なメールを書く				講義と演習
3	伝えるコツ	伝えるコツを使って文章を書く				講義と演習
4	論理的文章	論理的文章作成のポイントを理解し、文章を書く				講義と演習
5	スピーチのコツ	構成のしっかりしたスピーチをする				講義と演習
6	レポート作成の基本①	レポートの構成を知る				講義と演習
7	レポート作成の基本②	構成のしっかりとしたレポートを作成する				講義と演習
8	レポート作成の基本③	学習したことを振り返る				講義と演習
評価方法	出席状況、提出物、授業態度等により総合的に評価する。					
使用テキスト	配布資料					
参考図書	授業中に紹介する					
留意点	成績は、授業中の課題への取り組み、宿題、テストなどを総合して判定する。					

科目名	化学		単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 前期	担当者	岡野 孝			
設定理由	<p>医療現場を含めたこの世界は、数限りない化学物質で満たされています。人体自体が化学物質の塊であるということができます。この世界を「分子」という言葉で表現するのが「化学」です。分子は見ることはできませんが、分子がどのようにできていて、どのようにふるまうと、現実として目に見えるものになるのか、目の前に起こっていることを理解できるようになるのかを考えるのが化学です。この講義では、化学の基礎と有機化学の基礎を学びます。この後に学ぶ生化学や薬理学で出てくる幾多の物質を、呪文のように覚えるのではなく化学の言葉で理解できるようになりましょう。</p>					
科目目標	物質の物理的・化学的性質と化学反応を理解し、生命現象を構成する原理を学ぶ。					
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. この世界を作るもの……元素</li> <li>2. 原子と電子</li> <li>3. イオン性化合物と分子性化合物</li> <li>4. モルで考える化学反応</li> <li>5. 気体の性質(気体の体積と圧力)</li> <li>6. 液体・溶液と濃度</li> <li>7. 反応速度と化学平衡</li> <li>8. 酸と塩基</li> <li>9. 有機化合物の構造と命名法</li> <li>10. 炭化水素</li> <li>11. アルコール・フェノール・チオール・エーテル</li> <li>12. カルボニル化合物(アルデヒドとケトン)</li> <li>13. カルボン酸とエステル</li> <li>14. アミンとアミド</li> </ol>					
評価方法	筆記試験					
使用テキスト	アメリカの看護教育で使われている教科書(Structure of Life : 生命の構造)の一部を抄訳したプリントを配布する。					
備考						

科目名	生活と科学		単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 前期	担当者	野村宏次			
設定理由	私たちが日常生活で出会う物質や身近な現象を科学的な視点から取り上げて、理解しやすいかたちで解説する。					
科目目標	暮らしの中のいろいろなことを科学的に見ることによって、科学を身近に感じ、「科学好き」になってもらえることを目的にしたい。					
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 台所から変えていく地球環境 「地球規模」で考え、具体的な行動は「足元」の一步から</li> <li>2. 食生活の科学 食と環境問題／スーパーマーケットから食の生活を考える</li> <li>3. 飲料水の科学 おいしい水とは／ミネラルウォーター／清涼飲料水</li> <li>4. 衣生活の科学 衣と環境問題／衣料用防虫剤／紫外線カット加工繊維製品</li> <li>5. 住生活の科学 冬暖かく夏涼しい家／住まいと健康</li> <li>6. 気をつけたい台所の洗剤 酸性・アルカリ性洗剤の混合に注意／用途別洗剤は必要か</li> <li>7. 大量消費型生活とごみ問題 ごみから暮らしを考える／リサイクルと再利用</li> <li>8. エネルギーと環境問題 省エネが地球を救う／クリーンエネルギーの可能性</li> <li>9. 暮らしの中の石油 衣食住を石油が支える／石油資源の寿命</li> <li>10. 自動車と環境問題 工場汚染から自動車汚染へ／ディーゼル車は環境にやさしい？</li> <li>11. 「なぜ」の科学 なぜ薬をお茶で飲んではいけないのか／なぜ二日酔いは起こるのか、他</li> <li>12. 環境ホルモン ホルモンと内分泌攪乱化学物質／ヒトへの影響は？</li> <li>13. 化粧品の科学 化粧品の全成分表示／サンスクリーン(UVカット)化粧品</li> <li>14. ダイエットの科学 遺伝子とダイエット／ファストフードと肥満／早食いは太る？</li> <li>15. 江戸時代にみる日本型環境保全の源流 江戸時代の生活こそが生きのびる知恵の原点</li> </ol>					
評価方法	出席状況、授業態度、定期試験の結果などから、総合的に評価する。					
使用テキスト	なし					
備考	参考資料を随時配布する。					

科目名	情報科学		単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 前期	担当者	中原直哉			
設定理由	<p>医療の分野に電子カルテの導入が急速に進められている。  これは、①国民が安心できる医療の提供、②医療費の削減、③医療従事者の効率化を目的とした国が目指す21世紀の医療の姿による。</p> <p>こうした環境で医療に従事する者には、「読み、書き、そろばん」と言われる情報リテラシーの知識を活用して、効果的に活動するための現状の情報の整理方法やサービスを提供するために新たに情報を作り出すための知識が必要になる。</p> <p>そこで、これらの知識を修得することを目的として、実際のデータを使用し演習を中心に授業を行う。</p>					
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報の意義について理解し、看護活動に活用できる基礎的能力を養う。</li> <li>2. 情報処理の基本的考え方、方法を理解する。</li> </ol>					
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慈恵Web Mailの使い方</li> <li>2. e-learningの使い方</li> <li>3. Zoomの使い方・Wordの基本操作 その1</li> <li>4. Wordの基本操作 その2</li> <li>5. Excelの基本操作</li> <li>6. Power Pointの基本操作</li> <li>7. Word・Excel・Power Pointの応用</li> <li>8. 情報リテラシー</li> </ol>					
評価方法	演習課題と出席により総合的に評価する					
使用テキスト	太田勝正 前田樹海著 エssenシャル看護情報学 医歯薬出版 坪井博之 ナースのためのデータ処理 技術評論社					
備考						

科目名	社会学		単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 前期	担当者	島村賢一			
設定理由	<p>社会学的なもの見方は、看護領域にとっても今後ますます必要になっていくだろう。看護するということは、病気やケガだけではなく、患者の家族構成や、患者と家族の関係、また病院という組織や地域社会における看護職の役割、さらにそれらの日本や世界での位置付けなど、まさに人と人との間の問題、個人と社会という問題を考えていかざるを得ないからである。人間の生活は他者との関係性なしには成り立たない。</p>					
科目目標	<p>1. 社会的存在としての人間について、家族・地域社会・職場・市場・国家・グローバル化等と具体的に関連させながら理解を深め、社会への洞察力を育成する。</p> <p>2. 社会的視点を身につけ今後の看護活動に生かす。</p>					
講義内容	<p>1. 社会学とは何か</p> <p>2. 社会における個と集団</p> <p>3. ライフサイクルと人間の生活</p> <p>4. 地域社会における人間の生活</p> <p>5. 家族論の基礎</p> <p>6. ジェンダーの基礎</p> <p>7. 少子高齢化問題</p> <p>8. 労働世界の変容、民族問題</p> <p>9. 社会調査法</p>					
評価方法	筆記試験					
使用テキスト	<p>・毎回の講義で逐次配布するレジュメ</p> <p>・テキスト現代社会学 松田健著 ミネルヴァ書房 2003年</p>					
備考						

科目名	人間関係論Ⅱ		単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 前期	担当者	荒井志世			
設定理由	<p>魅力的な生きものである人間について、様々な角度から近づいてみたいと思います。心理学は、人間とはどんな存在なのか、という興味から出発し、人間の行動を、手がかりにして、科学的なやり方で、人間を知ろうとしている学問です。</p> <p>対人間の仕事をする時に大切なことは、人間についての十分な理解を持っていることではないかと考えます。なかでも看護は、患者の肉体的な健康をとりもどすことを目指すと同時に、大きなストレスを受けているであろう患者の精神的な支えになることも求められる仕事であり、人間を理解することを、最も求められる仕事かも知れません。</p> <p>深い人間理解と、そこから生まれる自分自身への理解の上に立った、よりよい人間関係を築く力の基礎を心理学から学ぶ。</p>					
科目目標	人間の形成・知能・発達心理などについて学び人間及び自己への理解を深める。					
講義内容	<p>1. 人間を心理学から理解する【前期】</p> <p>➢「認知」からの人間理解： 感覚・知覚、記憶・想起、言語とコミュニケーションから人間理解を深める</p> <p>➢「行動」からの人間理解： 欲求・動機づけ、葛藤とフラストレーション、学習と行動から人間理解を深める。</p> <p>➢「発達」からの人間理解： 他の哺乳類に比べると、生理的早産といわれる様な、未熟な状態で生まれてしまった人間が、人間らしく成長していく過程、人間は人間社会の中で人間となっていくといわれるのはどんなことなのか。発達段階と発達課題を通して人間理解を深める。</p> <p>➢「パーソナリティ」からの人間理解： パーソナリティとは、知能とは、性格の理解を通して人間理解を深める。</p> <p>2. 自己理解からの人間理解する【後期】</p> <p>知能、性格、自己と自己意識、パーソナリティから人間理解を深め、自己理解に繋げていく。</p>					
評価方法	筆記試験、レポート、出席状況、参加態度なども含めて総合的に評価する					
使用テキスト	メヂカルフレンド社 心理学					
備考						

科目名	医療に関する英会話		単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 前期	担当者	栗田智子			
設定理由	学習者に将来役立つ看護師のための英会話について聴き、読み、話す活動、さらに意見や情報を書く活動を通して、英語の受容・発信力を高める。					
科目目標	医療・看護に関する語彙・表現を学び、英語の受容・発表力を養う。					
講義内容	<p>「看護師のための英会話ハンドブック」 東京化学同人</p> <p>この教材は実践的な病院での看護師と患者との会話に必要な語彙、表現が盛り込まれている。場面に応じた会話表現を学ぶことができる。</p> <p>授業では毎時以下の項目を扱う</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 総合案内—初診者への対応</li> <li>② 総合案内—受診科相談</li> <li>③ 総合案内—院内順路案内</li> <li>④ 問診・症状確認</li> <li>⑤ 診察介助</li> <li>⑥ 救急外来</li> <li>⑦ 入院—自己紹介</li> <li>⑧ 入院—病棟案内</li> <li>⑨ オリエンテーション—ベッド周り</li> <li>⑩ 退院準備</li> </ol>					
評価方法	小テスト、レポート、授業での発表、定期試験で総合的に評価する。					
使用テキスト	看護師のための英会話ハンドブック 東京化学同人					
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎回小テストをするので授業の復習をしてくること。</li> <li>2. 忘れ物をしないこと。</li> <li>3. 不要なものは机に置かないこと。</li> </ol>					

科目名	保健体育		単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 前期	担当者	須田和裕			
設定理由	球技や競技を通し、身体の育成及び健康安全に対する習慣化と責任ある態度や好ましい人間関係を深め、看護学生として望ましい心身の健康を養おうとするものである。単に、運動能力の向上のみをねらうものではない。					
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健体育の意義を理解し、健全な心身の発達を促す。</li> <li>2. 創造性・感性を養い協調性を培う。</li> </ol>					
講義内容	<p>教材には、バレーボール、バスケットボール、テニス、バドミントン、ユニホックなどを取り入れる。</p> <p>授業の主役は学生自身である。苦手な種目であっても仲間に迷惑をかけず、楽しくプレーできる努力をする。また、得意な種目では、リーダーシップを発揮し、仲間をサポートするよう心がける。</p>					
評価方法	出席率、参加態度、技能などから総合的に評価する。					
備考	<p>注意点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 体育実技の参加に関しては、服装は身体の運動を妨げないものとし、運動靴あるいは体育館シューズを着用する。</li> <li>2. 貴重品は携帯しない。</li> <li>3. 体調のすぐれない時や疾病の時は、その都度申し出て指示を受ける。</li> <li>4. 爪は短く、装飾品は身につけない。</li> </ol>					

科目名	哲学		単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 前期	担当者	野村宏次			
設定理由	哲学の授業が、これから看護に関わる者にとって、有用な意義を持つものであることを認識してもらえることに重点を置く。					
科目目標	一見堅苦しく思える哲学的な考え方、自らの身近な問題としてとらえ、興味を持って学んでもらえるような授業にしたい。					
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 哲学とはなにか 哲学を学ぶ意義／哲学とは何か／哲学と看護理論の関連性</li> <li>2. 人間らしさとは「アイスブレイキング」による自己開示 自己開示とフィードバック</li> <li>3. ソクラテスの哲学 思想(「無知の地」、「アレテー」)／産婆術／ソクラテスの弁明</li> <li>4. プラトンの哲学 「イデア論」／倫理的思考／プラトンの哲学の後世への影響</li> <li>5. アリストテレスの哲学 論理学／自然学／4つの「原因」／万学の祖／後世への影響力</li> <li>6. 哲学に関するグループ討論(その1) ソクラテス、プラトン、アリストテレスの思想の違いと位置づけ</li> <li>7. 哲学に関するグループ討論(その1) 「尊厳死」、「生き方」についての哲学的な視点からの討論</li> <li>8. わたしの人生哲学 「生あるかぎり夢を追い続けるロマン」</li> <li>9. 看護ケアにおける人間関係のとらえ方 対話的關係の展開／援助的役割を実現するためのガイドライン</li> <li>10. コミュニケーション 言語的・非言語的コミュニケーション／看護ケアへの応用</li> <li>11. 終末期の患者を支える人間関係 患者を知る／患者の反応に対する看護師のケア／その人らしさの尊厳</li> <li>12. 性善説と性悪説 孔子の思想／孟子の思想／荀子の思想／性善説と性悪説</li> <li>13. 哲学に関するグループ討論(その3) 「性善説」と「性悪説」についての自由討論</li> <li>14. 哲学から見た看護 ナイチンゲールの言葉／看護と表現／看護者と患者の「近さ」と「隔たり」</li> <li>15. まとめ 第1回から第14回までの講義内容の総まとめ</li> </ol>					
評価方法	出席状況、授業態度、定期試験の結果などから、総合的に評価する。					
使用テキスト	なし					
備考	参考資料を随時配布する					

科目名	医療に関する英語専門用語		単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 前期	担当者	バリー・ミラー			
設定理由	<p>専門的な文献を通読するための文法力・読解力を養うことを主な目標にしています。中学・高校を通して学んできた文法事項を、基礎的なことも含めてもう一度整理しつつ、専門的なボキャブラリーの養成にも力を入れていきます。使用するテキストは、簡単な会話や作文などの能力も同時に身につくような内容になっています。</p>					
科目目標	語学力を高め、医学・看護についての文献を理解する能力を養う。					
講義内容	<p>この授業は、英語というひとつの言語を通して、異なる文化や習慣にもできるだけ多く触れて欲しいと思いますので、テキストの他に多種のプリントを適宜使用する予定です。これまで英語に対して苦手意識を持っていた人も、肩の力を抜いて受講して下さい。</p> <p>ただし、限られた時間数のなかで、多岐にわたる内容を効率よく消化するためには、家での予習・復習は不可欠です。必ず事前にテキストに目を通してから、授業に出席するようにして下さい。</p>					
評価方法	筆記試験、出席状況、授業参加態度にて、総合的に評価する。					
使用テキスト	なし					
備考						

科目名	教育学		単位数	1	時間数	15
開講時期	2年次 後期	担当者	野村宏次			
設定理由	看護という営みの水準を上げるためには、教育学的教養を身につけてもらうための授業が必要である。					
科目目標	教育学を学ぶことが、将来、看護師としての水準を高めることにつながるとの認識を持ってもらえるための一助となるような授業にしたい。					
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の成長と教育の意義 教育は「人間」を相手にする／意図的な人間形成作用としての教育</li> <li>2. 教育の目的 教育目的における個人と社会／包括的目的から具体的目標へ</li> <li>3. 家庭教育 家庭での教育の性格／現代の家庭と教育の問題</li> <li>4. 生涯学習支援の社会教育 学習社会から生涯学習社会へ／人間性の回復と社会教育</li> <li>5. 学習指導 学習指導の意義／学習指導の原理／学習指導の形態</li> <li>6. 生活指導 目標にそった方法／人間的ふれあいが基盤／集団指導</li> <li>7. 教育評価 教育評価の意義と目的／自己評価とフィードバック</li> <li>8. 看護と教育 第1回から第7回の講義のまとめ／看護師を目指すみなさんへのメッセージ</li> </ol>					
評価方法	出席状況、授業態度、定期試験の結果などから、総合的に評価する。					
使用テキスト	なし					
備考	参考資料を随時配布する。					

科目名	英文読解		単位数	1	時間数	30
開講時期	3年次 前期	担当者	バリー・ミラー			
設定理由	<p>国際社会における日本の役割が増し、世界の多くの人々から注目を浴びている今、医療の分野でも国際共通語としての英語をコミュニケーションの手段として使える日本人が求められています。外国人の患者さん、その家族への対応、海外での医療援助などの機会は今後ますます増えてくるでしょう。</p> <p>学生の英語に対する苦手意識をできるだけ取り除き、読み、書き、話すといった基本的な能力を伸ばし、英語圏の文化や海外の諸事情などの紹介により、視野がより広がることを目指します。</p>					
科目目標	英語の総合力を高め、医学・看護についての文献を理解する能力を養う。					
講義内容	<p>英語の授業では、医療、看護、介護に焦点を置いた“English for Manner and Hospitality”という教科書を使い、外国人の患者さんとの会話、接し方が身につくよう指導をします。授業では積極的に英語を話し、英語に慣れることに重点をおき、適宜、プリントを使いながら、英作文、英語の歌、ビデオ、国際協力と医療の講義などを盛り込んでバラエティーにとんだ授業をしていきます。</p>					
評価方法	筆記試験、出席状況、授業参加態度にて総合的に評価する。					
使用テキスト	なし					
備考						

## 2. 専門基礎分野

---

人体の構造と機能

疾病の成り立ちと回復の促進

健康支援と社会保障制度



## 1. 考え方

専門基礎分野は、基礎分野と共に専門分野である看護学を学ぶ上で土台となる領域である。

ここでは、「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「社会保障制度と生活者の健康」を学ぶ。内容としては、人体の発生と構成、形態と機能について学び人間の生命につながる営みである日常生活行動の理解を深める。そして、人間を生活者として全人的にみつめ、看護の視点から病的状態に至る過程とその変化に注目し、回復を促進させるメカニズムを理解する。

さらに、今日の保健医療福祉の動向と生活者が健康な生活を確保するための社会保障制度を学び、よりよく生きようとする社会的存在としての人間理解を深める。

従って、ここでのねらいは、専門基礎分野の学びを通して、看護のためのアセスメント能力を養うことである。

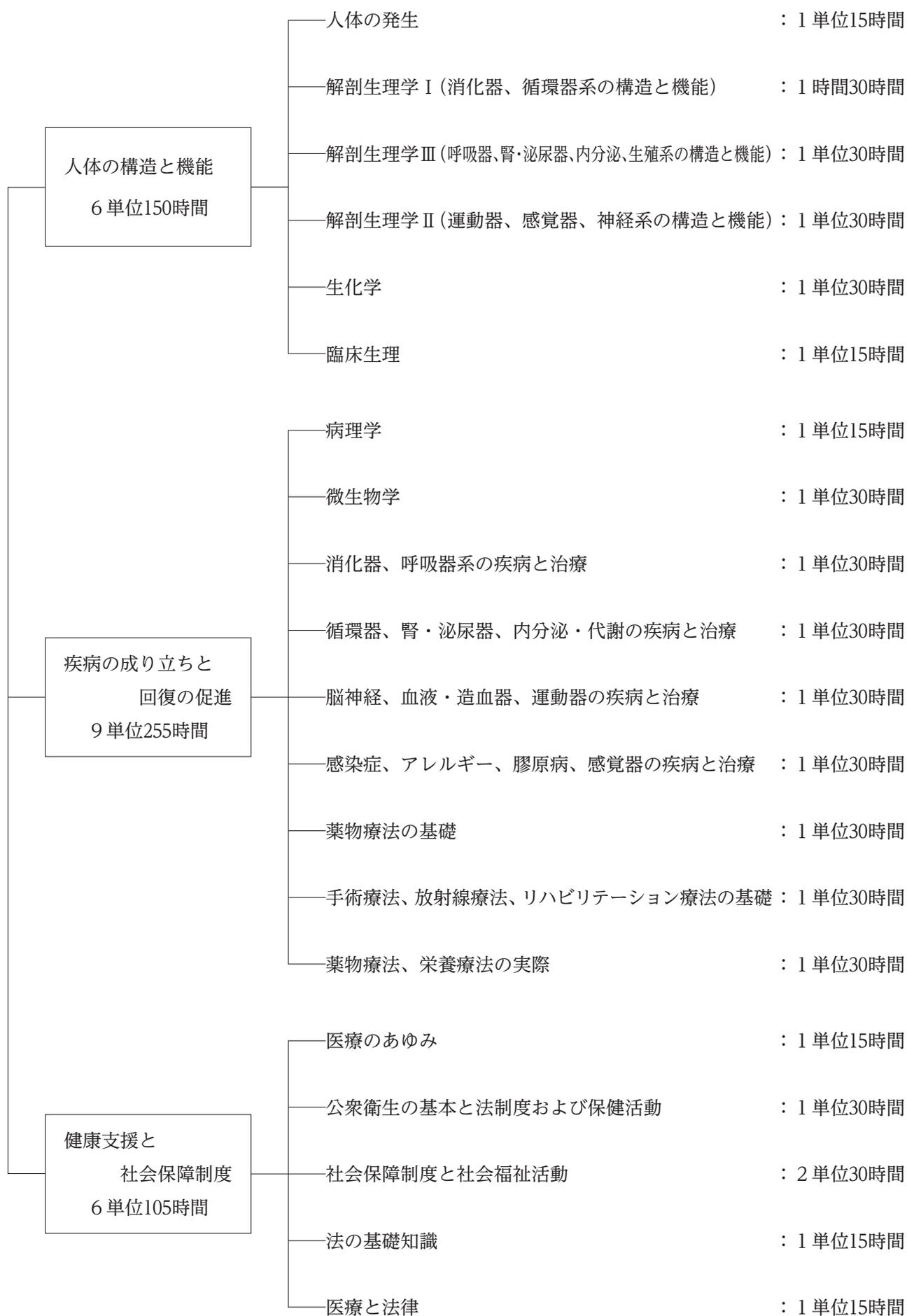
## 2. 目的

- 1) 人体の正常な構造と機能を学び、看護ケアに必要な日常生活行動の仕組みと意味を理解する。
- 2) 生活との関連において、健康から疾病にいたる変化のプロセスと回復のメカニズムを理解する。
- 3) 生活者の健康を守る保健医療福祉を理解する。

## 3. 目標

- 1) 人体の発生と構成、構造と機能を理解する。
- 2) 人体の構成成分や代謝を理解する。
- 3) 系統別疾患の病態、治療、検査について理解する。
- 4) 薬物の特徴、作用機序、人体への影響を理解する。
- 5) 微生物の特徴と人体に及ぼす影響を理解する。
- 6) 各栄養素の栄養的意義と臨床栄養の実際を理解する。
- 7) 公衆衛生の諸統計と保健活動を理解する。
- 8) 保健医療福祉の動向と制度を理解する。
- 9) 医療従事者に関する法規を知り、医療従事者としての義務と責任を理解する。

## 4.構成



## 人体の構造と機能



科目名	人体の発生		単位数	1	時間数	15
開講時期	1年次 前期	担当者	寺坂 治			
設定理由	<p>生物はそれぞれの種がもつ遺伝子の働きにより、受精卵あるいは孢子などを出発点として種固有の特徴をもつ成体へと発達する。この過程を発生と呼ぶ。ヒトは単細胞である受精卵を出発点とし、発生・成長の過程を経て約37兆個の細胞が複雑かつ厳密に構築された成体へと成長する。本講義では、(1)ヒトの生殖細胞の形成と受精の機構、(2)受精卵から胎児が形成される胚発生の機構、さらに(3)その過程を支える細胞の挙動や遺伝子の働きについて学ぶ。</p>					
科目目標	人体の発生について理解する。					
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受精と発生</li> <li>2. 発生と遺伝子 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人体を構成する物質(タンパク質)</li> <li>2) 人体の設計図(DNAとRNA)</li> <li>3) 細胞増殖とDNAの複製・分配</li> <li>4) DNAの働き(転写・翻訳)</li> </ol> </li> <li>3. 生殖細胞の形成と染色体</li> <li>4. 遺伝病と染色体異常症</li> <li>5. 発生における細胞の分化・老化・死</li> </ol>					
評価方法	筆記試験					
使用テキスト	人体の構造と機能(1) 解剖生理学 医学書院					
備考						

科目名	解剖生理学 I (消化器、循環器の構造と機能)				単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 前期			担当者	岡部正隆			
設定理由	看護アセスメントするためには、生命維持における重要臓器の構造と機能の基礎的知識を学ぶ必要がある。解剖生理学 I では、人体がその機能を発揮するための基本的な人体の構造を学修する。							
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の構造を、解剖用語を使って説明できる。</li> <li>2. 諸器官の形態と機能を系統別に整理して説明できる。</li> <li>3. 器官系間の相互連携を機能と関連づけて説明できる。</li> <li>4. 正常な構造・機能が破綻した場合、どのような病態が出現するか説明できる。</li> </ol>							
講義内容	回	月日	曜日	時間	講義内容			
	1	4月13日	火	10:40~12:10	解剖学総論	オンデマンド授業		
	2	4月20日	火	10:40~12:10	骨格系	オンデマンド授業		
	3	4月27日	火	10:40~12:10	筋系	オンデマンド授業		
	4	5月11日	火	10:40~12:10	中枢神経系	オンデマンド授業		
	5	5月18日	火	10:40~12:10	末梢神経系	オンデマンド授業		
	6	5月25日	火	10:40~12:10	感覚器系	オンデマンド授業		
	7	6月3日	木	13:00~16:00	見学解剖実習 1	登校授業(西新橋)		
	見学解剖実習 2				登校授業(西新橋)			
	9	6月8日	火	10:40~12:10	循環器系・呼吸器系	オンデマンド授業		
	10	6月15日	火	10:40~12:10	血液・リンパ系・免疫	オンデマンド授業		
	11	6月22日	火	10:40~12:10	消化器系	オンデマンド授業		
	12	6月29日	火	10:40~12:10	泌尿器系・内分泌系	オンデマンド授業		
	13	7月6日	火	10:40~12:10	生殖器系・発生	オンデマンド授業		
	14	7月15日	木	13:00~16:00	見学解剖実習 3	登校授業(西新橋)		
15	見学解剖実習 4				登校授業(西新橋)			
評価方法	終講試験70%、提出課題への取り組み30%の割合で、評価を行う。							
使用テキスト	坂井建雄/橋本尚詞著 「ぜんぶわかる人体解剖図」 成美堂出版							
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 登校授業は15分以上の遅刻は欠席とする。</li> <li>2. 提出課題へのフィードバックはMoodle上にて個別に行う。</li> <li>3. 講義資料で、当該領域の全容を把握し、指定教科書の指定のページを熟読し、知識を深め、提出課題に取り組むこと。</li> <li>4. 知識を十分に定着させるために、復習のための学修時間は各講義あたり60分程度が望ましい。</li> <li>5. 疑問点や理解できなかった点は、積極的にe-ラーニング上で質問して解決すること。</li> </ol>							

科目名	解剖生理学Ⅲ(呼吸器、腎・泌尿器、内分泌、生殖系の構造と機能)			単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 前期		担当者	渋谷まさと			
設定理由	看護のアセスメントに活かせるためには、生命維持における重要臓器の構造と機能の基礎的知識を学ぶ必要がある。						
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸器系の構造と機能について理解する。</li> <li>2. 腎・泌尿器系の構造と機能を理解する。</li> <li>3. 体温とそのメカニズムを理解する。</li> <li>4. 体液・電解質について理解する。</li> <li>5. 内分泌・生殖器系の構造と機能について理解する。</li> <li>6. 内部環境の恒常性について理解する。</li> </ol>						
講義内容	回	月日	曜日	時間	講義内容		
	1	5月6日	木	14:40~16:10	呼吸の生理学		
	2	5月12日	水	14:40~16:10	呼吸の生理学		
	3	5月19日	水	14:40~16:10	血液の生理学		
	4	5月26日	水	14:40~16:10	血液の生理学		
	5	6月3日	木	10:40~12:10	循環の生理学		
	6	6月9日	水	14:40~16:10	循環の生理学		
	7	6月16日	水	14:40~16:10	腎機能と排尿の生理学		
	8	6月23日	水	14:40~16:10	腎機能と排尿の生理学		
	9	6月30日	水	14:40~16:10	消化吸収の生理学		
	10	7月7日	水	14:40~16:10	消化吸収の生理学		
	11	7月14日	水	14:40~16:10	内分泌の生理学		
	12	7月21日	水	14:40~16:10	内分泌の生理学		
	13	7月27日	火	13:00~14:30	自律神経系と生体の機能		
	14	9月1日	水	14:40~16:10	自律神経系と生体の機能		
	15	9月8日	水	14:40~16:10	まとめ		
評価方法	授業期間でのまとめ試験、ならびに終講試験で評価する。						
使用テキスト	「一歩一歩学ぶ生命科学」 <a href="http://life-science-edu.net/">http://life-science-edu.net/</a> の一部を慈恵eラーニングに掲載する。						
備考							

科目名	解剖生理学Ⅱ(運動器、感覚器、神経系の構造と機能)			単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 前期		担当者	竹森 重			
設定理由	看護アセスメントするためには、ヒトの身体の仕組みを学ぶ必要がある。解剖生理学Ⅱでは、生体を調節する機能、具体的にはヒトを動物として特徴づける機能(神経・筋・感覚・中枢)と、体温調節、生殖機能を学ぶ。						
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヒトを動物として特徴づける機能(神経・筋・感覚・中枢)と、体温調節、生殖機能について、かかわる疾患を構造と機能の関連の視点から理解できるようになる。</li> <li>2. 講義ごと課題のまとめに対する教員からのフィードバックをもとに、自らの学修態度を振り返り、修正できる。</li> </ol>						
講義内容	回	月日	曜日	時間	講義内容		
	1	5月6日	木	9:00~10:30	ホメオスタシスと健康 中枢・末梢神経系の概要		
	2	5月13日	木	9:00~10:30	興奮の伝導と伝達		
	3	5月20日	木	9:00~10:30	中枢神経系の機能的構成		
	4	5月27日	木	9:00~10:30	骨格筋の収縮機構		
	5	6月3日	木	9:00~10:30	骨格筋の収縮調節		
	6	6月10日	木	9:00~10:30	脊髄の反射・体性感覚		
	7	6月17日	木	9:00~10:30	嗅覚と視覚		
	8	6月24日	木	9:00~10:30	聴覚・平衡覚・味覚		
	9	7月1日	木	9:00~10:30	中枢の高次機能		
	10	7月8日	木	9:00~10:30	自律神経系の原則		
	11	7月15日	木	9:00~10:30	体温調節		
	12	7月22日	木	9:00~10:30	生殖		
	13	9月2日	木	9:00~10:30	妊娠と分娩		
	14	9月9日	木	9:00~10:30	まとめ		
15	9月9日	木	10:40~12:10	まとめ			
評価方法	定期試験での筆記試験40%と、「課題のまとめ」で評価する取り組み60%で評価する。						
使用テキスト	医学書院 系統看護学講座：解剖生理学(人体の構造と機能1：坂井建夫、岡田隆夫)						
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習に関して：使用テキストの図とその説明をまず理解するように努めると良い。インターネットからの情報を利用することは避けた方が良い。</li> <li>2. 予習・講義・復習の時にしっかり教科書に書き込みをして親しんでおくことが良い。学年が進んで忘れかけたことがあっても教科書に戻れば理解を取り戻すことができるし、定期試験にも役に立つからである。</li> <li>3. 「課題のまとめ」に対するフィードバックを活用すること。</li> </ol>						

科目名	生化学(含栄養学)		単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 後期	担当者	秋月摂子			
設定理由	病気の症状がなぜ起きているかを分子レベルで化学反応の知見より考察し、薬や治療が生体に起こす作用を推測できるようになるための基礎知識を学習する。					
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生体を構成する細胞について知る。</li> <li>2. 生物体を構成する主要な有機成分である蛋白質(アミノ酸)、糖質、脂質の三大栄養素についてその基本的化学構造、その生体内での機能について理解を深める。</li> <li>3. 生体触媒としての酵素についての働きを知る。</li> <li>4. 蛋白質、糖質、脂質の代謝とエネルギー産生について学ぶ。</li> <li>5. ヘモグロビンの代謝と疾患との関連を学ぶ。</li> <li>6. 窒素を含む生体物質と栄養素の排泄についても習得する。</li> <li>7. 遺伝の基本と遺伝子について学ぶ。</li> </ol>					
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生化学を学ぶ上で必要な化学の知識</li> <li>2. 生命維持に必要な栄養素の構造と性質 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 細胞</li> <li>2) 糖類</li> <li>3) 脂質</li> <li>4) アミノ酸とタンパク質</li> <li>5) 核酸とヌクレオチド</li> <li>6) ビタミン</li> </ol> </li> <li>3. 酵素</li> <li>4. さまざまな代謝 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 糖質代謝</li> <li>2) 脂質代謝</li> <li>3) タンパク質とアミノ酸の代謝</li> <li>4) 核酸の排泄</li> <li>5) 窒素の排泄</li> </ol> </li> <li>5. 遺伝情報と遺伝子の発現</li> </ol>					
評価方法	筆記式試験をする。(参考書・ノート持込不可) 試験結果に授業中の小テスト・レポートを含め総合的に評価する。					
使用テキスト	わかりやすい生化学      ヌーベルヒロカワ					
備考	<p>〈学習上の注意事項〉</p> <p>生物の構成成分とその機能について研究する生化学の知識がなくては関連する生理学、薬理学はもちろんのこと疾患の基礎的理解も出来ない。</p> <p>〈関連科目〉</p> <p>生物学、生理学、栄養学、遺伝学、病理学、内科学、薬理学など</p>					

科目名	臨床生理		単位数	1	時間数	15
開講時期	1年次 後期	担当者	葛谷辰枝			
設定理由	看護のアセスメントに活かせるためには、生命維持においての重要臓器の構造と機能の基礎的知識を学ぶ必要がある。その上で、病態を看護の視点でどのように捉えるかを考える。					
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主な症候を病態生理学的にとらえ、その症状がどのようなしくみで出現するか学び、病態の把握方法を理解できる。</li> <li>2. 症候のメカニズムを学ぶことで疾病論の理解や看護ケアの根拠を深めることができる。</li> </ol>					
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 消化・吸収の異常が起こるメカニズムとその症候および異常を把握する方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 排便の異常：下痢・便秘</li> <li>2) 栄養状態の異常：肥満・痩せ</li> </ol> </li> <li>2. 体液・電解質バランスの異常が起こるメカニズムとその症候および異常を把握する方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 尿の異常：多尿・乏尿、無尿</li> <li>2) 浮腫・脱水</li> </ol> </li> <li>3. 呼吸の異常が起こるメカニズムとその症候および異常を把握する方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 呼吸異常の症候：呼吸困難、チアノーゼ</li> </ol> </li> <li>4. 血液の異常が起こるメカニズムとその症候および異常を把握する方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 酸素運搬の異常：貧血</li> <li>2) 止血の異常：出血傾向</li> </ol> </li> <li>5. 黄疸の起こるメカニズムと身体に及ぼす影響</li> <li>6. 発熱の起こるメカニズムと身体に及ぼす影響</li> <li>7. 疼痛の起こるメカニズムと身体に及ぼす影響</li> </ol>					
評価方法	筆記試験					
使用テキスト	看護過程に沿った対症看護－病態生理と看護のポイント－ 学習研究社					
備考						

## 疾病の成り立ちと回復の促進



科目名	病理学		単位数	1	時間数	15
開講時期	1年次 後期	担当者	原田 徹 他			
設定理由	将来どの科の看護業務に携わっても必要になると思われる、病気や病態に関する病理学的用語の理解をする。					
科目目標	病変による人体の変化を理解し、系統別疾患の病態生理の基礎とする。					
講義内容	1. 病理学とは 進行性病変、退行性病変  2. 先天異常(奇形)  3. 変性・代謝障害  4. 循環障害  5. 炎症  6. 免疫  7. 感染症  8. 腫瘍					
評価方法	筆記試験をする。 試験結果に出席状況、授業態度、復習テスト結果を含め総合的に評価する。					
使用テキスト	疾病の成り立ち回復の促進(1) 病理学 医学書院					
備考						

科目名	微生物学		単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 後期	担当者	関 啓子			
設定理由	看護教育における微生物学は、看護の職業についての時、感染症の患者から自らの身を守る方法や、患者の感染症の発症を防ぐ方法、治療法を科学的に理解するための基礎的な知識を学ぶためのものである。したがって、病原体(主として病原微生物)並びに免疫学の基礎的な知識を学ぶことになる。					
科目目標	微生物の特徴と人体に及ぼす影響を学び、感染予防の重要性と予防方法を理解する。					
講義内容	<p>1) 微生物とは：6時間 微生物の概念、病原微生物の分類、主要な病原微生物</p> <p>2) 消毒、滅菌、無菌操作：6時間 消毒と滅菌の概念、無菌操作、各種滅菌法、各種消毒法</p> <p>3) 感染、発病について：4時間 感染と発病の概念、外因感染と内因感染、顕性感染と不顕性感染、潜伏感染と持続感染、日和見感染、常在細菌叢と菌交代症</p> <p>4) 化学療法と薬剤耐性：2時間 化学療法の基本概念、薬剤耐性菌出現の機構</p> <p>5) 免疫の基本知識：6時間 免疫の概念、体液性免疫と細胞性免疫、抗原と抗体、免疫とリンパ系細胞、血清反応、移植免疫と腫瘍免疫、自己免疫疾患</p> <p>6) 過敏症反応：2時間 過敏症反応の概念、過敏症反応の分類</p> <p>7) 予防接種と血清療法：4時間 予防接種と血清療法の違い、ワクチンの種類</p>					
評価方法	全般的に知識を習得しているかどうかをみるためと記述能力を高めるため、正誤問題と記述形式の問題で筆記試験を行う。					
使用テキスト	疾病の成り立ちと回復の促進(4) 微生物学 医学書院					
備考	[学習上の注意事項] 積極的な態度で授業に臨み、疑問点については講義中あるいは講義終了後直ちに質問するようにし、できるだけ授業時間内に講義内容を理解するよう努力してほしい。					

科目名	薬物療法の基礎		単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 後期	担当者	西 晴久、川村将仁			
設定理由	看護のアセスメントに活かせるためには、主要な治療法である薬物療法の基礎的知識を学ぶ必要がある。					
科目目標	薬物の特徴、作用機序、人体に及ぼす影響を理解し、取り扱いや管理方法を学ぶ。					
講義内容	<p>1. 薬物学総論</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 薬とはどのようなものか</li> <li>2) 薬が効く仕組み(薬理作用)</li> <li>3) 薬物の体内動態</li> <li>4) 薬効に影響を及ぼす要因</li> <li>5) 薬物の有害作用</li> <li>6) 薬物の適用と処方</li> </ol> <p>2. 薬物学各論</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 中枢神経系に作用する薬物</li> <li>2) 末梢神経系に作用する薬物</li> <li>3) 心臓・血管系に作用する薬物</li> <li>4) 炎症に対する薬物</li> <li>5) 内分泌系に作用する薬物・ビタミン</li> <li>6) 呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物</li> <li>7) アレルギーに対する薬物</li> <li>8) 抗感染症薬・抗がん薬</li> <li>9) その他の薬物</li> </ol>					
評価方法	筆記試験					
使用テキスト	疾病の成り立ちと回復の促進[2]・薬理学		医学書院			
備考						

科目名	手術療法、放射線療法、リハビリテーション療法の基礎		単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 後期	担当者	ハシチウォヴィッチ・トマシュ、豊田圭子、渡邊 修 他			
設定理由	看護のアセスメントに活かせるためには、主要な治療法である手術療法、放射線療法、リハビリテーション療法の基礎的知識を学ぶ必要がある。					
科目目標	1. 疾病の回復を促進する各治療の原理を理解する。 2. リハビリテーションの概念とリハビリテーション技術を学ぶ。					
講義内容	1. 手術療法：8時間 1) 外科の進歩と変遷 2) 外科的侵襲と生体反応 3) 無菌法 4) 麻酔 5) 輸液と輸血 6) 酸素療法と人工換気 7) 心肺蘇生 8) ショック 9) 脳死 10) 疼痛管理  2. 放射線療法：10時間 1) 放射線の身体に及ぼす影響 2) 放射線防護基本と健康管理 3) 悪性腫瘍と放射線療法 4) 放射線診断 5) 造影診断  3. リハビリテーション：12時間 1) リハビリテーションの概念 2) リハビリテーションの対象の理解 3) リハビリテーションの実際 理学療法・言語療法・作業療法など					
評価方法	筆記試験					
使用テキスト	1. 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 2. 別巻 臨床放射線医学 医学書院 3. 別巻 リハビリテーション看護 医学書院					
備考						

科目名	消化器、呼吸器系の疾病と治療			単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 前期	担当者	竹田 宏、岡本友好、佐藤修二 他				
設定理由	看護のアセスメントに活かせるためには、各重要疾患と治療についての基礎的知識を学ぶ必要がある。						
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 消化器、呼吸器系に疾患をもつ患者の身体アセスメントの基礎的知識を学ぶ。</li> <li>2. 消化器、呼吸器系に疾患をもつ患者の病態生理と主な症状を理解する。</li> <li>3. 消化器、呼吸器系に疾患をもつ患者の主な検査と治療法を理解する。</li> </ol>						
講義内容	<p>消化器系：18時間(内科：10時間、外科：8時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 消化器系疾患における主要症状 (腹痛、嚥下困難、吐血、下血、食欲不振、黄疸、腹水、肝性昏睡、門脈圧亢進など)</li> <li>2. 消化器系における主要な検査 (内視鏡検査、X線検査、肝生検、腹腔鏡など)</li> <li>3. 消化性潰瘍、肝炎、肝硬変、肝不全、胆嚢胆道疾患、膵炎、炎症性腸疾患、食道癌、胃癌、大腸癌、肝臓癌、膵臓癌、イレウス、痔核などの病態</li> <li>4. 消化器系疾患における治療 (食事療法、薬物療法、手術療法、PTCD、放射線療法など)</li> </ol> <p>呼吸器系：12時間(内科：8時間、外科：4時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸器系疾患における主要症状 (呼吸困難、咯血、咳嗽、喀痰、発熱、胸痛、胸水、CO<sub>2</sub>ナルコーシスなど)</li> <li>2. 呼吸器系疾患における主要な検査 (X線、MRI、肺機能検査、気管支鏡、血液ガス、胸腔穿刺など)</li> <li>3. 呼吸不全、肺結核、肺炎、気管支喘息、気管支拡張症、肺気腫、肺腺維症、肺癌、自然気胸、乳癌などの病態</li> <li>4. 呼吸器系疾患における治療 (薬物療法、肺理学療法、手術療法、胸腔ドレナージなど)</li> </ol>						
評価方法	筆記試験						
使用テキスト	新体系看護学全書		成人看護学②	呼吸器	メヂカルフレンド社		
	〃		成人看護学⑤	消化器	〃		
備考							



科目名	脳神経、腫瘍・血液、運動器の疾病と治療		単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 前期	担当者	千石錬平、土橋史明、石井卓也 大谷卓也 他			
設定理由	看護のアセスメントに活かせるためには、各重要疾患と治療についての基礎的知識を学ぶ必要がある。					
科目目標	1. 脳神経系、腫瘍・血液系、運動系に疾患をもつ患者の身体アセスメントの基礎的知識を学ぶ。 2. 脳神経系、腫瘍・血液系、運動系に疾患をもつ患者の病態生理と主な症状を理解する。 3. 脳神経系、腫瘍・血液系、運動系に疾患をもつ患者の主な検査と治療法を理解する。					
講義内容	<p>脳神経系：12時間(内科：6時間、外科：6時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>脳神経系疾患における主要症状 (脳圧亢進症状、脳浮腫の症状、意識障害、言語障害、運動機能障害、髄膜刺激症状、痙攣、頭痛、反射異常等)</li> <li>脳神経系疾患における主要な検査(血管造影、CT、MRI、髄液検査、脳波など)</li> <li>脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血、脳動脈瘤、脳腫瘍、頭部外傷、パーキンソン病、ALS、多発性祖側索硬化症、アルツハイマーなどの病態</li> <li>脳神経系疾患における治療(手術療法、脳室ドレナージ、薬物療法、リハビリテーションなど)</li> </ol> <p>腫瘍・血液系：6時間</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>血液造血器系疾患における主要症状(貧血、出血傾向、易感染、発熱、リンパ節腫脹など)</li> <li>血液造血器系疾患における主要な検査(末梢血検査、骨髄穿刺・生検、RI、リンパ節生検など)</li> <li>鉄欠乏性貧血、再生不良性貧血、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、DICなどの病態</li> <li>血液造血器系疾患における治療(化学療法、輸血療法、骨髄移植など)</li> </ol> <p>運動器系：12時間</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>運動器系疾患における主要症状(疼痛、変形、神経麻痺、運動障害など)</li> <li>運動器系疾患における主要な検査 (関節鏡、RI、筋電図、知覚検査、など)</li> <li>骨折、大腿骨頸部骨折、骨髄炎、骨粗鬆症、椎間板ヘルニア、半月板損傷、先天性股関節脱臼、慢性関節リウマチ、などの病態</li> <li>運動器系疾患における治療 (観血的整復術、手術療法 [人工骨頭置換術など]、牽引、ギブス、装具、リハビリテーションなど)</li> </ol>					
評価方法	筆記試験					
使用テキスト	新体系看護学全書 成人看護学⑥ 脳・神経 メヂカルフレンド社 〃 ④ 血液・造血器 〃 〃 ⑪ 運動器 〃					

科目名	感染症、アレルギー、膠原病、感覚器の疾病と治療			単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 後期	担当者	平本 淳、茂木雅臣、加畑好章 小泉桃子、伊藤寿啓 他				
設定理由	看護のアセスメントに活かせるためには、各重要疾患と治療についての基礎的知識を学ぶ必要がある。						
科目目標	1. 感染症、アレルギー、膠原病、感覚器系に疾患をもつ患者の身体アセスメントの基礎的知識を学ぶ。 2. 感染症、アレルギー、膠原病、感覚器系に疾患をもつ患者の病態生理と主な症状を理解する。 3. 感染症、アレルギー、膠原病、感覚器系に疾患をもつ患者の主な検査と治療法を理解する。						
講義内容	感染症、アレルギー、膠原病：6時間 1. 感染症、アレルギー、膠原病における主要症状(発熱、レイノー病、易感染、疼痛など) 2. 感染症、アレルギー、膠原病における主要な検査 3. 膠原病、エイズ、MRSA、自己免疫、アナフラキシーなどの病態 4. 感染症、アレルギー、膠原病における治療(食事療法、薬物療法など)  感覚器系：24時間 1. 眼科(8時間) 1) 眼科疾患における主要症状(視力障害、視野異常、眼底出血、流涙、眼圧上昇・低下等) 2) 眼科疾患における主要な検査(視力検査、視野検査、眼底検査など) 3) 流行性角結膜炎、網膜剥離、白内障、緑内障、屈折・調節の異常などの病態 4) 眼科疾患における治療(点眼、光凝固療法、手術療法など)  2. 耳鼻科(8時間) 1) 耳鼻科疾患における主要症状(難聴、耳痛、眩暈、鼻閉、鼻出血、嘔声など) 2) 耳鼻科疾患における主要な検査(聴力検査、平行機能検査、副鼻腔検査、内視鏡検査など) 3) 耳管狭窄、中耳炎、メニエール病、老人性難聴、突発性難病、扁桃腺、副鼻腔炎 咽頭・喉頭癌、舌癌などの病態 4) 耳鼻科疾患における治療(薬物療法 [点耳、点鼻、吸入]、手術療法など)  3. 皮膚科(4時間) 1) 皮膚科疾患における主要症状(痒み、発疹など) 2) 皮膚科疾患における主要な検査(パッチテスト、皮内反応など) 3) アトピー性皮膚炎、白癬、帯状疱疹、悪性黒色腫、熱傷などの病態 4) 皮膚科疾患における治療(外用療法、薬物療法など)  4. 歯科(4時間) 1) 歯科疾患における主要症状(疼痛、腫脹、歯肉出血、咀嚼障害、嚥下障害、歯の欠損など) 2) 歯科疾患における主要な検査(歯および歯周組織の検査、X線など) 3) う歯、歯髄炎、歯周疾患、口内炎などの病態 4) 歯科疾患における治療(充填処置、歯内療法、外科療法、補綴療法など)						
評価方法	筆記試験						
使用テキスト	新体系看護学全書 成人看護学⑨ 感染症・アレルギー・免疫・膠原病 メヂカルフレンド社 〃 ⑫ 皮膚・眼 〃 〃 ⑬ 耳鼻咽喉・歯 〃						

科目名	薬物療法、栄養療法の実際		単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 前期	担当者	川村将仁、小沼宗大			
設定理由	看護のアセスメントに活かし効果的なケアにつなげるために、主要な治療法であるの薬物療法、栄養療法の実際の基礎的知識を学ぶ。					
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾病の回復を促進する効果的な薬物療法を理解する。</li> <li>2. 健康にとっての栄養の意義および病態と栄養について理解する。</li> </ol>					
講義内容	<p>薬物療法：12時間</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床薬理とは</li> <li>2. 薬物の体内動態</li> <li>3. 薬物の副作用と薬物相互作用</li> <li>4. 腎障害における薬物療法</li> <li>5. 肝障害における薬物療法</li> <li>6. 高齢者における薬物療法</li> <li>7. 小児における薬物療法</li> <li>8. 妊娠と薬物</li> <li>9. 授乳と薬物</li> <li>10. 時間薬理学と服薬のタイミング</li> <li>11. 薬物療法の個別化(オーダーメイド)</li> <li>12. まとめ</li> </ol> <p>栄養療法：18時間</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養の成り立ち</li> <li>2. 各栄養素の役割</li> <li>3. 臨床栄養の意義と食事療法</li> <li>4. 臨床栄養学各論</li> <li>5. 調理演習</li> </ol> <p style="text-align: center;">※調理室にて調理の実際 を行う。</p>					
評価方法	筆記試験					
使用テキスト	疾病の成り立ちと回復の促進(3) 薬理学 医学書院 栄養療法はなし					



## 健康支援と社会保障制度



科目名	医療のあゆみ		単位数	1	時間数	15
開講時期	1年次 前期	担当者	中田浩二、中村 敬、古田 希 穴澤貞夫、染谷泰寿			
設定理由	医療人としての意識を高めるとともに、医療における看護のあり方と考え方を深める。					
科目目標	医学の発達、医療体系とその機能を理解し、現代社会における医療のあり方を考える。					
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医、医学、医療とは何か</li> <li>2. 医学の歴史</li> <li>3. 健康と疾病</li> <li>4. わが国の医療システム</li> <li>5. 現代医療の直面する様々な問題</li> <li>6. 討論：学と術と道</li> <li>7. ミスをしない医療者になるためにーリスクマネージメントー</li> <li>8. 高木兼寛と慈恵医大</li> </ol>					
評価方法	筆記試験					
使用テキスト	栗原敏 医療入門 医学書院					
備考						

科目名	公衆衛生の基本と法制度および保健活動		単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 前期	担当者	白土 健			
設定理由	生活する人々が健康な生活を送るために活用する公衆衛生に関する知識と法制度を知り、保健活動を推進するための基礎的能力を養う。					
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生の基本的内容、生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動の進め方を理解する。</li> <li>2. 保健・医療の現状とその対策・動向を学び組織的な保健活動について理解する。</li> </ol>					
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概論(健康の定義、一、二、三次予防)</li> <li>2. 人口静態統計</li> <li>3. 人口動態統計</li> <li>4. 疫学(1) 記述疫学、分析疫学</li> <li>5. 疫学(2) 高木兼寛と疫学</li> <li>6. 感染症</li> <li>7. 物理的要因と健康影響</li> <li>8. 化学的要因と健康影響</li> <li>9. 水(浄水、排水)と健康</li> <li>10. 公害と地球環境問題</li> <li>11. 食品衛生</li> <li>12. 産業保健(1)</li> <li>13. 産業保健(2)</li> <li>14. 成人保健</li> <li>15. 学校保健</li> </ol>					
評価方法	筆記試験					
使用テキスト	わかりやすい公衆衛生学          ヌーヴェルヒロカワ					
備考						

科目名	社会保障制度と社会福祉活動		単位数	2	時間数	30
開講時期	3年次 前期	担当者	勝部雅史			
設定理由	<p>高齢者人口の増加に伴う「寝たきり」「痴呆」などの高齢者問題の増加、「児童虐待」「障害の重度化・重複化」などの児童・障害者分野における問題が山積しているなか、看護と社会福祉の「連携」は、ますます必要となってくる。看護専門職が社会福祉との「連携」を行っていくためには、社会福祉の動向に関する正確な知識と共に、動向を支える原理についての理解が必要とされる。</p> <p>生活する人々が、社会資源の活用ができるように、社会保障の理念と基本的な制度の考え方を理解し、法律に基づく生活者の生活問題に対する社会福祉の方法と課題を理解する。</p>					
科目目標	<p>1. 社会福祉の語義・基本要素、歴史的展開、思想、概念構成、対象、供給体制等の社会福祉を支える基本的な考えについて学ぶ。</p> <p>2. 介護保険法、国民健康保険等の医療保障制度、国民基礎年金等の所得保障制度など、具体的な制度がどのように構成されているかについて理解する。</p>					
講義内容	<p>1. 生活と福祉</p> <p>2. 社会保障・社会福祉の概念と制度体系</p> <p>1) 社会保障の諸制度と施策</p> <p>① 介護保険法</p> <p>② 国民健康保険等の医療保障制度</p> <p>③ 国民基礎年金等の所得保障制度</p> <p>2) 社会福祉の諸制度と施策</p> <p>① 生活保護制度    ② 児童福祉    ③ 障害者福祉    ④ 高齢者福祉</p> <p>3. 社会福祉行政のしくみ</p> <p>福祉の専門職と職種</p> <p>4. 社会保障・社会福祉改革の動向</p>					
評価方法	出席状況、授業への積極的参加度、筆記試験					
使用テキスト	系看 専門基礎 社会保障・社会福祉 医学書院					
備考						

科目名	法の基礎知識		単位数	1	時間数	15
開講時期	3年次 前期	担当者	小澤隆一			
設定理由	法と法学の基礎知識の習得を通じて、社会人として、また看護師としてのあり方についての考えを深める。					
科目目標	法と法学の基礎について理解し、法規全般に渡る知識を学ぶ。					
講義内容	1) 刑法の基礎 2) 刑事訴訟法の基礎 3) 民法その1 契約法の基礎 4) 民法その2 不法行為法の基礎 5) 民法その3 家族法の基礎 6) 憲法その1 統治機構の基礎 7) 憲法その2 基本的人権の基礎 8) 医療を支える権利と医療者の社会的責任					
評価方法	レポート試験					
使用テキスト	はじめての法律学 有斐閣アルマ					
備考	新聞などの医療関係の報道を日頃からチェックしておいてください。					

科目名	医療と法律		単位数	1	時間数	15
開講時期	3年次 前期	担当者	小澤隆一、山田たず子			
設定理由	衛生法規・厚生行政・保健医療関係法規を学び医療従事者の責務を遂行できる能力の素地を養う。					
科目目標	1. 衛生法規・厚生行政・保健医療関係法規の基礎知識が理解できる。 2. 保健師助産師看護師法について理解できる。					
講義内容	1. 衛生法規・厚生行政・保健医療関係法規(10時間) <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 衛生法規</li> <li>2) 厚生行政</li> <li>3) 医療法</li> <li>4) 医師法</li> <li>5) 薬事法規・薬剤師法</li> <li>6) 社会福祉法</li> <li>7) 労働基準法</li> </ul> 2. 保健師助産師看護師法(5時間) 看護師の人材確保の促進に関する法律					
評価方法	レポート試験及び筆記試験					
使用テキスト	系看 専門基礎 看護関係法令 医学書院					
備考						



## 3. 専門分野 I

---

基礎看護学



## 1. 考え方

基礎看護学は、基礎科目、専門基礎科目での学びを基に看護学を展開する上での礎となる科目であり看護学の帰結点となる科目である。また、学生にとっては、看護学を学ぶ最初の専門科目である。

講義は、基礎看護学概論と基礎看護技術で構成し、実習は基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱに分け段階的に行うこととする。

基礎看護学は、看護全般の概念を捉え、看護の位置付けと役割の重要性を認識する。

基礎看護技術では、対象の理解と看護実践の基礎となる技術・態度を習得する。看護実践の基礎は、〈看護の基本となる技術〉〈日常生活を整える援助技術〉〈対象を把握する技術〉〈診療に伴う援助技術〉〈あらゆる健康状態に応じた看護〉に区分した。

基礎看護学実習Ⅰは、講義や演習で学んだ基礎知識や援助技術をもちいて対象者に必要な看護援助を実践する。基礎看護学実習Ⅱは、対象の状態に応じた日常生活援助の技術を提供すると共に問題解決思考に基づく看護過程の展開を実践する。

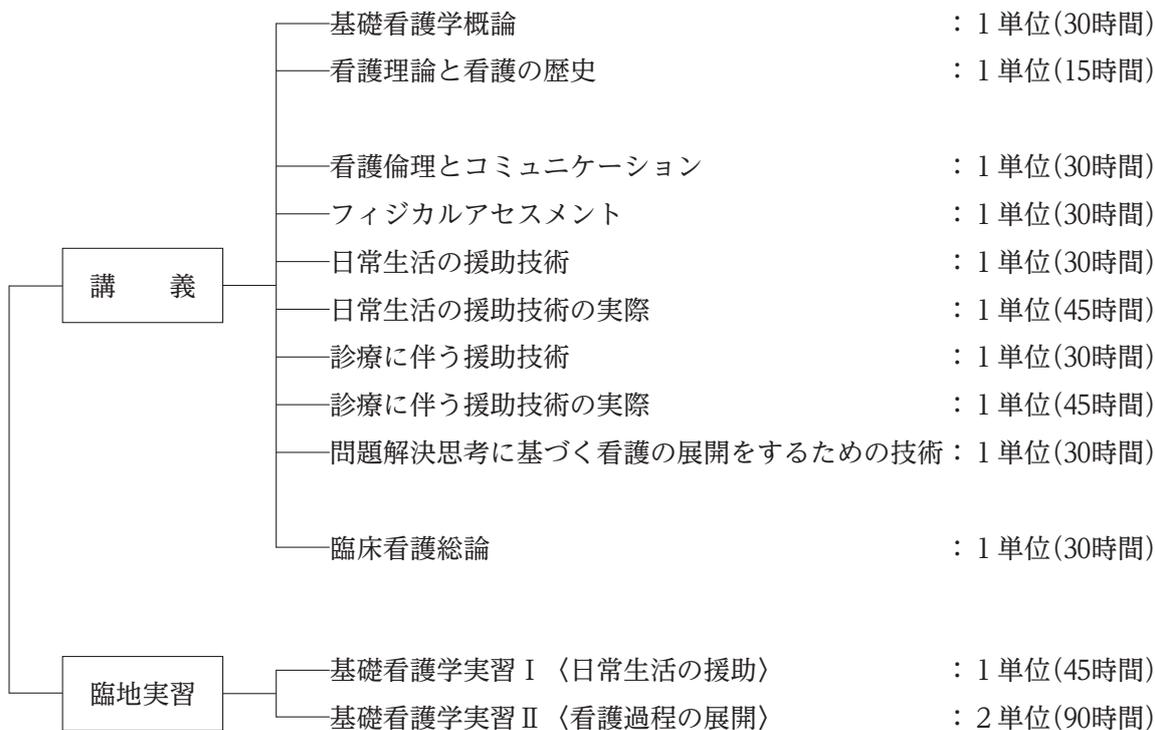
## 2. 目的

人間のライフサイクルにおける健康の意義と保健医療における看護の役割について理解し、看護行為の基礎となる知識・技術・態度を習得する。

## 3. 目標

- 1) 看護全般の概念を理解し、看護の位置づけと役割を理解する。
- 2) 看護を実践するための基礎となる知識・技術・態度を理解する。
- 3) 健康障害をもつ対象と対象をとりまく人々を理解し、臨床看護に必要な看護の役割と方法を理解する。

## 4. 構成



科目名	基礎看護学概論		単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 前期	担当者	荒谷美香			
設定理由	看護とは何かという問いに取り組み、そこから、人として、また専門職として、対象に向き合うことに伴う役割、責任、理論を考えるものとする。また、現代の保健医療における看護の課題等、看護の位置づけを広い視野から考えていく。					
科目目標	1. 看護の基礎概念を学び看護の位置づけと役割の重要性を理解する。					
回数	学習内容				学習形態	
1	1) 看護とは：導入	1) 学問としての看護 2) 「患者中心」の看護とは 3) 「何のため」の看護か			講義 講義資料	
2・3	2) 看護とは何かを考える	1) 看護の科学 2) 看護学の発展 3) 看護の対象 4) 看護とは何か			講義GW	
4・5	3) 看護の過去から現在まで	1) ナイチンゲールが登場するまで 2) 近代看護への道 3) 海外における職業的看護の発展 4) 我が国の職業的看護の発展			講義	
6～8	4) 看護実践における重要概念 (1) 人間とは	1) 人間とは (1) 基本的ニード (2) 成長発達理論 (3) ホメオスタシスとストレス (4) 全体的存在 (5) 健康障害を抱えた人の理解			講義 講義資料	
9・10	(2) 健康とは	(1) 健康とは何か ① 概念の歴史的変遷 ② 病気に関連した言葉の意味 ③ 基本的人権としての健康 (2) 看護における健康の概念 (3) 国民の健康の全体像				
11	5) 専門職としての看護	1) 専門職とは 2) 専門職としての役割と自立 3) 専門職としての責任			講義	
12	6) 看護における法と倫理	1) 法的・倫理的責任 ① 保健師助産師看護師法 ② 倫理綱領			講義	

回数	学 習 内 容		学習形態
13	7) 看護実践の方法	1) 看護技術 2) 看護過程 3) 対人コミュニケーション	講義
14・15	看護の役割と機能	1) 看護が機能する場 2) 保健・医療・福祉の連携 3) 看護の役割	講義
評価方法	筆記試験、授業参加態度、レポート課題にて総合的に評価する。		
使用テキスト	新体系 看護学全書 基礎看護学① 看護学概論 メヂカルフレンド社		
参考図書	国人衛生の動向 厚生労働統計協会		

科目名	看護理論と看護の歴史		単位数	1	時間数	15
開講時期	1年次 前期	担当者	荒谷美香			
設定理由	看護の成り立ちと意義を理解するために、看護発展の歴史的経緯や看護理論家たちの足跡やその理論を学ぶ。					
科目目標	1. 看護の理論を理解し看護の考えを深める。 2. 看護の変遷と動向を理解し、今後の看護のあり方を考える。					
回数	学習内容					学習形態
1・2	1) 慈恵史	1) 慈恵看護教育の歴史をたどる ① 有志共立東京病院看護婦教育所の誕生と教育の変遷 ② 東京慈恵会の成り立ち ③ 派出看護と救護活動				講義
	2) 「看病の心得」について	① 著書「看病の心得」の著者とその周辺 ② 現在での著書の意味と価値について				講義
3	1) 看護理論の概要 2) 看護理論について学ぶ	1) ①看護理論とは ② 主な看護理論の発達背景と歴史 ③ 看護概念と看護理論 ④ 看護理論の意味と重要性 ⑤ 看護理論の分類				講義
4・5	ナイチンゲールと看護覚え書	1) フローレンスナイチンゲールについて ① 生い立ち、②7つの顔、③クリミア戦争 2) 看護覚え書 ① 書かれた背景 ② 看護覚え書を読む				講義
7	ヘンダーソンの看護理論	1) ヴァージニア・ヘンダーソンについて 2) 日本の看護界への影響 3) 看護の基本となるもの				講義
8	ベナー看護論と看護職生涯発達	1) パトリシア・ベナーについて 2) 臨床技能の習得段階：初心者から達人へ 3) 看護職生涯キャリア発達の紹介				講義
評価方法	筆記試験70点、出席状況10点、夏期休暇中レポート課題20点で評価する					
使用テキスト	看病の心得 平野鑑著 大空社 新体系 看護学全書 基礎看護学① 看護学概論 メヂカルフレンド社					

科目名	看護倫理とコミュニケーション		単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 後期	担当者	加邊隆子			
設定理由	看護におけるコミュニケーションは、人間相互の関係性を成立・発展させていくための専門的な技術である。講義・演習を通して、看護師としての姿勢や態度についての考えを深める機会とする。看護倫理では、患者の権利とその擁護、人間の尊厳、看護職の責務と倫理原則など看護を实践する上で必要な倫理に関する基本的な知識を身に付けることをねらいとする。また、実習場面における倫理的問題について考察し、自他の倫理的な態度や判断についての学びを深める。					
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解できる。</li> <li>2. 演習体験を振り返り、看護師に必要な態度について考えることができる。</li> <li>3. 看護倫理について理解し、看護における倫理の重要性を理解する。</li> <li>4. 実習で直面した倫理的問題について考察し、看護者としての責任を自覚する。</li> </ol>					
回数	学 習 内 容			学習形態		
1	看護と倫理	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理の基礎</li> <li>2. 職業としての看護倫理</li> <li>3. 看護職の責任</li> </ol>			講義	
2		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護倫理の本質としての患者の権利擁護</li> <li>2. 看護専門職組織の役割と倫理綱領</li> </ol>			講義	
3	事例検討	グループ討議 「看護者の倫理綱領」の各条文の意味を理解する			GW	
4・5		グループ討議 実習場면을振り返り、看護者としての責任について考える			GW	
6・7		各グループの事例発表・意見交換			GW	
1	看護とコミュニケーション	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションとは</li> <li>2. 対人関係プロセスとしての看護</li> <li>3. 看護におけるケアリングとコミュニケーション</li> <li>4. 看護理論とコミュニケーション</li> </ol>			講義	
2		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護とコミュニケーション</li> <li>2. コミュニケーションのプロセスに影響する因子</li> </ol>			講義	
3		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療における信頼関係とコミュニケーション</li> <li>2. 治療的コミュニケーション</li> </ol>			講義	

回数	学 習 内 容		学習形態
4	コミュニケーションの実際	演習のオリエンテーション 事例：ターミナル期にある患者	GW
5		患者の状態理解(患者の立場に立つ) DVD鑑賞「余命1ヶ月の花嫁」	GW
6		必要な情報とは 「酸素化」「感覚」「自己概念」	GW
7・8		模擬患者を用いたコミュニケーション演習 ① 演技の実際(60分) ② カンファレンス	演習
評価方法	<p>1. 出席状況・演習参加状況・レポート等で総合的に評価する。</p> <p>2. 講義内容①コミュニケーション、②看護倫理はそれぞれ100点満点の評価とし60点以下をD評価とする。</p> <p>3. 講義内容①コミュニケーション、②看護倫理の評価を受けるには、それぞれの講義時間の2/3以上の出席が必要である。</p> <p>4. 各自の看護倫理とコミュニケーションの評価は、(①コミュニケーション×0.5)+(②看護倫理×0.5)とする。 尚、講義内容①コミュニケーション、②看護倫理の一方がD評価の場合には、看護倫理とコミュニケーションの科目評価はDとする。</p>		
使用テキスト	石井トク編集「看護倫理」学研		
参考図書	東京医科大学看護専門学校著「よくわかる看護者の倫理綱領」照林社		
留意点			

科目名	日常生活の援助技術		単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 前期	担当者	山田たず子 他			
設定理由	<p>看護の対象である人間は、生きるために活動し栄養を摂取し、排泄する。また環境と影響しあいながら生活を営んでいる。看護の役割のひとつはこれらの生活過程を整え、その人らしく生活することを支えることである。それら生活を整える技術の根拠を理解し、その人に合った援助を行う方法を学ぶ。</p>					
科目目標	<p>1. 日常生活を整えるための援助の必要性と看護の役割が理解できる。 2. 対象にあわせた日常生活の援助技術について理解する。</p>					
回数	学習内容				学習形態	
1	環境を整えるための援助技術Ⅰ	Ⅰ. 人間をとりまく環境と健康 環境の概念と意義			講義	
2	環境を整えるための援助技術Ⅱ	Ⅱ. 環境が果たす役割と条件 環境の諸要素とその調整			講義	
3	環境を整えるための援助技術Ⅲ	Ⅲ. 病床を整える援助の実際 環境を整えるためのアセスメントと方法			講義	
4	活動・休息の援助技術Ⅰ	Ⅰ. 活動の意義 1. 「動く」とは 2. 活動するための機能 3. 動くことはなぜ大切なのか 4. 活動を支援する看護師の役割			講義	
5	活動・休息の援助技術Ⅱ	Ⅱ. 安楽な体位 1. 看護における「安楽」とは 2. ボディメカニクス 3. 姿勢と体位の保持			講義	
6	活動・休息の援助技術Ⅲ	Ⅲ. 移動・移送の援助 1. 車椅子移送 2. ストレッチャー移送 3. 歩行の援助			講義	
7	活動・休息の援助技術Ⅳ	Ⅳ. 休息の意義 1. 休息と睡眠 2. 援助の方法			講義	
8	清潔の援助技術Ⅰ	1. 清潔の意義 2. 清潔における看護師の役割 3. 対象に適した清潔援助とは			講義	

回数	学 習 内 容		学習形態
9	清潔の援助技術Ⅱ	4. 清潔援助の実際	講義
10	清潔の援助技術Ⅲ	5. 整容 6. 衣生活	講義
11	食生活と栄養摂取の援助Ⅰ	1. 食事・栄養摂取の意義と仕組み 2. 食事・栄養摂取のアセスメント	講義
12	食生活と栄養摂取の援助Ⅱ	3. 食事の援助	講義
13	排泄の援助技術Ⅰ	I. 排泄の意義と仕組み	講義
14	排泄の援助技術Ⅱ	II. 自然排泄の援助方法 1. 排便・排尿の介助 2. 排泄用具の種類、取扱い 3. 援助の実際	講義
15	排泄の援助技術Ⅲ	III. 排泄障害の援助方法 1. 排泄障害の種類 2. 排便障害時の援助 3. 排尿障害時の援助	講義
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社		
留意点			

科目名	日常生活の援助技術の実際		単位数	1	時間数	45
開講時期	1年次 前期	担当者	山田たず子 他			
設定理由	演習での援助の実際を通して、基礎技術とともに対象の状況に合わせた技術を学ぶために、日常生活援助技術の講義と連動しながら実施する。					
科目目標	日常生活の援助技術を習得する。					
回数	学習内容					学習形態
1	ベッドメイキング	1. リネン類の取り扱い 2. 角の作り方				実技
2・3	ベッドメイキング	1. クローズドベッドの作成 2. オープンベッドの作成				実技
4・5	体位変換	1. 枕の入れ方・外し方 2. 仰臥位でのベッド上の水平移動 3. 仰臥位から側臥位への移動 4. 仰臥位から立位へ移動 5. ファーラー位からベッド下方にずり下がった状態の患者を右側臥位にする体位変換				実技
6・7	病床整備	1. 就床患者の病床整備 2. 横シート交換				実技
8・9	移動・移送	1. 車椅子移動・移送 2. ストレッチャー移動・移送 3. 歩行の介助				実技
10~13	清拭	1. 全身清拭 2. 寝衣交換 3. 熱布清拭				実技
14~17	洗髪	ケリーパッド・洗髪車・洗髪台など患者の状態に合わせた洗髪				実技
18・19	足浴・口腔ケア	1. 足浴 2. 爪切り 3. 臥床患者の含嗽 4. 歯ブラシによる口腔ケア 5. スポンジブラシによる口腔ケア				実技
20 21	食事援助の実際	食行動に規制、制限がある対象の食事介助 1) 上肢の制限のある対象の食事介助 2) 視力障害のある対象の食事介助				実技

回数	学 習 内 容		学習形態
22 23	便器・尿器の与え方	1. 便器介助 2. 尿器介助 3. オムツの当て方 4. ポータブルトイレの使用	実技
評価方法	実技試験(記録物の提出を含める) 実技試験の受験資格には4/5以上の出席が必要である。		
使用テキスト	新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社		
留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業時間内だけで技術を習得することはできない。事前学習や自己学習を積極的に行ない技術の習得に努めてほしい。</li> <li>2. 演習は演習室で行う。氏名章・指定のユニフォーム・ナースシューズを着用すること。爪・髪型・清潔な身なりを整え、装飾品の着用はしないこと。演習内容によってユニフォーム以外の指定がある場合もある。</li> <li>3. 事前学習(ナーシングスキル・DVD等動画の視聴、事前課題)を実施した上で演習に臨むこと。</li> <li>4. 授業開始前にはベッドメイキングなどの必要な準備をすること。</li> <li>5. 3～5人のグループとなり、看護師・患者・観察者の役割を交替で実施する。患者役はパジャマ・和式寝衣・膝下スパッツを用意すること。</li> <li>6. 事前課題は演習記録の最後のページに添付して提出する。</li> <li>7. 演習の実施後、演習記録の提出をもって出席と認める。演習記録は一式を提出する。記載欄のみの用紙の提出やファックス・メールでの提出を認めない。</li> </ol>		

科目名	診療に伴う援助技術		単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 後期	担当者	山田たず子 他			
設定理由	医療現場における医療行為、特に治療・処置・検査には危険が伴い、技術が進歩し複雑になればなるほどそのリスクは高くなる。現在は、診療に伴う援助技術を看護師が実施する範囲も拡大している。そこで、患者の安全を保障できる、看護技術の基本を学ぶ。					
科目目標	1. 診療に伴う援助の必要性と看護の役割が理解できる。 2. 対象にあわせた診療に伴う援助技術について理解する。					
回数	学習内容					学習形態
1	感染予防のための援助技術Ⅰ	Ⅰ. 感染と感染予防の基礎知識 1. 感染の基礎知識 2. 感染予防策の基礎知識 3. 感染予防における看護師の責務と役割				講義
2	感染予防のための援助技術Ⅱ	Ⅱ. 感染予防策の実際 1. 感染源への対策 2. 感染経路への対策				講義
3	体温・循環調節のための援助技術	1. 罨法の意義 2. 温度刺激と生体への影響 3. 罨法の種類と効果 4. 方法      5. 禁忌と医療事故				講義
4	排泄に関する処置技術Ⅰ	Ⅰ. 浣腸 1. 浣腸の適応・種類、禁忌 2. 方法				講義
5	排泄に関する処置技術Ⅱ	Ⅱ. 導尿 1. 導尿の適応・種類、禁忌 2. 方法				講義
6	検査に伴う援助技術Ⅰ	Ⅰ. 検査に伴う看護と検査の種類 1. 検査の意義 2. 検査の種類 3. 検査を受ける対象の理解 4. 看護の役割				講義
7	検査に伴う援助技術Ⅱ	Ⅱ. 各種検査の方法 1. 検体検査 2. 生体検査				講義
8	呼吸の管理に必要な援助技術Ⅰ	Ⅰ. 呼吸の意義と呼吸を楽にする援助 1. 呼吸の意義 2. 呼吸を整える援助の基本 1) 呼吸状態のアセスメント 2) 援助にあたる看護師の役割 3) 呼吸を楽にする姿勢・呼吸法				講義

回数	学 習 内 容		学習形態
9	呼吸の管理に必要な援助技術Ⅱ	Ⅱ. 酸素吸入療法 1. 酸素吸入療法 1) 基礎知識 2) 酸素吸入療法の実際	講義
10	呼吸の管理に必要な援助技術Ⅲ	Ⅲ. 気道分泌物の排出の援助 1. 気道内分泌物の排出の援助の基礎知識 (目的・ポイント) 2. 排痰を促す援助(排痰ケア・噴霧吸入) 3. 一時的吸引	講義
11	与薬時の援助技術Ⅰ	Ⅰ. 与薬に関する責任と役割 1. 与薬行為とは 2. 与薬に伴う援助技術の基本 3. 薬物療法についての基礎知識 4. 法律と責任	講義
12	与薬時の援助技術Ⅱ	Ⅱ. 経口的与薬法 1. 経口的与薬法 2. 口腔内与薬法	講義
13	与薬時の援助技術Ⅲ	Ⅲ. 各種与薬法 1. 直腸内与薬法           5. 点眼法 2. 膈内与薬法           6. 点耳法 3. 塗布・塗擦法       7. 点鼻法 4. 吸入	講義
14・15	与薬時の援助技術Ⅳ	Ⅳ. 各注射法 1. 注射法の特徴 2. 種類と適応 3. 準備 4. 各注射法 5. 輸血法	講義
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	新体系 看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ		
留意点			

科目名	診療に伴う援助技術の実際		単位数	1	時間数	45
開講時期	1年次 後期	担当者	山田たず子 他			
設定理由	演習での援助の実際を通して基礎技術とともに対象の状況にあわせた技術を学ぶために、診療に伴う援助技術の講義と連動しながら実施する。					
科目目標	診療に伴う援助技術を習得する。					
回数	学習内容					学習形態
1・2	感染予防のための援助技術 手洗い・個人防護用具	1. 衛生的手洗い 2. 個人防護用具の着脱 3. 感染性医療廃棄物の取り扱い				実技
3・4	感染予防のための援助技術 無菌操作	1. 衛生的手洗い 2. 滅菌包装からの滅菌物の取り出し方 3. 受け渡し方 4. 滅菌包の開き方 5. 滅菌手袋の装着 6. 消毒薬の作り方				実技
5・6	体温・循環調節のための援助技術 温罨法・冷罨法	1. 湯たんぽの貼用 2. 氷枕・氷のうの貼用				実技
7・8	排泄に関する処置技術 浣腸	1. グリセリン浣腸 2. 高圧浣腸				実技
9・10	排泄に関する処置技術 導尿	1. 一時的導尿法 2. 持続的導尿法				実技
11・12	検査に伴う援助技術 静脈採血 尿検査	1. 静脈採血 2. 尿検査				実技
13・14	呼吸の管理に必要な援助技術 酸素吸入法	1. 酸素ボンベの取り扱い 2. 酸素吸入 (鼻腔カニューレ法、マスク法)				実技
15・16	呼吸の管理に必要な援助技術 一時的吸引法	1. 口腔内・鼻腔内吸引 2. 気管内吸引 3. 体位ドレナージ 4. 噴霧吸入				実技
17・18	与薬時の援助技術 経口的与薬法	1. 経口的与薬法 2. 直腸内与薬法				実技
19・20	与薬時の援助技術 点滴静脈注射法	1. 輸液の準備 2. 点滴静脈内注射法				実技

回数	学 習 内 容		学習形態
21・22 23	与薬時の援助技術 筋肉内注射	1. 筋肉内注射法 2. 皮下注射法	実技
評価方法	実技試験(記録物の提出を含める) 実技試験の受験資格には4/5以上の出席が必要である。		
使用テキスト	新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ		
留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業時間内だけで技術を習得することはできない。事前学習や自己学習を積極的に行ない技術の習得に努めてほしい。</li> <li>2. 演習は演習室で行う。氏名章・指定のユニフォーム・ナースシューズを着用すること。 爪・髪型・清潔な身なりを整え、装飾品の着用はしないこと。 演習内容によってユニフォーム以外の指定がある場合もある。</li> <li>3. 事前学習(ナーシングスキル・DVD等動画の視聴、事前課題)を実施した上で演習に臨むこと。</li> <li>4. 授業開始前にはベッドメイキングなどの必要な準備をすること。</li> <li>5. 3～5人のグループとなり、看護師・患者・観察者の役割を交替で実施する。 患者役はパジャマ・和式寝衣・膝下スパッツを用意すること。</li> <li>6. 演習の実施後、演習記録の提出をもって出席と認める。 演習記録は一式を提出する。記載欄のみの用紙の提出やファックス・メールでの提出を認めない。</li> <li>7. 事前課題は演習記録の最後のページに添付して提出する。</li> </ol>		

科目名	フィジカルアセスメント		単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 後期	担当者	専任教員			
設定理由	対象の身体状態を看護の視点から、客観的かつ正確に把握するための技術(フィジカルイグザミネーション技術)を習得し、身体の状態を評価・査定できる力(フィジカルアセスメント力)を養うことを目的とする。					
科目目標	1. 基礎的なフィジカルイグザミネーション技術を実施することができる。 2. 対象の身体状況をアセスメントすることができる。 3. 看護における記録・報告が理解できる。					
回数	学習内容					学習形態
1	フィジカルアセスメントとは	1. フィジカルアセスメントとは 2. フィジカルアセスメントの4つの基本技術 3. フィジカルアセスメントの実際 1) 一般状態の観察				講義
2	バイタルサインの測定	1. バイタルサインの測定 1) バイタルサインの意義 2) 体温・脈拍・血圧・呼吸・意識状態のアセスメント				講義 GW
3・4		2. バイタルサインの測定の実際 1) 血圧測定の方法 2) 体温・脈拍・呼吸回数の測定 3) 意識レベルの確認 4) 温度表への記入				演習
5・6	呼吸器のアセスメント	呼吸器のアセスメント 1) 胸部形態と外観 2) 肺(呼吸音・振盪音・打診音)				講義 演習
7	心臓・血管系のアセスメント 乳房・腋窩のアセスメント	1. 心臓・血管系のアセスメント 1) 胸部の外観 2) 頸静脈、動脈 3) 振動、最大拍動点、心音 2. 乳房・腋窩のアセスメント				講義 演習
8	皮膚・爪、腹部のアセスメント	1. 皮膚・爪のアセスメント 2. 腹部のアセスメント 1) 腹部全体 2) 動脈・腸管・肝臓・脾臓・腎臓				講義 演習
9・10	頭頸部のアセスメント	1. 頭・頸部のアセスメント 1) 頭部 2) 鼻 3) 口腔 4) 首 2. 眼のアセスメント 1) 視神経、外眼筋機能 2) 外観、網膜 3. 耳のアセスメント 聴神経・外観・外耳・外耳道				講義 演習

回数	学 習 内 容		学習形態
11・12	神経系・筋骨格のアセスメント	1. 神経系のアセスメント 1) 各反射 2) 知覚、小脳機能 2. 筋・骨格のアセスメント 1) 関節 2) 四肢の筋力 3) 脊柱及び下肢の形態と歩行	講義 演習
13・14	事例からのアセスメント	事例(症状・徴候)からのアセスメント 各グループ発表	GW
15	記録・報告	記録・報告 事例で実施した患者の記録を記述する	講義 演習
評価方法	① 筆記試験と実技試験で評価する ② 筆記試験、実技試験はそれぞれ100点満点とし60点未満をD評価とする ③ 筆記試験及び実技試験の一方がD評価の場合は、科目評価はD評価となる ④ 各自のフィジカルアセスメントの評価は、(筆記試験×0.5)+(実技試験×0.5)とする		
使用テキスト	小野田千枝子監修、実践フィジカルアセスメント、金原出版		
参考図書	横山美樹著；はじめてのフィジカルアセスメント、メヂカルフレンド社		
留意点	1. 事前学習(ナーシングスキル・DVD等動画の視聴と課題及び課題プリント)を実施した上で講義に臨むこと。学習では、人体の構造と機能、臨床生理、基礎看護学等の既修得の知識・技術を活用し、自己学習ノートを作成すること。 2. 各回の演習では、2～3人が一組となり、対象者と看護師の役割を交互に行う。 3. 講義終了後には演習プリントを提出し、記録物の提出を含めて出席と認める 4. 服装は、学校で指定したポロシャツとパンツを着用すること。課題によってはハーフパンツを必要とする		

科目名	問題解決思考に基づく看護を展開するための技術		単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 後期	担当者	山田たず子、伊藤百合子			
設定理由	看護を実践することは、対象者に実在または潜在する健康問題と生活過程に対する反応を判断し対処していくことである。そのためには、問題解決思考に基づくアセスメント、問題の特定、実施、評価というステップを踏む必要がある。看護の実践と、ケアの質を高めるためには、問題解決思考に基づく技術の修得が必要である。					
科目目標	看護過程の意義および構成要素を理解し看護過程を展開できる。					
回数	学習内容					学習形態
1・2	看護過程の基本になる考え方と理論	1) 看護過程とは 2) 看護過程とクリティカルシンキング				講義
3	看護過程の構成要素①	1. アセスメント 1) アセスメントとは 2) 情報収集の段階 3) 展開事例の紹介				講義
4		4) 情報の整理・分類 受け持ち患者記録【情報】 事前学習にて記録した内容の確認				演習 (個人ワーク)
5・6		5) 看護上の問題を明確にしていく段階 (1) 情報のアセスメント				講義
7		6) 事例(ペーパーペイシエント) 受持ち患者記録 【情報アセスメント】				演習 (GW)
8	看護過程の構成要素②	2. 看護診断 1) 看護診断のプロセスと構成要素 2) 看護問題の種類 3) 全体像(問題関連図)				講義
9・10		4) 事例(ペーパーペイシエント) 受持ち患者記録 【全体像：関連図・問題リスト】				演習 (GW)
11	看護過程の構成要素③	3. 計画 1) 目標設定：長期目標・短期目標 2) 計画立案				講義
12		3) 事例(ペーパーペイシエント) 受持ち患者記録 【全体像：関連図・問題リスト、計画】				演習 (GW)

回数	学 習 内 容		学習形態
13	看護過程の構成要素④	4. 実施 5. 評価	講義
14・15	GW発表	看護過程の実際 GW発表会	GW発表
評価方法	筆記試験70点、記録物提出30点		
使用テキスト	新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社		
参考図書	看護過程に沿った対症看護 Gakken 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[Ⅰ] 解剖生理学		
留意点	1) 受持ち患者記録 【情報Ⅰ】【情報Ⅱ】【情報Ⅲ】【情報アセスメント】【全体像：問題関連図・問題リスト】【計画】の各用紙を必要な分だけファイルに綴じ、持参すること。 2) 演習時は、課題にあわせ自己学習をした上で臨むこと。		
備考	問題解決思考に基づく看護を展開するための技術は、講義内容の変更のため講義開講時にあらためて提示します。		

科目名	臨床看護総論		単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 後期	担当者	本田有里、齋藤友紀子			
設定理由	臨床生理の講義後、これに連動して講義および演習を実施する。臨床生理で学んだ症状の発生機序、検査および身体所見をもとにアセスメントして、根拠に基づいた技術の提供ができるようにする。					
科目目標	1. 健康障害をもつ対象を理解する。 2. 健康障害をもつ対象への看護の方法を理解する。 3. 医療機器の取り扱いができる。					
回数	学習内容					学習形態
1～4	健康障害の状態に応じた患者への看護 I. 症状のアセスメント	1. 事例紹介 2. 各事例の問題となる症状の抽出 ・症状を抽出した理由の明確化 ・事例の生活背景や年齢、健康の段階の考察 3. 症状のアセスメント ・原因や誘因 ・症状発症のメカニズム ・症状がその人に及ぼす影響 4. 症状に応じた看護計画の立案 ・症状に応じた、観察項目・具体的な援助方法・指導方法を立案する。				演習 (GW)
5・6	II. 看護計画の実際	5. 看護計画の発表 ・GWでアセスメントした内容、看護計画について発表する				演習 (発表)
7・8	III. 看護計画の実際	6. 看護計画の再考察 ・発表会での意見交換等を参考に、アセスメント・看護計画を再考察する ・援助内容の練習を行う。				演習 (GW)
9～11	IV. 根拠に基づく援助の実際	7. 援助の実際発表 ・看護計画に基づき、対象の健康状態にあった具体的な身体的援助について実演する。				演習 (発表)
12・13	心肺蘇生法	一次救命処置(BLS)の実施 1) 胸骨圧迫、AED(自動体外式除細動器)使用法 2) 心停止・死戦期呼吸の認識 3) 緊急通報				演習
14・15	医療機器の取り扱い	医療機器使用の実際 1) 医療機器とは 2) 生体監視装置、輸液ポンプ、人工呼吸器等の使用の実際				演習

評価方法	<p>「健康障害の状態に応じた患者への看護」 80点          参加状況、発表状況、レポートにより総合評価とする。          「心肺蘇生法」「医療機器の取り扱い」          レポート提出 各10点</p>
使用テキスト	<p>新体系 看護学全書 専門分野 I 基礎看護学 4 臨床看護総論          看護過程に沿った対症看護 Gakken</p>
参考図書	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学</p>
留意点	<p>〈健康障害の状態に応じた患者への看護〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. GWを行うにあたって             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) GWに臨む際は、必ず自己学習し、資料を持参する</li> <li>2) グループリーダー、GW毎の司会・書記(輪番制)を決定しておく</li> <li>3) その日討議したことは、書記がまとめ教員へ提出する</li> <li>4) グループメンバーの参加状況を毎回評価する</li> </ol> </li> <li>2. 発表を行うにあたって             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 進行は司会・タイムキーパーを決め、学生主体で実施する</li> </ol> </li> </ol> <p>〈心肺蘇生法・医療機器の取り扱い〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 演習時は、トレーニングウェアもしくは動きやすい服装とし、必ずナースシューズを着用する。</li> <li>2. その他演習時の注意事項に準じ、髪型・爪切り等身だしなみを整えておく。</li> <li>3. 事前準備があるため、担当教員に従い準備を行う。</li> <li>4. 教科書・筆記具を持参し演習に臨むこと。</li> </ol>

科目名	基礎看護学実習Ⅰ		単位数	1	時間数	45
実習時期	1年次 後期	担当者	専任看護教員全員			
実習目的	<p>【看護見学実習】 看護が行われている場や対象を知る</p> <p>【日常生活の援助実習】 対象の日常生活援助の必要性を理解し、日常生活援助が実施できる</p>					
実習目標	<p>【看護見学実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護師の援助のあり方を知る</li> <li>2. 患者の療養環境のあり方を知る</li> </ol> <p>【日常生活の援助実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常生活動作(ADL)の充足状況がわかる</li> <li>2. 対象に合わせた日常生活援助が実施できる</li> <li>3. 実施した援助の評価ができる</li> </ol>					
実習内容・方法	<p>【看護見学実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護師につき、看護場面や患者の生活の場を見学する。</li> <li>2. 実習期間：10月</li> <li>3. 実習場所：東京慈恵会医科大学附属第三病院</li> </ol> <p>【日常生活の援助実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期・老年期の対象を一人受け持ち、日常生活の援助を実施する。</li> <li>2. 実習期間：10月</li> <li>3. 実習場所：東京慈恵会医科大学附属第三病院</li> </ol>					
評価方法	<p>所定の評価表を用いる。 実習状況・実習記録・カンファレンス・レポート等から総合的に評価する。</p>					
科目履修上の条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常生活の援助実習にあたり次の科目の単位を修得してあること。 基礎看護学概論、日常生活の援助技術、日常生活の援助技術の実際</li> <li>2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の4/5以上の出席が必要である。</li> <li>3. 看護見学実習を欠席した者は、下記による出席をすること 実習終了後の土曜日を予備日としているので、出席すること</li> </ol>					

科目名	基礎看護学実習Ⅱ		単位数	2	時間数	90
実習時期	2年次 後期	担当者	専任看護教員全員			
実習目的	受け持ち患者を通して日常生活援助の技術を提供すると共に問題解決思考に基づき看護過程の展開ができる能力を養う					
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 意図的・系統的に情報収集ができる</li> <li>2. 情報アセスメントを通して、看護上の問題を明らかにできる</li> <li>3. 看護目標が設定できる</li> <li>4. 問題解決のための具体策が提示できる</li> <li>5. 具体策に基づいて受け持ち患者に実施できる</li> <li>6. 看護の一連のプロセスを評価し、フィードバックできる</li> <li>7. 受け持ち患者に関心を持ち、コミュニケーションをとることができる</li> </ol>					
実習内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人・老年期の患者を一人受け持ち、看護過程を展開する。</li> <li>2. 実習期間：11月</li> <li>3. 実習場所：東京慈恵会医科大学附属第三病院</li> </ol>					
評価方法	<p>所定の評価表を用いる。  実習状況・実習記録・カンファレンス・レポート等から総合的に評価する。</p>					
科目履修上の条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習にあたり次の科目を履修若しくは履修条件を満たしている(終講試験の受験資格を有している)こと。  基礎看護学実習Ⅰ、看護倫理とコミュニケーション、フィジカルアセスメント、問題解決思考に基づく看護を展開するための技術、臨床看護総論。</li> <li>2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の4/5以上の出席が必要である。</li> </ol>					

## 4. 専門分野Ⅱ

---

成人看護学 / 老年看護学

小児看護学 / 母性看護学

精神看護学



## 成人看護学



## 1. 考え方

成人期は成長・成熟・衰退の過程にあり、人生の中で最も長く、変化に富んだ時期である。

また、身体的特性、生活特性、個人に課せられた役割期待などが統合された社会的存在である。成人の健康は生活習慣や環境・労働ストレスに影響を受けやすく、それらによって引き起こされる様々な健康問題を抱えている。そこで、成人看護学では、多様な健康状態に合わせ、生活スタイルや価値観、家族背景を踏まえ、その人らしい生活が営めるようなかわり方を学ぶ。

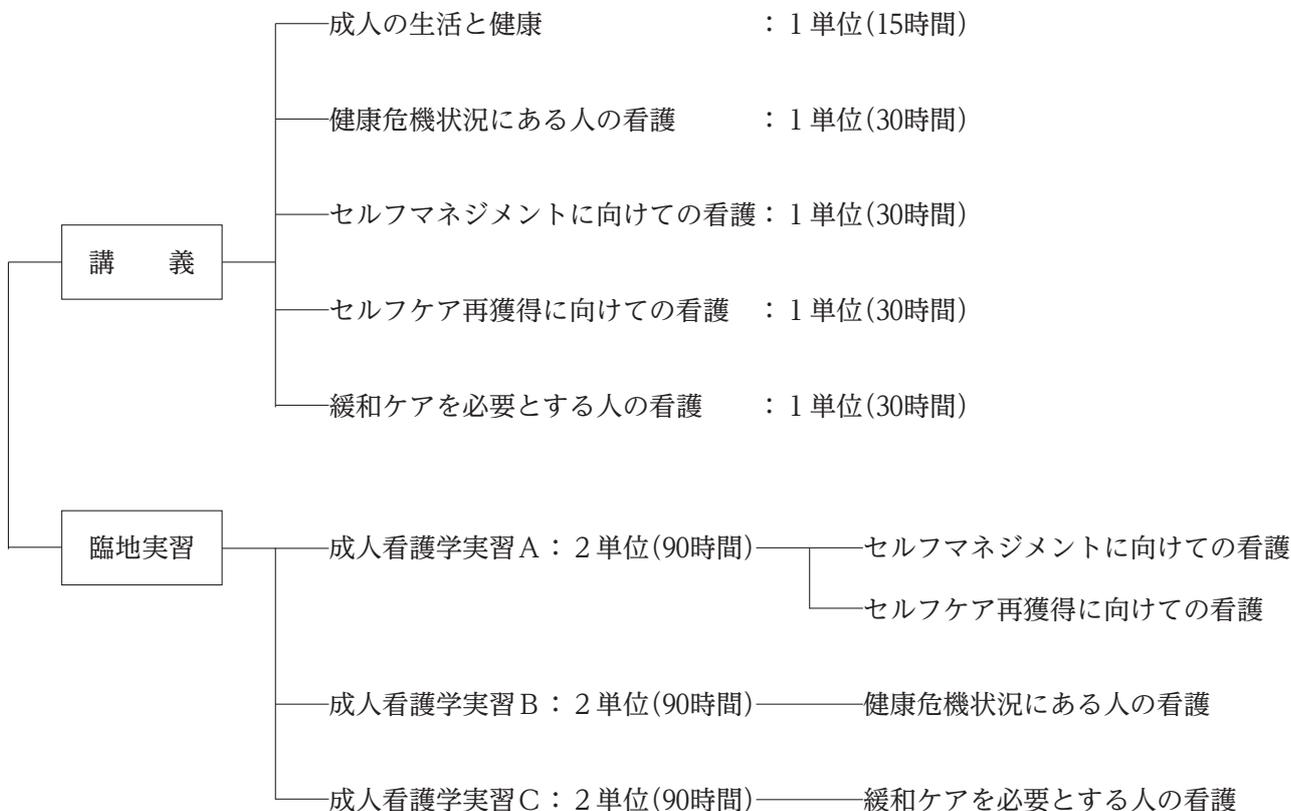
## 2. 目的

成人期にある対象の特徴を理解し、健康の保持増進および健康障害における健康上の諸問題を総合的に把握し、看護実践できる基礎的能力を養う。

## 3. 目標

- 1) 成人各期の特徴を捉え、成人看護の役割を学ぶ。
- 2) 健康問題を持つ成人への看護に必要な基本的な知識・技術が理解できる。
- 3) 成人における健康障害を理解し、健康を障害された成人と家族に対する看護が理解できる。
  - (1) 手術や救命救急治療により、健康の危機状況にある人への看護が理解できる。
  - (2) 慢性的な疾患をもつ人のセルフマネジメントに向けての看護が理解できる。
  - (3) 中途障害を受けた人のセルフケア再獲得に向けての看護が理解できる。
  - (4) 積極的治療が困難な人への緩和ケアが理解できる。

## 4. 構成



科目名	成人の生活と健康		単位数	1	時間数	15	
開講時期	1年次 後期	担当者	葛谷辰枝				
設定理由	成人は、多様な役割をもち社会と関わりながら様々な価値観・生活習慣・ライフスタイルをもつ。これらは成人の健康問題と密接に関連している。また現代の保健と健康の動向を通して、社会情勢を理解し、成人の生きる社会と看護の役割機能を学ぶ。						
科目目標	1. 成人期にある人の特徴と、成人看護の意義と役割を理解する。 2. 成人保健の動向を通して、成人期の健康保持増進対策を理解する。						
回数	学 習 内 容				学習形態		
1	成人看護の特徴	1. 成人期の年齢区分 2. 成人期の特徴 3. 現代日本における成人期のライフサイクルとライフスタイル 4. 成人に対する看護の視点				講義	
2 3 4	成人各期の特徴と保健問題	5. 各成人期 1) 青年期の特徴と保健問題 2) 壮年期の特徴と保健問題 3) 向老期の特徴と保健問題				講義 GW	
5 6 7	成人保健の動向と課題	6. 成人保健の動向 生活習慣病に関連する健康問題と予防 生活ストレスに関連する健康障害と予防・緩和 7. 保健政策と成人健康教育 8. 成人保健とセクシャリティ 9. 労働者の保健問題の動向とその対策 職業に関連する健康問題とその予防				・講義 ・GW	
8	成人の健康障害と看護	10. 成人の健康障害と看護				講義	
評価方法	筆記試験						
使用テキスト	成人看護学①成人看護学概論 成人保健メヂカルフレンド社 国民衛生の動向						
参考図書	成人看護学総論 成人看護学① 医学書院						
留意点							

科目名	健康危機状況にある人の看護		単位数	1	時間数	30	
開講時期	2年次 前期	担当者	小泉結香、齋藤友紀子 集中ケア認定看護師 救急看護認定看護師				
設定理由	突然発症し生命を脅かす疾病や外傷、疾病から回復するために受ける侵襲的治療は、個人にとって大きな危機であり、日常の周囲のサポートやセルフケアだけでは、危機を回避できない。ここでは、成人にとって健康と生活を脅かす危機について理解し、健康危機状況にある人を支え、回復を促進するために必要な看護について学ぶ。						
科目目標	1. 手術による侵襲的治療を受ける人の健康危機状況と看護の特徴を理解できる。 2. 救命救急治療を必要とする人の健康危機状況と看護の特徴を理解できる。						
回数	学 習 内 容				学習形態		
1	健康の危機状況	1. 成人にとっての健康と危機 2. 健康の危機とは 1) 健康の危機状況とは 2) 代表的な危機状況と看護の特徴 3) 心理的・精神的混乱への支援				講義	
2	侵襲的治療としての手術療法の特徴	1. 手術とは 2. 手術侵襲と生体の反応 3. 周手術期におけるチーム医療と看護師の役割 4. 手術療法を受ける人の意思決定を支える看護 1) インフォームド・コンセント				講義 (臨床外科 総論)	
3	手術による身体機能の悪化の予測とその状況に応じた準備	1. 手術に向けた心理・身体準備 1) 麻酔・手術が及ぼす影響 2) 術前のアセスメントと術前状態の改善 3) 術前オリエンテーションと術前トレーニング 2. 手術前日・当日の看護				講義 (臨床外科 総論)	
4	手術侵襲を最小にとどめるための援助	1. 麻酔導入時の看護 2. 手術室看護師の役割 1) 直接介助と間接介助 2) 手術中の体位と体温管理 3. 回復室での看護				講義 (臨床外科 総論)	
5 6	順調な回復を促進するための援助	1. 手術後患者のアセスメント 2. 手術後患者に対する看護 1) 手術侵襲からの回復の促進 2) 術後合併症予防のための看護 ・急性循環不全、無気肺、深部静脈血栓症、腸閉塞 3) 創傷治癒過程の促進 ・創傷治癒過程、ドレッシング材、各種ドレーン管理				講義 (臨床外科 総論)	

回数	学 習 内 容		学習形態
7	開腹術を受ける人の回復への援助	1. 開腹術の特徴 2. 胃切除を受ける患者の看護 1) 胃切除・再建方法と生理的機能の変化 2) 胃切除術後の合併症とその予防 3) 障害された機能に応じた食事指導	講義 (臨床外科各論)
8	内視鏡下の手術を受ける人の回復への援助	1. 内視鏡下手術の特徴 2. 腹腔鏡下胆嚢摘出術を受ける患者の看護 1) 腹腔鏡下手術の特徴 2) 腹腔鏡下手術の合併症とその予防	講義 (臨床外科各論)
9	開胸術を受ける人の回復への援助 ける人の	1. 開胸術の特徴 2. 肺切除術を受ける患者の看護 1) 肺切除術の特徴 2) 肺を再膨張させるための援助(胸腔ドレーン)	講義 (臨床外科各論)
10	開頭術を受ける人の回復への援助	1. 開頭術の特徴 2. 脳腫瘍摘出術を受ける患者の看護 1) 頭蓋内圧亢進症状とアセスメント 2) 開頭術後の合併症とその予防	講義 (臨床外科各論)
11 12	救命救急の必要な状況にある人の看護	1. 救急医療と救急看護とは 2. 死の概念と脳死判定 3. 救急患者の観察と把握 1) 全身状態の基本的観察と評価 2) 緊急度と重症度の評価とトリアージ	講義 (臨床外科総論)
13 14	集中治療の場と生命危機を回避するための援助	1. 集中治療とは 2. 集中治療を受ける患者の特徴 3. 集中治療での看護師の役割 4. 集中治療を受ける患者の看護 1) 循環管理(スワン-ガンツカテーテル、IABPなど) 2) 呼吸管理と人工呼吸器装着中の管理	講義 (臨床外科総論) 認定看護師 (13回)
15	特徴的な病態・疾患の看護	1. ショック状態にある患者の看護 1) ショックの分類と病態 2) 各種ショックに対する看護 2. 熱傷を受けた患者の看護 1) 熱傷の重症度判定(熱傷深度と熱傷面積) 2) 熱傷各期の病態と援助	講義 (臨床外科総論)
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	臨床外科看護総論 医学書院、臨床外科看護各論 医学書院		
参考図書	周手術期看護論 ニューヴェルヒロカワ、 高齢者と成人の周手術期看護 1、2、3、医歯薬出版株式会社		
留意点			

科目名	セルフマネジメントに向けての看護		単位数	1	時間数	30	
開講時期	2年次 前期	担当者	加邊隆子				
設定理由	成人期にある対象が、何らかの慢性的な病をもった時に、生活者として病気と家庭生活・社会生活の折り合いをつけながら、自分らしく生きていくことが出来るように支援していくことが大切である。そこで、成人期にあり慢性的な健康障害をもつ対象の特徴や対象及び家族が抱える問題についても理解を深め、その人らしい生活を送るための看護方法を学ぶ。						
科目目標	1. セルフマネジメントの考え方や理論・方法が理解できる。 2. 慢性的な疾患を持つ人が病気に対するセルフマネジメントを行いながら、その人らしい生活を送るための看護方法について理解できる。 3. 事例を通して、セルフマネジメントを支援する実践的な看護方法を理解する。						
回数	学 習 内 容				学習形態		
1 2	セルフマネジメント	1. セルフマネジメントの概念 2. セルフマネジメント支援の構成要素 3. セルフマネジメントの主要概念 4. 自己効力理論 5. 成人教育の特徴 6. エンパワメントモデル				講義	
3 4	セルフマネジメントを必要とする対象の特徴	1. 身体的特徴 1) 慢性疾患の特徴 2) 疾患の経過の特徴と患者のセルフケアの課題 2. 心理・社会的な特徴 1) 疾病の受容過程 2) 疾病受容に伴う課題 3) セルフケアの行動変化ステージ 3. 慢性疾患を持つ人と家族 1) 成人期と家族 2) 役割移行のプロセス				講義	
5	セルフマネジメントにおける看護の役割	1. 看護の役割 2. 疾病受容への援助 3. 疾病コントロールのために援助方法 4. 社会生活継続への援助				講義	

回数	学習内容		学習形態
6 7	血糖調節機能障害のある人の看護	1. 糖尿病に関する基礎知識(確認ミニテスト) 2. 検査と診断 3. 治療と看護 1) 目的と原則 2) 糖尿病治療の指標 3) 食事療法 ・適正なエネルギー摂取 ・外食のコツ、アルコールの影響 4) 運動療法 ・実際の運動とフットケア 5) 薬物療法 ・薬剤の特徴、インスリン療法 6) 合併症予防に対する援助	講義
8 9	肝機能障害のある人の看護	1. 肝臓の機能(確認ミニテスト) 2. 肝生検と看護 3. 肝炎のある人の看護 1) インターフェロン療法と看護 4. 肝硬変のある人の看護 1) 食道・胃静脈瘤の破裂予防 2) 肝性脳症の予防 5. 肝細胞癌のある人の看護	講義
10 11	腎機能障害のある人の看護	1. 腎臓の機能(確認ミニテスト) 2. 検査と看護 3. 治療と看護 1) 薬物療法 2) 食事療法 ・蛋白質制限・塩分制限・カリウム制限 3) 安静療法 4) 透析療法 ・血液透析と腹膜透析	講義
12 13	循環機能障害のある人の看護	1. 心臓の機能(確認ミニテスト) 2. 検査・治療と看護 3. うっ血性心不全 1) 急性期と慢性期の看護 2) 心機能を低下させる日常生活の要因と看護	講義
14 15		1. 不整脈 1) 薬物治療と看護 2) ペースメーカー植え込み患者の看護	講義
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	成人看護技術 ③⑤⑦⑧ メヂカルフレンド社、成人看護技術 慢性看護 メヂカルフレンド社		
参考図書	病気がみえる シリーズ MEDIC MEDIA		
留意点	30分を過ぎての遅刻は欠課とする。「疾病と治療」の講義内容を復習してから臨むこと		

科目名	セルフケア再獲得に向けての看護		単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 後期	担当者	加邊隆子、齋藤友紀子 皮膚・排泄ケア認定看護師 乳がん看護認定看護師			
設定理由	成人は自立・自律できる存在であり、セルフケア能力が最も高い時期である。しかし中途障害により従来と同じセルフケアを続けることが出来なくなってしまう場合、新たなセルフケアを獲得するまでには、本人やその支援者も多大な努力が必要となる。従って、ここでは成人期にある人がセルフケアを再獲得する支援法について学習する。					
科目目標	1. 成人のセルフケア再獲得とリハビリテーションについて理解できる。 2. 中途障害、あるいは身体機能の一部を喪失した機能回復・セルフケア再獲得に向けての看護が理解できる。					
回数	学習内容				学習形態	
1 2	成人期にある人のセルフケア再獲得	成人とセルフケア再獲得することの意味 1) セルフケアの低下した成人 2) 中途障害とセルフケア再獲得の看護 (1) 「喪失」体験のセルフケア再獲得への意欲 (2) 学習の困難さに合わせた支援 (3) 人的・物的環境の整備				講義 GW
3	セルフケア再獲得プロセスにおける心理・精神的変化	1. セルフケア再獲得とリハビリテーション看護 1) リハビリテーションの定義 2) 国際障害分類 3) リハビリテーション看護の方法 2. 障害受容に関する理論とその援助 1) コーンンの危機・障害受容モデル 2) 価値転換理論				講義 GW
4	運動器系の障害をもつ対象の看護	障害とリハビリテーション看護 1) ギプス固定時の看護 ・末梢神経障害、関節拘縮 2) 四肢切断手術を受ける人の看護 ・合併症の予防と管理				講義 GW
5	中枢神経系の障害をもつ対象の看護	1. 脊髄損傷とは 2. 脊髄損傷のリハビリテーションプログラム 3. 障害とリハビリテーション看護 4. 合併症予防と管理				講義 GW
6	呼吸器系の障害をもつ対象の看護	1. リハビリテーションを必要とする人の身体的特徴 2. 慢性呼吸不全による心身・生活への影響 3. 呼吸リハビリテーション 4. 呼吸機能障害にある対象の生活支援と生活指導				講義 GW
7	循環器系の障害をもつ対象の看護	1. 慢性心機能障害による心身・生活への影響 2. 心臓リハビリテーション 3. 心機能障害にある対象の生活支援と生活指導				講義 GW

回数	学 習 内 容		学習形態
8	感覚器障害をもつ対象の看護	頭頸部の手術をうける対象の看護 1) 手術が与える生活への影響 2) 喉頭全摘術の機能・形態の変化とその原因 3) 術後の合併症（気管カニューレの状態） 4) 創部の安静とリハビリテーション	講義
9 10	排泄経路を変更した対象の看護	1. 排泄の意義 2. 排泄経路を変更すること 3. 大腸切除を受ける術前後の看護 4. 大腸切除した対象の生活支援とその指導 5. ストーマ造設患者の術前看護 6. ストーマ造設患者の術後看護	認定看護師 講義
11	乳房を喪失した対象の看護	乳房切除患者の看護 1) 術前・術後看護 ・ドレーン管理 ・乳房リハビリテーション 2) 乳房切除受容への援助	認定看護師 講義
12	重要臓器を喪失した対象の看護 ①	1. 食道全摘術を受ける患者の看護 1) 食道切除に伴う生理的ニーズの変化 2. 食道切除をした人の看護	講義
13 14 15	重要臓器を喪失した対象の看護 ②	膵頭十二指腸切除術を受けた対象の看護 1. 膵頭十二指腸切除術とは(術式の特徴と手術後の身体) 2. 術後の看護(セルフケア再獲得に向けての退院指導) 1) ドレーン挿入の目的と管理の方法 2) 栄養・食事摂取における問題とその看護	講義 GW
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	リハビリテーション看護 医学書院 臨床外科各論 医学書院 成人看護学 ②③⑥⑫ メヂカルフレンド社		
参考図書	健康危機状況／セルフケア再獲得 成人看護② メディカ出版		
留意点			

科目名	緩和ケアを必要とする人の看護		単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 後期	担当者	葛谷辰枝、齋藤友紀子 緩和ケア専門看護師 がん化学療法看護認定看護師			
設定理由	多死社会を迎える社会の要請に伴い、終末期におけるクオリティ・オブ・ライフ(QOL)の向上が重要視されている。緩和ケアでは疾患の診断早期から人間が体験する苦痛を全人的にとらえ、その人や家族にとってのQOLを高める看護を学ぶ。					
科目目標	積極的治療が困難な成人とその家族に対する全人的苦痛の緩和、QOLを高めるための看護が理解できる。					
回数	学習内容				学習形態	
1	死について考える	死生観			講義	
2	緩和ケアの現状と課題	1. 緩和ケア・ホスピスケア・ターミナルケアとは 2. ホスピス、緩和ケアの歴史			講義	
3	緩和ケアをめぐる倫理的課題	1. インフォームド・コンセントとインフォームド・チョイス 2. アドバンス・ケア・プテンニング、リビングウイル 3. 安楽死と尊厳死			講義	
4	精神的苦痛の緩和	1. 死にゆく人の心理過程(キューブラ・ロス、バククマン) 2. 危機介入(フィンク) 3. 精神的ケア(ケアリング、コミュニケーション)			講義	
	社会的苦痛の緩和 スピリチュアルペインの緩和	1. 社会的苦痛へのアプローチ 2. 社会資源の活用(経済的援助他) 3. スピリチュアルペインへのケア				
5	血液・造血器疾患を持つ人の看護	1. 血液、造血器疾患の病態生理 2. 検査と治療 3. 主なケア			講義	
6	がん性疼痛以外の症状の緩和	1. 代表的な症状マネジメント (全身倦怠感、浮腫、呼吸困難、悪心・嘔吐、腸閉塞、腹水、胸水、他) 2. 代替・補完療法(心と体の調和ケア)			講義	
7	身体的苦痛の緩和	1. がんの痛みのマネジメント (痛みのアセスメント、マネジメント、WHOがん性疼痛治療の5原則)			認定看護師 講義	
8		2. 代表的な鎮痛薬の種類と使用方法 (モルヒネの副作用、オピオイドローテーション、レスキュー) 3. チームアプローチの実際			認定看護師 講義	

回数	学 習 内 容		学習形態
9	放射線療法を受ける人の看護	1. 放射線の人体への影響 2. 放射線療法時のケア	講義
10	化学療法を受ける人の看護	1. がんの治療法 2. 抗がん剤の効果と有害事象の対策 3. 安全な投与へのケア 4. 日常生活指導	認定看護師 講義
11	家族・遺族ケアの概念と援助	1. 家族・遺族ケア 2. 家族の精神的、社会的苦痛 3. 家族の死への気づき 4. 悲嘆のプロセスとグリーフケア	講義
	臨死期のケアの基礎	1. 臨死期のケア 2. 死体現象 3. 死後の処置(エンゼルケア)	
12	エンディングの実際	映画：「エンディングノート」を観る	DVD 鑑賞
13	感染状態にある人の看護	1. 結核に感染した人の看護 2. HIVに感染した人の看護	講義
14 15	心とからだの調和を生むケアの 実際	看護師ができる癒しへのアプローチ タッチング・ハンドマッサージ・リンパマッサージ・温罨法・リラクセス法・音楽療法・アロマセラピーなどの体験	演習
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ成人看護学⑦ 緩和ケア(MCメディカ出版)		
参考図書	心とからだの調和を生むケア (へるす出版) がん看護 (医学書院)		
留意点	12回授業：「DVDエンディングノートを鑑賞して」翌日提出をもって出席とする。 14. 15回演習：演習前に「演習計画書」を提出する。演習後に演習の「リフレクションシート」提出をもって出席とする。		

科目名	看護過程を展開する技術		単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 後期	担当者	成人看護学担当教員全員			
設定理由	<p>成人期の特徴を踏まえて、看護の立場から対象の健康に関わる問題を明らかにし、その問題を解決していく過程を学ぶ。</p> <p>また、健康危機状況にある人の看護・セルフマネジメントに向けての看護において必要な看護技術が習得できるよう演習を実施していく。</p>					
科目目標	<p>1. 成人期の特徴を踏まえた看護過程の展開ができる。</p> <p>2. 健康危機状況にある人の看護・セルフマネジメントに向けての看護における必要な技術を身につけることができる。</p>					
回数	学 習 内 容					学習形態
1～11	成人期における事例展開	<p>PBL テュートリアル教育の導入</p> <p>1. 事例紹介・学習課題の明確化と学習計画立案</p> <p>事例1：健康危機状況にある対象</p> <p>事例2：セルフマネジメントを必要とする対象</p> <p>事例3：緩和ケアを必要とする対象</p> <p>2. 事例の全体像を把握</p> <p>3. 看護診断を確定するために必要な情報を収集</p> <p>4. 看護診断を導く分析統合の思考過程</p> <p>5. 看護診断を確定</p> <p>6. 看護計画を立案</p> <p>7. 各事例から看護診断を導く思考過程</p> <p>グループ発表会</p>				GW PBL学習
12 13	健康危機状況にある人の看護技術	<p>1. 術直後の看護(シミュレーション演習)</p> <p>2. 人工呼吸器装着中の患者の体位変換</p> <p>3. 弾性ストッキングの装着方法</p>				演習
14 15	セルフマネジメントが必要な人の看護技術	<p>1. 血糖測定とインスリン注射(ロールプレイ演習)</p> <p>2. 糖尿病患者に必要な観察</p> <p>3. 足病変のリスクのアセスメント</p>				演習
評価方法	GW参加状況等 平常考査、筆記試験など総合的に評価					
使用テキスト	なし					
留意点	事例を理解する上で必要と思われる事前学習を実施してGWに臨むこと 看護技術演習は、事前課題レポート有(演習前に課題を提示する)					

科目名	成人看護学実習 A		単位数	2	時間数	90
実習時期	3年次 前期・後期	担当者	成人看護学担当教員			
実習目的	セルフマネジメント・セルフケア再獲得が必要な人を理解し、看護が実践できる基礎的能力を養う					
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者及び家族の疾病・障害の受容、疾病コントロールのための行動変容プロセスの支援を理解できる</li> <li>2. 疾病および治療による身体の変化について理解できる</li> <li>3. 疾病および検査・治療に伴う身体的・心理的苦痛に対して援助ができる</li> <li>4. セルフケア能力に応じた生活の支援と自立への援助ができる</li> <li>5. チーム医療・継続看護について理解できる</li> </ol>					
実習内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期の患者を一人受け持ち、看護過程を展開する</li> <li>2. 実習内容：セルフマネジメントに向けての看護 セルフケア再獲得に向けての看護</li> <li>3. 実習期間：4月～7月、9月～10月</li> <li>4. 実習場所：東京慈恵会医科大学附属第三病院</li> </ol>					
評価方法	<p>所定の評価表を用いる。 実習状況・実習記録・カンファレンス・レポート等から総合的に評価する。</p>					
科目履修上の条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習にあたり次の科目を履修していること。 人体の構造と機能(6科目)、診療に伴う援助技術、 診療に伴う援助技術の実際、成人の生活と健康、 セルフマネジメントに向けての看護、看護過程を展開する技術、 基礎看護学実習Ⅱ</li> <li>2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の4/5以上の出席が必要である。</li> </ol>					

科目名	成人看護学実習 B		単位数	2	時間数	90
実習時期	3年次 前期・後期	担当者	成人看護学担当教員			
実習目的	健康危機状況にある人を理解し、看護が実践できる基礎的能力を養う					
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 麻酔や手術侵襲による身体変化について理解できる</li> <li>2. 周手術期にある人の心理的特徴を理解できる</li> <li>3. 術後合併症の予防と、回復を促進するための援助ができる</li> <li>4. 身体機能の変化に応じた、社会への適応と復帰を目指すための援助ができる</li> <li>5. 周手術期・集中治療・救急治療におけるチーム医療の実際について知ることができる</li> </ol>					
実習内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期の患者を一人受け持ち、看護過程を展開する</li> <li>2. 実習内容：健康危機状況における看護</li> <li>3. 実習期間：4月～7月、9月～10月</li> <li>4. 実習場所：東京慈恵会医科大学附属第三病院</li> </ol>					
評価方法	<p>所定の評価表を用いる。</p> <p>実習状況・実習記録・カンファレンス・レポート等から総合的に評価する。</p>					
科目履修上の条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習にあたり次の科目を履修していること。  診療に伴う援助技術、診療に伴う援助技術の実際、  人体の構造と機能(6科目)、成人の生活と健康、  健康危機状態にある人の看護、セルフケア再獲得に向けての看護、  看護過程を展開する技術、基礎看護学実習Ⅱ</li> <li>2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の4/5以上の出席が必要である。</li> </ol>					

科目名	成人看護学実習C		単位数	2	時間数	90
実習時期	3年次 前期・後期	担当者	成人看護学担当教員			
実習目的	緩和ケアを必要とする人を理解し、看護が実践できる基礎的能力を養う					
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 緩和ケアを必要とする人の全人的苦痛のアセスメントができる</li> <li>2. 全人的苦痛の緩和、QOLを高めるための援助が理解できる</li> <li>3. 緩和ケアを必要とする人の家族への援助が理解できる</li> <li>4. チームアプローチの実際について知ることができる</li> <li>5. 自己の死生観を深めることができる</li> </ol>					
実習内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期の患者を一人受け持ち、看護過程を展開する</li> <li>2. 実習内容：緩和ケアを必要とする人の看護</li> <li>3. 実習期間：4月～7月、9月～10月</li> <li>4. 実習場所：東京慈恵会医科大学附属第三病院</li> </ol>					
評価方法	<p>所定の評価表を用いる。  実習状況・実習記録・カンファレンス・レポート等から総合的に評価する。</p>					
科目履修上の条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習にあたり次の科目を履修していること。  人体の構造と機能(6科目)、診療に伴う援助技術、  診療に伴う援助技術の実際、成人の生活と健康、  緩和ケアを必要とする人の看護、看護過程を展開する技術  基礎看護学実習Ⅱ</li> <li>2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の4/5以上の出席が必要である。</li> </ol>					

# 老年看護学



## 1. 考え方

老年期は、人間として成長発達最終段階である。老年期を生きる人は、加齢現象による身体的機能の低下により生活や心理社会的側面に大きな影響を及ぼすが、その反面長い人生経験と知恵をもった存在である。人口の高齢化がますます進む中、老年者が生きる社会はめまぐるしく変化している。よって老年看護学では老年期の特徴を理解し、老年者の生きる社会に目を向け、ひとりひとりがかけがえのない存在として尊敬され自立した生活を送るよう看護するのに必要な知識・技術・態度を習得する。

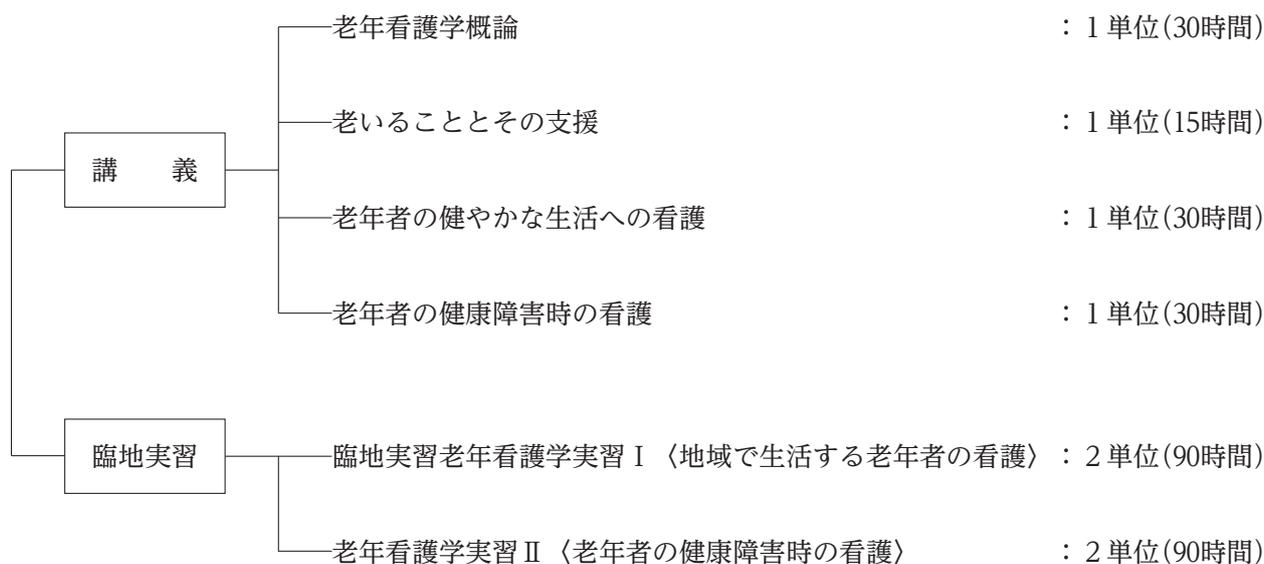
## 2. 目的

老年期にある対象の特徴、加齢による生活への影響や健康障害時の特徴を理解し生き生きとした生活ができるような看護について学ぶ。

## 3. 目標

- 1) 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的側面を知り、そのライフステージを理解する。
- 2) 老年者が健康に生活する意義について理解し、老化に伴う保健活動について学ぶ。
- 3) 老年期の健康問題を理解し、健康障害をもつ老年者と家族に対する看護の方法を学ぶ。
- 4) 人生の終焉期にある老年者の生命と人格を尊重する態度を養い、老年観をもつことができる。

## 4. 構成



科目名	老年看護学概論		単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 後期	担当者	那須詠子、泉 祐介			
設定理由	我が国の高齢者人口の割合は高くなり誰もが人生80年を生きる時代となった。同時に高齢者を取り巻く社会はめまぐるしく変化している。本科目では高齢者の理解を深め、高齢者のより良く生きる権利について考える。さらに高齢者健康問題に着目し、高齢者が健康で生活するための社会システムについて考える。					
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の特性と生活への影響を理解する。</li> <li>2. 高齢者を取り巻く健康問題と社会システムを理解できる。</li> <li>3. 高齢期を生きる人の人権と倫理的課題について考える。</li> <li>4. 老年看護の理念・目標・原則を理解できる。</li> </ol>					
回数	学 習 内 容				学習形態	
1	老年看護学がなぜ必要か	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 高齢期の区分</li> <li>3. 老化・加齢・老い</li> </ol>			講義	
2	老年看護の理念・目標・原則	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年看護の理念</li> <li>2. 老年看護の目標</li> <li>3. 老年看護の原則</li> </ol>			講義	
3・4	高齢者の特性1	1. 加齢に伴う身体的特徴			講義	
5	高齢者の特性2	1. 加齢に伴う精神的特徴			講義	
6	高齢者の特性3	1. 加齢に伴う社会的特徴			講義	
7・8	高齢者のライフストーリー	1. 永遠のゼロ			DVD鑑賞	
9	高齢者を取り巻く諸問題1	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本における高齢化現象と諸問題</li> <li>2. 高齢者の健康問題</li> <li>3. 高齢者にとって健康とは</li> </ol>			講義	
10	高齢者を取り巻く諸問題2	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族形態の変化</li> <li>2. 高齢者介護と家族問題</li> <li>3. 家族への支援</li> </ol>			講義	
11	高齢者を取り巻く社会保障制度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルサポートシステム</li> <li>2. ゴールドプラン21と介護保険制度</li> <li>3. 施設系サービス</li> <li>4. 多職種との連携・看護と介護</li> </ol>			講義	
12・13	高齢者の生活への影響	1. 疑似体験			演習	

回数	学 習 内 容		学習形態
14	老年医学 1	1. 平均寿命と健康寿命 2. フレイル 3. フレイルに関する状態 4. フレイルを予防する栄養	講義
15	老年医学 2	1. 高齢者特有の症状と治療	講義
評価方法	筆記試験、レポート		
使用テキスト	老年看護学① 老年看護学概論 老年保健(メヂカルフレンド社)、国民衛生の動向		
留意点	20分を過ぎての遅刻は欠課とする。国民衛生の動向は「高齢者を取り巻く諸問題1・2」の単元から使用する。「疑似体験」では外部実習ユニホームとし、在宅看護論実習室で行なう。		

科目名	老いることとその支援		単位数	1	時間数	15
開講時期	2年次 前期	担当者	那須詠子、高橋沙織 他			
設定理由	<p>高齢者人口の割合の増加に伴い、家族構成や家族のあり方も変化している。高齢者をひとりのかけがえのない存在として、その人が生きてきた過程や価値観を尊重した関わりは、学生がもつ高齢観に影響される。本科目では学生が高齢者や自らにもやがて訪れる高齢期に興味を持ち老いの意味や価値について考え、高齢観を養うことを目的とする。</p>					
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老化が人間に及ぼす影響が考えられる。</li> <li>2. 人生観や生活が高齢観に影響を及ぼすことが分かる。</li> <li>3. 老いの意味や価値が考えられる。</li> <li>4. 自己の高齢観・人間観が深められる。</li> <li>5. 高齢者が生活しやすい社会について考えられる。</li> </ol>					
回数	学 習 内 容			学習形態		
1	ガイダンス	ゼミナールとは ゼミナールの進め方		講義		
2	ゼミナール1	担当者が指定された各章を要約、考察し討議内容を 決めそれをもとに討論する。		GW		
3	ゼミナール2	同上		GW		
4	ゼミナール3	同上		GW		
5	ゼミナール4	同上		GW		
6	自由研究発表準備	自由研究した内容をまとめる。		GW		
7・8	自由研究発表	自由研究の発表を行う。		GW発表		
評価方法	ゼミナールの参加度、ゼミナールの記録、グループ調査及び発表内容等で総合的に評価する。					
使用テキスト	使用テキストは2年次にお知らせします。					
留意点	講義が始まるまでに使用テキストを読み感想文を書く。講義はゼミナール形式で行う。自らが自分の考えや自分自身を発見し、自分らしさを発展させ想像して行く場や機会になるように主体的に取り組んでほしい。遅刻は欠課とみなす。					

科目名	老年者の健やかな生活への援助		単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 前期	担当者	那須詠子 栄養サポートチーム専門療法士			
設定理由	加齢と共に既往歴などとの兼ね合いから老年者の生活には変化が生じ、自立した生活を送れる人、虚弱な人、要介護状態の人など健康レベルに個人差が大きい。本科目ではどのような健康レベルであっても1人の老年者がいきいきと安寧に生活するために、加齢による生活の変化を踏まえ、生活行動の視点でアセスメントし、その人の出来ない部分は援助し、持てる力は最大限に活かす看護について学ぶ。またこれまで生きてきた過程や価値が尊重され、生活の質(QOL)を高めていくための看護について学ぶ。					
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 加齢に伴う生活への影響が理解できる。</li> <li>2. 老年者の生活行動の視点からアセスメントできる。</li> <li>3. 老年者の健康とその意義を理解できる。</li> <li>4. 老年者の健康増進に向けて看護について理解できる。</li> <li>5. 生活援助の方法が理解できる。</li> </ol>					
回数	学 習 内 容					学習形態
1	「食べる」ことの特徴と看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「食べる」機能の加齢による特徴</li> <li>2. 老年者の「食べる」ことのアセスメント</li> <li>3. 「食べる」ことを支える看護</li> </ol>				講義
2	摂食・嚥下障害の看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 摂食・嚥下障害とは</li> <li>2. 摂食・嚥下障害のアセスメント</li> <li>3. 摂食・嚥下障害の看護</li> </ol>				講義
3～4	嚥下調整食援助の実際	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. おいしく食べることを支える</li> <li>2. 加齢に伴う変化</li> <li>3. 嚥下障害時の食事援助の実際</li> </ol>				演習 講義
5	「排泄する」ことの特徴と看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「排泄する」機能の加齢による特徴</li> <li>2. 老年者の「排泄する」ことのアセスメント</li> <li>3. 「排泄する」ことを支える看護</li> <li>4. オムツの選択と交換の方法</li> </ol>				講義
6	尿失禁の看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 尿失禁の分類と要因</li> <li>2. 生活に及ぼす影響</li> <li>3. 尿意失禁のアセスメント</li> <li>4. 尿意失禁のケア</li> </ol>				講義
7	「からだを動かす」ことの特徴と看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「からだを動かす」機能の加齢に伴う特徴</li> <li>2. 「からだを動かす」意義</li> <li>3. 廃用症候群</li> <li>4. 転倒の要因と予防</li> </ol>				講義
8	適切な運動ができるようにするための看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 適切な運動習慣とは</li> <li>2. 臥位から座位・立位への援助</li> <li>3. 歩行介助</li> </ol>				講義

回数	学 習 内 容		学習形態
9～12	アクティビティケアの企画	1. アクティビティケアとは 2. 実施上の留意点 3. アクティビティケアの企画	講義  グループ ワーク
13	アクティビティケアの運営	グループ毎に発表し評価する	発表
14	「身体の清潔」の特徴と看護	1. 老年者の皮膚の特徴 2. ドライスキンと予防的スキンケア 3. フットケア 4. 入浴の危険性と看護 5. 陰部洗浄	講義
15	「身だしなみを整える」ことの特徴と看護	1. 身だしなみを整えることの特徴 2. 整髪・髭剃り 3. 口腔ケア・入れ歯の洗浄と管理	講義
評価方法	筆記試験70点、アクティビティ企画書・発表内容・グループワーク参加度30点		
使用テキスト	老年看護学② 健康障害をもつ高齢者の看護 メヂカルフレンド社		
参考図書	和泉キヨ子・小山幸代編著「看護実践のための根拠がわかる老年看護技術」メヂカルフレンド社 山田律子・井出訓編集「生活機能からみた老年看護過程」医学書院		
留意点	アクティビティケアの運営には企画書に評価を記載してグループ毎に1部、指定された日時に担当教員に提出する。		

科目名	老年者の健康障害時の看護		単位数	1	時間数	30	
開講時期	2年次 後期	担当者	高橋沙織、認知症看護認定看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師				
設定理由	加齢により生活行動の変化する中で、健康障害が重なると様々な特徴があらわれる。本科目では老年者の健康障害の特徴を理解し、起こる可能性のある合併症に対する予防的関わりと起きた時の看護について学ぶ。また健康障害が起きても、老年者の持てる力が最大限に発揮され、生活習慣や価値観に基づいた生き方の選択ができ、生き生きと生活するための看護について学ぶ。						
科目目標	1. 加齢と健康障害の関係が理解できる。 2. 老年者の主な健康障害時の特徴と看護が理解できる。						
回数	学 習 内 容				学習形態		
1～2	薬物療法を必要とする老年者の看護	1. 加齢に伴う薬物動態の変化 2. 薬物療法による有害反応 3. 老年者への与薬の方法				講義	
3	脱水状態にある老年者の看護	1. 脱水を起こしやすい要因 2. 脱水症状の特徴 3. 脱水の予防 4. 脱水状態の看護				講義	
4	感染状態にある老年者の看護	1. 感染を起こしやすい要因 2. 感染症状の特徴 3. 感染状態にある人の看護				講義	
5～6	周手術期にある老年者の看護	1. 加齢と手術侵襲 2. 手術を受ける老年者の特徴 3. 術前の看護(大腿骨頸部骨折を例にして) 4. 術後の看護 5. 術後せん妄のアセスメント 6. せん妄予防とせん妄時の看護				講義	
7	リハビリテーションを必要とする老年者の看護	1. 老年者のリハビリテーションの意義 2. リハビリテーションを受ける老年者の特徴 3. アセスメントの視点 4. リハビリテーションを受ける老年者の看護				講義	
8	コミュニケーション障害時の看護	1. 難聴の老年者とのコミュニケーション 2. 補聴器装着時の看護 3. 視覚機能の低下のある老年者とのコミュニケーション 4. 老人性白内障の看護				講義 ・ 学外演習	

回数	学 習 内 容		学習形態
9～10	褥瘡の予防と看護	1. 褥瘡の特徴と要因 2. アセスメント リスク・状態・治癒過程 3. 褥瘡予防 4. 褥瘡の状態に応じたケア	講義  演習
11～12	認知症を生きる高齢者と家族の理解	「折り梅」鑑賞しレポートにまとめる	ビデオ鑑賞
13	認知症の理解	1. 認知症の定義 2. 認知症の診断と治療 3. 認知症疾患の病態と経過 4. 間違われやすい疾患や症状	講義
14	認知症を生きる高齢者の症状と看護	1. 認知症の症状 2. 保持されている力 3. アセスメントの視点 4. コミュニケーションの方法 5. 周辺症状の看護	講義
15	認知症高齢者と共に生きる家族の看護	1. 認知症高齢者と共に生きる家族の発達過程 2. 認知症高齢者と共に生きる家族の看護	講義
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	老年看護学② 健康障害をもつ高齢者の看護 メヂカルフレンド社		
参考図書	和泉キヨ子・小山幸代編著「看護実践のための根拠がわかる老年看護技術」メヂカルフレンド社 山田律子・井出訓編集「生活機能からみた老年看護過程」医学書院		
留意点	「折り梅」鑑賞レポートは翌朝9：00までに教員室前の提出ボックスに提出する。		

科目名	老年看護学実習Ⅰ		単位数	2	時間数	90
実習時期	2年次 後期	担当者	那須詠子、高橋沙織 他			
実習目的	老化が生活に及ぼす影響を理解し、老年の日常生活のあり方を学ぶ					
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期にある対象の特徴が理解できる</li> <li>2. 老年者の日常生活援助の必要性が理解できる</li> <li>3. 老年者の生活史、人生観、価値観を尊重した接し方が理解できる</li> <li>4. 老年者と家族の関係について考えることができる</li> <li>5. 老年者に必要な社会資源を知り、保健・医療・福祉の連携について考えることができる</li> </ol>					
実習内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉協議会のふれあい給食・高齢者給食・介護予防事業に参加する。</li> <li>2. 介護保健・福祉施設・認知症対応型共同生活介護(グループホーム)に入所している老年者と関わり、老年者の特性や生活の実態を理解し、生活支援を実施する。</li> <li>3. 実習期間及び場所：12月～2月 <ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉協議会事業 (1週間)</li> <li>介護老人保健施設・通所リハビリテーション (1週間)</li> <li>慈恵医大第三病院外来、 (1週間)</li> <li>介護老人福祉施設、</li> <li>認知症対応型共同生活介護(グループホーム)</li> </ul> </li> </ol>					
評価方法	<p>所定の評価表を用いる。</p> <p>実習状況・実習記録・カンファレンス・レポート等から総合的に評価する。</p>					
科目履修上の条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習にあたり次の科目を履修若しくは履修条件を満たしていること。 老年看護学概論、老いることとその支援、老年者の健やかな生活への看護</li> <li>2. 実習評価を受けるには、実習時間数の4/5以上の出席が必要である。</li> </ol>					

科目名	老年看護学実習Ⅱ		単位数	2	時間数	90
実習時期	3年次 前期・後期	担当者	那須詠子、高橋沙織 他			
実習目的	健康障害がある老年者を理解し、看護を展開する					
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期の特徴と健康障害の関連が理解できる</li> <li>2. 対象の健康上の問題が理解できる</li> <li>3. 問題を解決するために必要な看護を計画・実施・評価できる</li> <li>4. 対象の生活信条・信念・価値観を尊重した行動がとれる</li> <li>5. 保健・医療・福祉の連携と調整について考えられる</li> </ol>					
実習内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期の患者を一人受け持ち、看護過程を展開する。</li> <li>2. 実習期間：4月～7月、9月～10月</li> <li>3. 実習場所：東京慈恵会医科大学附属第三病院</li> </ol>					
評価方法	<p>所定の評価表を用いる。  実習状況・実習記録・カンファレンス・レポート等から総合的に評価する。</p>					
科目履修上の条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習にあたり次の科目を履修していること。  老年看護学実習Ⅰ、老年者の健康障害時の看護、基礎看護学実習Ⅱ</li> <li>2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の4／5以上の出席が必要である。</li> </ol>					

# 小児看護学



## 1. 考え方

小児期は社会的存在としての人間へと絶え間ない成長発達を遂げる時期である。人間のライフサイクルの初期段階にあり、周囲からの影響を受けやすい小児の健康生活の意義は大きく、社会や家族が持つ役割は大きい。しかし、小児を取り巻く環境の変化により心と身体の問題や社会問題が増加している。

小児看護学では、未来を担う小児が健全な成長発達を遂げるために必要とされる健康上の問題を理解し、変化する社会の中で子どもの人権を守り、小児および家族の最善の利益を守るために必要な知識を得たうえで、支援するための具体的な方法について学ぶ。

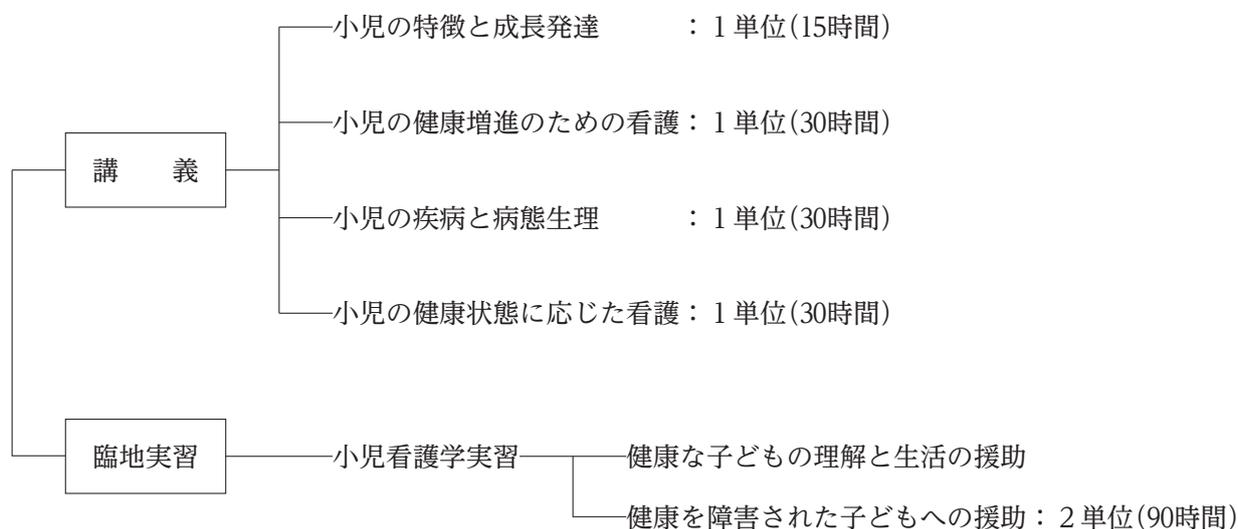
## 2. 目的

小児各期の特徴および対象とその家族を理解し健康段階に応じて対象が望ましい成長発達を遂げるために必要な看護を実践する基礎的能力を養う。

## 3. 目標

- 1) 小児の特徴を理解し、小児看護の役割を学ぶ。
- 2) 小児の成長発達を理解し、日常生活の援助に必要な基本的知識と技術を習得する。
- 3) 健康障害をもつ小児と家族を理解し、小児各期に特有な健康問題を学ぶ。
- 4) 健康障害を持つ小児およびその家族への援助方法を学ぶ。

## 4. 構成



科目名	小児の特徴と成長発達		単位数	1	時間数	15
開講時期	1年次 後期	担当者	荒谷美香			
設定理由	小児はたえず成長・発達を続けている。したがって健康障害とそれに伴う問題も、成長の流れのなかでとらえなければならない。今後小児看護を学習していくにあたり、まずは小児を知るところから始めましょう。					
科目目標	1. 小児看護の対象の特性を学び、小児観・家族観を深める。 2. 小児看護の目標と課題を理解し、小児看護観をはぐくむ。					
回数	学 習 内 容					学習形態
1・2	小児の特徴	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児期の区分</li> <li>2. 小児の特性</li> <li>3. 小児を取り巻く環境</li> <li>4. 諸統計からみた小児と家族の健康問題</li> <li>5. 母子保健と子育て支援</li> </ol>				講義 GW
3	小児看護の特質	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護の対象と目標</li> <li>2. 小児看護の機能と役割</li> <li>3. 小児看護の課題と展望</li> </ol>				講義
4	小児看護における倫理	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児の権利と変遷</li> <li>2. 子どもの権利条約</li> <li>3. 権利擁護(アドボカシー)</li> <li>4. インフォームドアセント</li> <li>5. 子どもの権利の尊重と倫理の問題</li> </ol>				講義
5～8	小児の成長発達	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成長発達の原則と影響因子</li> <li>2. 形態的・機能的発達</li> <li>3. 心理・社会的発達</li> <li>4. 発達評価と家庭環境アセスメント</li> </ol>				講義
評価方法	筆記試験					
使用テキスト	小児看護学① 小児看護学概論 小児保健 メヂカルフレンド社 国民衛生の動向					
留意点	小児医療や看護に関連するニュースに関心を持ち、社会の一員としての行動を考えてほしい					

科目名	小児の健康増進のための看護		単位数	1	時間数	30	
開講時期	2年次 前期	担当者	高橋 衣 他				
設定理由	ヒトは生まれてからすぐにひとりで生活を始めるのではなく、周囲の大人が小児の未熟さを補い、養護する必要がある。しかしながら現代は、育児に関する不安や悩みを抱えている親も少なくない。小児の健やかな成長・発達のためには、小児の直接的な支援とともに、家族が安心して育児にあたる環境を整える必要がある。疾病や事故を予防し、より健康的な生活が送れることを目指した健康教育を家族および段階に応じて小児自身にも行う必要があるため、その知識を習得する。						
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児各期の健やかな成長・発達をとげるための生活とその援助が理解できる。</li> <li>2. 小児看護の場と看護の特徴が理解できる。</li> <li>3. 小児における疾病の経過と看護が理解できる。</li> <li>4. 小児と家族の援助に必要な基礎的知識・技術を習得する。</li> </ol>						
回数	学 習 内 容				学習形態		
1・2	乳児の健康増進と安全な環境の提供	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児期の生活行動の特徴 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 栄養(授乳・離乳食)</li> <li>2) 排泄</li> </ol> </li> <li>2. 親子関係</li> <li>3. 事故防止と安全対策</li> <li>4. 地域保健サービスの活用</li> </ol>				講義 GW 演習	
3・4	幼児の健康増進と安全のための看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な生活習慣の確立にむけての看護</li> <li>2. 食生活と栄養</li> <li>3. 自我の発達と遊び</li> <li>4. 予防接種</li> <li>5. 事故防止と安全対策</li> </ol>				講義 GW 演習	
5	学童の健康増進とセルフケアの発達	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. セルフケアと保健教育</li> <li>2. 食生活と食育</li> <li>3. 学校への適応</li> <li>4. 事故防止と安全対策</li> </ol>				講義	
6	思春期の子どもの健康増進とアイデンティティの確立	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. セルフケアと保健教育</li> <li>2. 親からの自立</li> <li>3. 異性への関心</li> <li>4. 小児の性意識の変化と逸脱行動</li> </ol>				講義	
7	外来における小児と家族	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児医療の動向と課題</li> <li>2. 小児外来の特徴と看護</li> <li>3. 虐待への気づきと対応</li> </ol>				講義	
8	病気や入院が小児と家族に与える影響	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児の病気の理解と説明</li> <li>2. 病気や入院に伴う小児の反応</li> <li>3. 小児の病気や入院が同胞・家族に及ぼす影響</li> <li>4. 快適な病院環境に向けての看護</li> </ol>				講義	

回数	学 習 内 容		学習形態
9～12	小児看護に必要な看護技術	1. コミュニケーション技術 フィジカルアセスメント 2. 治療に伴う小児看護技術① 輸液管理・与薬 経管栄養法 3. 治療に伴う小児看護技術② 検体採取(採血、採尿) 腰椎穿刺・骨髄穿刺 4. プレパレーションの実際	講義 演習  GW
13	急性的経過をたどる健康問題・障害と看護	1 急性期の小児と家族の特徴 2. アセスメントの視点と共通する問題点 3. 急性的経過をたどる小児と家族の看護目標	講義
14	慢性的経過をたどる健康問題・障害と看護	1. 慢性的経過をたどる小児と家族の体験と思い 2. 小児慢性特定疾患治療研究事業 3. 小児の発達とセルフケア獲得への援助 4. 地域との連携・調整	講義
15	ターミナル期の健康障害の主な症状と看護	1. 小児の死の概念 2. ターミナル期にある小児の心身の状態と看護ケア 3. 小児の死を看取る家族の反応と援助	講義 DVD 視聴
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	小児看護学① 小児看護学概論 小児保健 メヂカルフレンド社 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護 メヂカルフレンド社		
留意点	小児看護技術を始めとした演習では、ナーシングスキル等事前学習をして臨むこと		

科目名	小児の疾病と病態生理			単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 前期	担当者	勝沼俊雄 他				
設定理由	<p>小児の疾病は、成人に比べて進行が速く、短時間で重篤な状態になることも少なくない。また、小児は感染に対する抵抗力が弱く、感染症に罹患する危険性も高い。しかも小児特に乳幼児期は、苦痛や不快などの自覚症状をことばで適切に表現できない場合があり、異常の発見が遅れる可能性がある。そのため、小児の健康段階に応じた看護を学ぶにあたり、まずは小児期によくみられる疾患や症状についての病態生理も含めた基礎的知識をおさえる。</p>						
科目目標	健康障害を持つ小児と家族を理解し、小児期に特有な健康問題を学ぶ。						
回数	学 習 内 容						学習形態
1～15	<p>小児の主な健康障害の病態・診断・検査・治療</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 発達の障害</li> <li>2) 消化吸収機能の障害</li> <li>3) 排泄機能の障害</li> <li>4) 呼吸機能の障害</li> <li>5) 循環機能の障害</li> <li>6) 造血機能の障害</li> <li>7) 防衛調節機能の障害</li> <li>8) 内分泌・代謝障害</li> <li>9) 精神機能の障害</li> <li>10) 悪性新生物</li> <li>11) 神経・筋疾患</li> </ol>						講義
評価方法	筆記試験						
使用テキスト	<p>小児看護学① 小児看護学概論 小児保健 メヂカルフレンド社  小児看護学② 健康障害を持つ小児の看護 メヂカルフレンド社</p>						
留意点							

科目名	小児の健康状態に応じた看護		単位数	1	時間数	30	
開講時期	2年次 後期	担当者	立花春香 他				
設定理由	小児の健康障害は、一時的な苦痛体験だけでなく生涯にわたる障害を残すこともあり、家族に与える負担も大きい。生命の危険から守り、その健やかな成長・発達を脅かす様々な苦痛や恐怖を早期に緩和するために必要な看護の知識を学ぶ。						
科目目標	1. 小児と家族に起こりやすい・直面しやすい状況に応じた看護が理解できる。 2. 小児特有の疾患が小児と家族におよぼす影響を理解し、健康障害を持つ小児とその家族への援助方法を学ぶ。 3. 小児期の特徴をふまえた看護過程の展開ができる。						
回数	学 習 内 容				学習形態		
1	手術を受ける小児と家族	1. 手術を受ける小児の特徴 2. 手術を受ける小児の心身の準備 3. 小児の術後の看護				講義	
2	救急処置を必要とする小児と家族	1. 小児の事故・外傷と虐待の特徴 2. 小児救急におけるトリアージと対応 3. 異物(気道・食道)に対する看護 4. 溺水に対する看護 5. 熱傷に対する看護 6. 救急処置を受ける小児と家族へのケア				講義	
3	感染予防の必要がある小児と家族	1. 適切な感染予防策の考え方 2. 感染を受けやすい状態にある小児 3. 小児特有の感染症と看護				講義	
4	呼吸機能障害のある小児の看護	1. 小児によくみられる呼吸器疾患 2. 主な症状と看護 呼吸困難 3. 治療に伴う小児看護技術 呼吸管理				講義	
5	循環機能障害のある小児の看護	1. 小児循環器疾患の特徴と看護 1) 先天性心疾患 2) 後天性心疾患 2. 主な症状と看護 チアノーゼ				講義	
6	消化吸収機能障害のある小児の看護	1. 小児によくみられる消化器疾患 2. 主な症状と看護 1) 下痢・便秘 2) ストーマケア				講義	
7	腎機能障害のある小児の看護	1. 小児によくみられる腎・泌尿器疾患 2. 主な症状と看護 浮腫				講義	

回数	学 習 内 容		学習形態
8	神経・筋疾患のある小児の看護	1. 小児によくみられる神経・筋疾患 2. 主な症状と看護 1) けいれん 2) 意識障害	講義
9	小児の血液疾患と腫瘍	1. 小児によくみられる血液疾患と腫瘍 2. 主な症状と看護 出血傾向	講義
10	内分泌・代謝障害のある小児の看護	1. 小児によくみられる内分泌・代謝疾患 2. 指導・教育技術	講義
11	障害のある小児と家族	1. 障害のとりえ方 2. 障害児の定義と実態 3. 障害のある小児と家族への支援	講義
12～15	発達段階をふまえた看護過程の展開	1. 事例紹介 2. 小児期の看護過程の展開の特徴 3. 展開の実際	講義 個人ワーク
評価方法	筆記試験(75点)、記録物(25点)		
使用テキスト	小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護 メヂカルフレンド社		
参考図書	こどもの病気の地図帳 講談社 発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程 医歯薬出版株式会社		
留意点	本科目は小児の疾病と病態生理と連動しているため、復習してから講義に臨むこと 発達段階をふまえた看護過程の展開では、毎回事前学習の提示をおこなうため準備して臨むこと		

科目名	小児看護学実習		単位数	2	時間数	90
実習時期	3年次 前期・後期	担当者	専任看護教員			
実習目的	小児の成長発達を理解し、健全な育成をめざしてあらゆる健康段階にいる小児と家族に対して適切な看護が実践できる基礎的能力を養う					
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児をひとりの人として尊重し、権利を持つ存在であることが理解できる</li> <li>2. 健康障害や入院が、成長発達段階にある小児と家族に与える影響について理解することができる</li> <li>3. 小児の成長発達に応じた日常生活援助や遊び(学習)の援助ができる</li> <li>4. 小児の成長発達を支える家族に対する視点から、家族への支援を考えることができる</li> <li>5. 小児をとりまく医療・保健・福祉・教育の連携の中で小児看護の役割が理解できる</li> <li>6. 小児および養護者、家族との相互関係を通して自己の子ども観を発展させることができる</li> </ol>					
実習内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所実習は各クラス別に実習する。</li> <li>2. 病棟実習は対象を一人受け持ち、看護を展開する。</li> <li>3. 病棟実習期間中に半日外来実習をする。</li> <li>4. 実習期間：3週間 <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所実習 5月～7月、9月～10月</li> <li>・小児病棟実習 4月～7月、9月～10月</li> </ul> </li> <li>5. 実習場所：狛江市内の保育所 東京慈恵会医科大学附属第三病院 小児病棟、外来</li> </ol>					
評価方法	<p>所定の評価表を用いる。 実習状況・実習記録・カンファレンス・レポート等から総合的に評価する。</p>					
科目履修上の条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習にあたり次の科目を履修していること。 基礎看護実習Ⅱ 小児の特徴と成長発達、小児の健康増進のための看護、小児の疾病と病態生理 小児の健康状態に応じた看護</li> <li>2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の4／5以上の出席が必要である。</li> </ol>					

# 母性看護学



## 1. 考え方

母性の本質は、生命の創造と育成である。したがって、母性看護学において重要なことは、生命尊重の態度および生命誕生のすばらしさを学ぶことにある。また、この生命尊重の価値観や態度は看護師としてだけでなく、女性自らがその価値観や態度を有することが重要である。

そこで、母性看護学では、リプロダクティブ・ヘルス/ライツを基本に女性の生涯にわたる健康に目を向け身体的特徴や心理・社会的な特徴を理解し、健康の保持増進、疾病予防のためのセルフケアへの援助を中心とした看護の役割を学ぶ。近年、少子化が進み、母性を取り巻く社会も変化している。少子化傾向となり、子を産む、育てることの価値観の変化や生命誕生に関わる倫理観の多様化など、母性としての役割、父性としての役割と考え方が時代とともに変化している。また、働く女性が増加しつつあり、母性機能を健全に果たすためにも妊娠・分娩・産褥・育児について、法律や制度の仕組みを理解する必要がある。このような社会の変化に即した看護のあり方についても考えられることを目的とする。

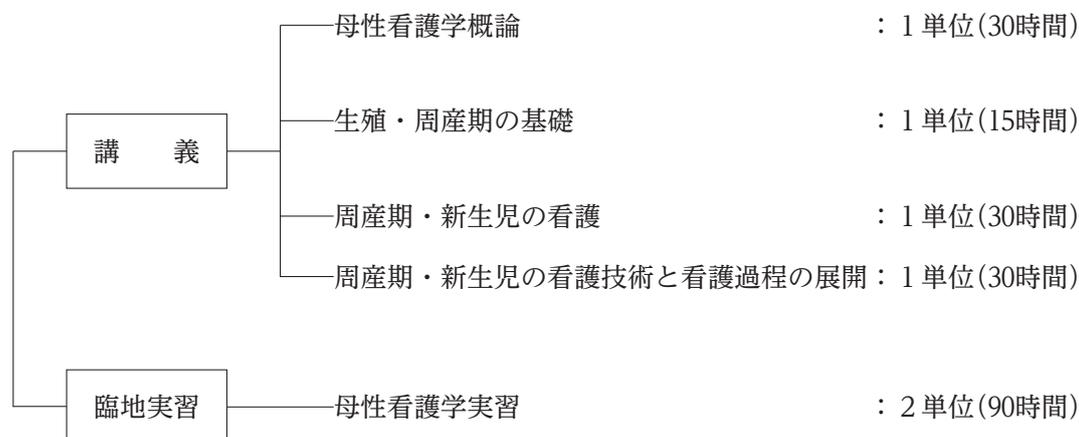
## 2. 目的

女性をリプロダクティブ・ヘルス/ライツの観点から全人的視点でとらえ、主として思春期から更年期までのライフステージにおける健康上の特性を理解し、健康の維持・増進を目標として、看護するために必要な、基礎的能力を養う。

## 3. 目標

- 1) リプロダクティブ・ヘルスの概念がわかる。
- 2) 母性の概念と発達過程がわかる。
- 3) 母性看護の特性及び母性看護の意義がわかる。
- 4) 生殖及び周産期に関連する生理及び健康問題と対策が理解できる。
- 5) 妊娠、分娩、産褥期における母児の特性がわかり、健康問題解決のための方法が理解できる。
- 6) ライフサイクルに応じた健康問題の特性がわかり、問題解決のための方法が理解できる。
- 7) 生殖器に関係する特有の健康問題及び問題解決のための方法が理解できる。
- 8) 社会資源(人的、物的)の活用や健康教育を通して、母性看護の対象に対する母子保健支援システムの理解ができる。
- 9) 周産期にある母児を対象として、問題解決技法を用いて看護過程を展開することができる。
- 10) 学習者は自己の母性性ならびに父性性を認識し、健全な母性ならびに父性の形成及び成熟のための学習機会とする。

## 4. 構成



科目名	母性看護学概論		単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 後期	担当者	福島富士子			
設定理由	母性の特性を理解した上で、母性看護の概念、機能と役割、母性看護の現況と動向を理解する。対象のライフサイクル各期の発達に応じて、身体的・社会的・心理的側面から多面的に捉え、急速な社会の変化に対応した母性看護の課題や必要性を考える。					
科目目標	1. リプロダクティブヘルス/ライツの意義・目的がわかる。 2. 母性看護の変遷と現状がわかる。 3. 母子保健統計の動向と法律がわかる。 4. ライフサイクルに応じた健康問題及び看護の概要がわかる。					
回数	学 習 内 容				学習形態	
1～3	リプロダクティブヘルス/ライツ (性と生殖に関する健康と権利)の概念	1. リプロダクティブヘルス/ライツとは (性と生殖に関する健康と権利)		講義		
		2. リプロダクティブヘルス/ライツと健康問題 (わが国や諸外国における現状とその対応)		講義		
		3. 事例検討		GW		
4～6	母性看護の変遷と現状	1. 子どもが産まれるということ (母性とは、母性の対象と目標)		講義		
		2. 出産と習俗		講義		
		3. 世界の出産ケア		講義		
		4. 妊娠・出産と家族 (母子関係と家族発達)		講義		
7～8	母子保健統計の動向と法律	1. 母性看護の現況と動向 育児不安、虐待、喫煙 (医療・環境・社会的要因、母子保健統計)		講義		
		2. 母性看護に関連する法律と母子保健施策 1) 母子保健法 2) 母体保護法 3) 労働基準法 4) 男女雇用機会均等法 5) 育児・介護休業法 6) 戸籍法		講義		

回数	学 習 内 容		学習形態
9	ライフサイクルに応じた健康問題と看護	1. 人間の性のシステム (人間の性行動の特徴、脳の性差)	講義
10~13		2. 思春期・成熟期・更年期のセクシュアリティと看護に関するグループ課題の検討 1) 若年妊娠と高齢妊娠 2) 少子化 3) 不妊症 4) 出生前診断 5) 国際化 6) 虐待 7) 月経前症候群(PMS) 8) 人工妊娠中絶 9) LGBT(セクシュアルマイノリティ) 10) 代理出産 5~6名×10G 上記に関するテーマをグループ毎に決定し、GWをする。資料を作成し、発表へつなげる(問題の背景、現状、看護的支援についてグループ内で討論したことや考えをプレゼンテーションする)。	GW
14~15		3. グループ課題の発表 (1G10分×10G、質疑応答20分×3) 4. 母性看護に関連する倫理的課題 (20分)	発表 まとめ 講義
評価方法	筆記試験50% グループワーク学習と発表50%		
使用テキスト	母性看護学概論 母性看護学①		
参考図書			
留意点	時事問題に目を向けて、問題意識を持ち参加するように。 30分を過ぎての遅刻は、欠課とする。		

科目名	生殖・周産期の基礎		単位数	1	時間数	15
開講時期	2年次 前期	担当者	嘉屋隆介 他			
設定理由	妊娠の成立、胎児の発育、妊娠時の母体の変化から妊娠の生理ならびに異常を理解し、さらに正常分娩の経過、母児に及ぼす影響またこれらを左右する異常について学ぶ。また、生殖に関連する形態学的・生理学的メカニズムについても学び、母性看護を論理的に考える基礎能力を育成する。					
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 女性生殖器の解剖・生理がわかる。</li> <li>2. 妊娠・分娩の生理と経過がわかる。</li> <li>3. 新生児の特徴と生理がわかる。</li> <li>4. ハイリスク妊娠・分娩がわかる。</li> <li>5. 女性生殖器の健康問題と診断過程・治療特性がわかる。</li> <li>6. 性教育の意義と方法がわかる。</li> </ol>					
回数	学 習 内 容					学習形態
1～8	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 女性生殖器の解剖生理</li> <li>2. 正常妊娠の生理・経過と正常分娩</li> <li>3. 産褥期の経過と母体の変化</li> <li>4. ハイリスク妊娠</li> <li>5. ハイリスク分娩</li> <li>6. 早期新生児の生理</li> <li>7. 新生児の特徴・生理と異常</li> <li>8. 女性生殖器特有の症状 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 思春期・更年期の健康問題と治療</li> <li>2) 不妊症、不育症</li> </ol> </li> <li>9. 女性生殖器の病態及び検査・治療特性</li> </ol>					講義
評価方法	筆記試験					
使用テキスト	母性看護学2 各論 医学書院 成人看護学10 女性生殖器 メヂカルフレンド					
留意点						

科目名	周産期・新生児の看護		単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 前期	担当者	増山利華			
設定理由	妊娠・分娩・産褥および新生児期の特徴を理解し、母子とその家族に対する看護を実践するための基礎的知識について理解する。					
科目目標	1. 周産期(妊娠・分娩・産褥)の身体的・心理的・社会的特徴と適応について理解できる。 2. 新生児の生理的变化に応じた看護の概要がわかる。 3. 対象とその家族が健康で快適な生活を送ることができるよう援助するための知識・技術・態度が理解できる。 4. 周産期におけるサポートシステムの意義と支援の実際がわかる。					
回数	学 習 内 容					学習形態
1～5	妊娠期の看護	1. 妊娠の生理と妊婦の看護 1) 妊娠とは 2) 妊娠の成立 3) 妊娠の届け出と母子手帳 4) 妊婦健康診査の目的と時期				講義
		2. 妊婦と胎児のアセスメント 1) 妊娠の経過と胎児の発育 2) 妊婦の心理 3) 妊婦と不快症状 4) 出産・育児・親役割の準備 5) 妊娠経過の健康逸脱と看護 (流産、早産、感染症、常位胎盤早期剥離、前置胎盤、妊娠高血圧症候群)				講義
		3. 妊婦の保健指導の実際 1) 妊婦の日常生活とセルフケア 2) 母子健康手帳				講義
6～8	分娩期の看護	1. 分娩の要素 1) 分娩とは 2) 分娩の3要素 3) 胎児と子宮および骨盤との関係 4) 分娩の機序				講義
		2. 分娩の生理と産婦の看護 1) 分娩の経過と胎児の健康状態 2) 産婦の基本的ニーズと看護 3) 産痛緩和 4) 産婦と家族の心理				講義
		3. 産婦と胎児のアセスメント 分娩経過の健康逸脱と看護 (前期破水、帝王切開術、産科出血と看護) 4. 胎児機能不全				講義

回数	学 習 内 容		学習形態
9～11	産褥期の看護	1. 産褥期の生理と褥婦の看護 1) 産褥とは 2) 産褥の経過：退行性変化と進行性変化 3) 褥婦の日常生活とセルフケア 4) 褥婦の心理 5) 親役割への支援 2. 褥婦のアセスメント 1) 産褥経過の健康逸脱と看護 2) 帝王切開術後の看護	講義
12～13	新生児の看護	1. 新生児の生理と看護 1) 新生児の生理 2) 新生児の適応と看護 3) 親子関係 2. ハイリスク新生児の看護 1) 早産児、低出生体重児の看護 2) 死産、先天異常、障害をもつ新生児を出産した親の看護	講義
14～15	周産期におけるサポートシステムの意義と支援の実際	施設退院後の看護 1) 育児不安と育児支援の場 2) 職場復帰	講義
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	母性看護学各論 母性看護学②、		
参考図書	母性看護学概論 母性看護学①、病気がみえるVOL10産科、マタニティアセスメントガイド新訂		
留意点	30分を過ぎての遅刻は欠課とする。		

科目名	周産期・新生児の看護技術と看護過程の展開		単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 後期	担当者	吉成江里			
設定理由	正常な経過をたどる妊娠・分娩・産褥および新生児期にある母子の身体的・心理的・社会的特徴を理解するとともに母子とその家族への看護を展開していく上で必要とされる看護の基礎的知識と基礎的な看護技術について理解する。					
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周産期(妊娠・分娩・産褥)の看護に必要な看護技術の目的と手技がわかる。</li> <li>2. 新生児の看護に必要な看護技術の目的と手技がわかる。</li> <li>3. 周産期の対象に対する問題解決技法がわかる。</li> <li>4. 女性生殖器の健康問題に対する看護の概要がわかる。</li> </ol>					
回数	学 習 内 容					学習形態
1～5	妊産褥婦の看護に必要な看護技術の目的と手技	1. 妊婦への看護技術 1) 腹帯 2) 腹囲と子宮底の測定法 3) レオポルド触診法 4) 胎児心拍の確認				講義 演習
		2. 産婦への看護技術 1) 分娩期の産婦へのケア 2) 産痛緩和				講義
		3. 褥婦への看護技術 1) 子宮復古促進へのケア 2) 母乳栄養確立へ向けたケア 3) 全身の観察と疼痛緩和				講義 演習
6～7	女性生殖器の健康問題に対する看護の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 月経の周期とホルモン</li> <li>2. 更年期障害と看護</li> <li>3. 男女の性反応</li> <li>4. 婦人科疾患と看護</li> </ol>				講義
8～11	新生児の看護に必要な看護技術の目的と手技	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出生直後の新生児のケア</li> <li>2. 入院中の新生児の状態理解とアセスメント</li> </ol>				講義
		3. 沐浴・バイタルサイン計測・身体計測				演習
12～15	周産期の対象に対する看護過程の展開	産科の特殊性を踏まえた看護過程の展開 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ガイダンス</li> <li>2) 情報用紙の整理</li> <li>3) アセスメント</li> </ol>				講義 GW
		<ol style="list-style-type: none"> <li>4) 分析(アセスメントの結論・全体像)</li> <li>5) 看護計画(目標・行動計画)</li> </ol>				GW 提出

評価方法	筆記試験70% 看護過程30%
使用テキスト	母性看護学各論 母性看護学②
参考図書	母性看護学概論 母性看護学①、病気がみえるVOL10産科、 マタニティアセスメントガイド新訂
留意点	30分を過ぎての遅刻は欠課とする。

科目名	母性看護学実習		単位数	2	時間数	90
実習時期	3年次 前期・後期	担当者	専任看護教員			
実習目的	周産期にある母性の特徴および新生児の特徴を理解し、母性および新生児に必要な看護と保健指導を行うための基礎的能力を養う					
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠各期の経過を理解し、妊婦に必要な援助を学ぶ</li> <li>2. 分娩の経過を理解し、産婦に必要な援助を学ぶ</li> <li>3. 産褥の経過を理解し、褥婦に必要な援助を学ぶ</li> <li>4. 新生児の生理的特徴を理解し、母体外生活への適応についての援助を学ぶ</li> </ol>					
実習内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原則として一人の受け持ち対象を中心に看護を展開する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟実習では、新生児室実習と褥婦室(分娩室含む)実習をする。</li> <li>・産婦人科外来では、妊婦・褥婦を対象とした実習をする。</li> <li>・小児科外来では、1ヶ月健診で来院した母子を対象とした実習をする。</li> </ul> </li> <li>2. 実習期間：4月～7月、9月～10月</li> <li>3. 実習場所：東京慈恵会医科大学附属第三病院 産科病棟、産婦人科外来、小児科外来 助産院</li> </ol>					
評価方法	所定の評価表を用いる。 実習状況・実習記録・カンファレンス・レポート等から総合的に評価する。					
科目履修上の条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習にあたり次の科目を履修していること。 基礎看護学実習Ⅱ 母性看護学概論、生殖・周産期の基礎、周産期・新生児の看護 周産期・新生児の看護技術と看護過程の展開</li> <li>2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の4/5以上の出席が必要である。</li> </ol>					



# 精神看護学



## 1. 考え方

精神看護は、こころの健康問題によって損なわれている日常生活が整えられるように支援することであり、患者・看護師関係が土台となって発展していく看護過程といえる。

現代社会は、ストレスや不安の要因が多く、社会規範の変化から家族関係や学校、職場にも精神の危機状況が生みだされ、こころの健康問題とそのケアの必要性が重要視されている。また、精神障害を持つ対象への看護については、入院期間の短縮化による急性期看護の展開、慢性期にある人の地域での生活への支援等が今後の重要な課題である。

そこで、精神看護学では、現代社会に生きる人々のこころの健康問題について理解し、こころの健康の維持、増進または、回復への看護に必要な基礎的知識・技術を習得し、あわせて自己洞察できる姿勢を養うことをねらいとする。

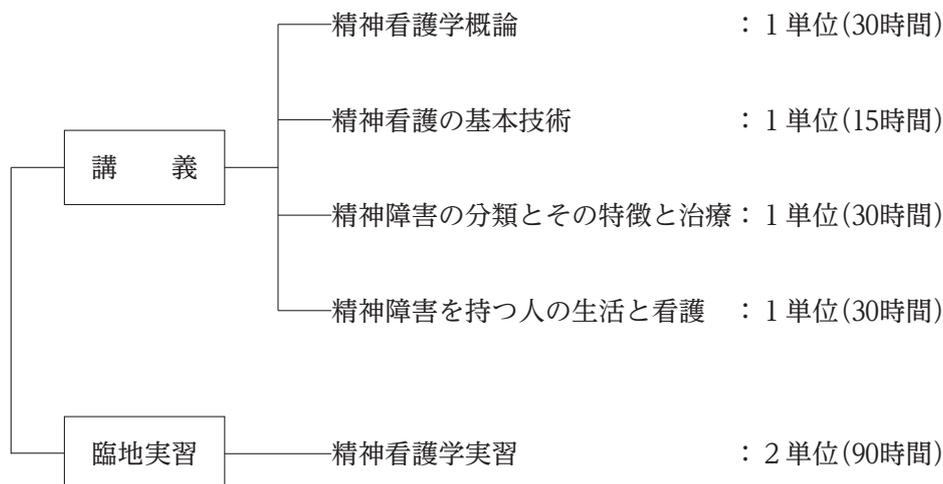
## 2. 目的

人間のこころの発達をふまえ、こころの健康の維持・増進と精神障害をもつ人への看護を統合的に学ぶ。

## 3. 目標

- 1) ライフサイクルにおけるこころの発達と健康について理解できる。
- 2) 社会の変化に伴う精神保健医療の変遷について学び、現状の問題や課題が考えられる。
- 3) 精神保健活動と看護の役割が理解できる。
- 4) 精神障害の分類と特徴およびその治療について理解する。
- 5) 患者・看護師関係の成立過程と発展させるための方法が理解できる。
- 6) 精神障害をもつ対象の特徴を理解し、援助方法が理解できる。

## 4. 構成



科目名	精神看護学概論		単位数	1	時間数	30
開講時期	1年次 後期	担当者	加藤紀代美、本田有里			
設定理由	現代社会は、ストレスや不安の要因が多く、社会規範の変化から家族関係や学校、職場にも精神の危機が生みだされ、こころの健康問題とそのケアの必要性が重要視されている。そこで、人の心の発達と健康を理解したうえで、精神看護の基本的な考え方について学ぶ。同時に、精神保健医療福祉の変遷と活動を理解する。					
科目目標	1. ライフサイクルにおけるこころの発達と健康について理解できる 2. 社会の変化に伴う精神保健医療の変遷について学び、現状の問題や課題が考えられる 3. 精神保健活動と看護師の役割が理解できる					
回数	学 習 内 容				学習形態	
1 2	精神看護の目的	1. ガイダンス、アイスブレーキング 2. 精神看護の目的 3. 精神の疾病・障害のとらえかた 4. 課題提示			講義 DVD	
3	精神保健・医療・福祉・看護の歴史と現状・課題	1. 西欧・日本の精神医療・看護の歴史 2. 今日的課題と倫理的諸問題・人権保障 3. 精神保健福祉法と看護師の役割 4. 社会動向と精神看護の必要性、用語の解説			講義 DVD	
4	精神看護の対象と看護の理解	1. 生物学的脆弱性 2. 精神力動 1) 自我の機能と発達 2) 防衛機制 3) 転移・逆転移感情			講義 DVD	
5		3. 危機〈クライシス〉 1) 危機の概念、ストレスと対処法、適応理論 2) ライフサイクルとこころの健康と危機 3) 生活の場(家庭・学校・職場)とこころの健康と危機 4) 危機介入			講義 DVD	
6		4. 集団力動 1) グループダイナミクス 2) グループアプローチ 3) ヤーロムの治療因子			講義 DVD	
7		5. 統合失調症 事例検討			GW・発表 相互評価	
8		6. セルフケアを援助する 1) オレムのセルフケア理論 2) オレム・アンダーウッド理論 3) 関与しながらの観察・セルフケアを援助する			講義	

回数	学 習 内 容		学習形態
9	精神看護の対象と看護の理解	7. 生きる力と強さを活かす 1) ストレングス 2) リカバリ 3) レジリエンス 4) エンパワーメント	講義
10		8. 当事者とは、ピア(仲間)とは 9. 社会的、現象学的、実存的理解	講義 DVD
11 12	患者－看護師関係の発展	1. 看護師のコミュニケーション 2. 患者－看護師関係論(対人関係理論) 1) ペプロウ：対人関係論 2) トラベルビー：ラポールの形成 3) オーランド：熟考的看護、自己一致 4) ウィーデンバック：相互作用理論 3. 看護場面の再構成(プロセスレコード) 4. 自己理解・自己開示・自己利用	講義
13	家族支援	1. 家族機能・家族システム論 2. 家族の機能不全状態・EE研究 3. ジェノグラム 4. 家族療法・システムズアプローチ・ジョイニング	講義 DVD
14	精神看護と制度	1. 精神保健医療福祉の改革ビジョン 2. 社会資源の活用とケアマネジメント 3. 精神科医療チームと看護、他職種連携・エコマップ 4. 幻覚・妄想かるた	講義 DVD
15	最終まとめ	統合失調症 事例検討	GW・発表 相互評価
評価方法	授業内の課題・課題レポート・筆記テスト		
使用テキスト	精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 メヂカルフレンド社 精神看護学② 精神障害を持つ人の看護 メヂカルフレンド社		
参考図書	『国民衛生の動向』		
留意点	30分すぎでの遅刻は欠課とする。		

科目名	精神障害の分類とその特徴と治療		単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 前期	担当者	館野 歩 他			
設定理由	精神の疾病・障がいがある人のアセスメントと看護介入の為に、必要な基礎的知識となる精神障害の分類と特徴を理解する					
科目目標	精神障害の分類と特徴およびその治療について理解する					
回数	学 習 内 容					学習形態
1～15	精神科総論	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正常と異常の概念と診断</li> <li>2. 最近注目されている精神障害</li> <li>3. 現代社会と心の健康</li> <li>4. 精神医療の現状と問題点</li> </ol>				講義
	精神障害の分類と特徴 医学的検査と心理検査、心理療法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統合失調症</li> <li>2. 気分障害</li> <li>3. 人格障害</li> <li>4. 神経症・ストレス関連障害</li> <li>5. 器質・症状性精神病</li> <li>6. アルコール・薬物依存</li> <li>7. 摂食障害</li> <li>8. 小児・思春期精神障害</li> </ol>				
	治療の構造	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物療法</li> <li>2. 精神療法</li> <li>3. 社会療法</li> <li>4. 電気けいれん療法</li> </ol>				
評価方法	筆記試験					
使用テキスト	吉浜文祥・末安民生編『看護学生のための精神看護学』医学書院 田中美恵子編著『精神看護学～学生－患者のストーリーで綴る実習展開～』医歯薬出版株式会社					

科目名	精神看護の基本技術		単位数	1	時間数	15	
開講時期	2年次 後期	担当者	本田有里				
設定理由	こころの健康の維持・増進や回復を促すための基本的技術を理解する。又、自己を振り返り、自己受容できる姿勢を養うために、プロセスレコード分析技法を用いて、自己を深める						
科目目標	1. 患者・看護師関係の成立過程と発展させるための方法が理解できる 1) 看護におけるカウンセリングの基礎を学び、基本的な姿勢がわかる 2) 看護場面の再構成により自己を知り、コミュニケーション能力を高める糧とすることができる						
回数	学 習 内 容				学習形態		
1～5	臨床心理学 カウンセリング	1. カウンセリング概論 2. 心理アセスメント 3. 自己について考える 4. 心理検査、心理療法 5. 関係性の理解				講義	
6～8	看護場面の再構成 プロセスレコード	1. 患者－看護師関係の構築 1) 患者－看護師関係が重要である理由 2) 自己受容 自分の感情を手がかりにする 3) 関係構築にあたっての基本的な態度 2. プロセスレコードとは、プロセスレコードの方法 3. プロセスレコードカンファレンス				講義 GW	
評価方法	レポート(1～5回：60点、6～8回：40点)						
使用テキスト	精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 メヂカルフレンド社 精神看護学② 精神障害を持つ人の看護 メヂカルフレンド社						

科目名	精神障害を持つ人の生活と看護			単位数	1	時間数	30	
開講時期	2年次 後期		担当者	慈恵第三病院(精神看護専門看護師) 成増厚生病院(師長及び認定看護師・専門看護師) 山田病院(師長)				
設定理由	精神科看護における基本的なケアの在り方を学ぶと同時に、精神の疾病・障がいがある人の生活の特徴と家族を含めた看護のあり方を学ぶ							
科目目標	精神障害をもつ対象を理解し、援助の方法が理解できる							
回数	学習内容					学習形態		
1	精神の疾病・障がいがある人の治療過程に沿った看護	精神看護における対象の理解・治療的関わりの考え方	1. 対象を理解するために必要な情報整理 2. 精神・情緒の把握 3. セルフケア・対人交流パターンの把握 4. 病識について 5. コミュニケーションに影響を与える因子			講義		
2		入院環境と治療的アプローチ、日常生活行動の援助	1. 入院のメリット・デメリット 2. 精神科の看護の観察の意味 3. 日常生活行動の影響、日常生活の世話の意味 4. 急性期・回復期・慢性期における身体ケアの意味 5. 隔離・拘束時の看護			講義		
3		身体療法と看護	1. 抗精神病薬の主な有害反応 2. 薬物療法における看護 3. 服薬拒否の理由と関わり 4. 身体合併症の看護 5. 修正型電気けいれん療法とは 6. けいれん療法を受ける人の看護の実際			講義		
4		主な精神の疾病・障がいと看護	急性期にある統合失調症がある人と家族への看護	1. 急性期にみられる症状、症状のアセスメント、セルフケアレベルの評価 2. 急性症状があるときの看護(日常生活行動の援助を通し関わるきっかけ作り) 3. 家族のストレス軽減を図る対応			講義	
5			慢性期にある統合失調症がある人と家族への看護	1. 急性期にみられる症状、症状のアセスメント、セルフケアレベルの評価 2. そばに在ることの意味、家族の関わり			講義	
6			精神作用物質使用による精神・行動の障害がある人と家族への看護	1. アルコール依存症がある人と家族への看護 1) アルコール依存症の症状・アセスメント 2) 離脱期の看護 3) アルコールリハビリプログラム 4) 断酒会、AAについて 5) 家族教育について			講義	

回数	学 習 内 容		学習形態
		2. 薬物依存症がある人と家族への看護 1) 薬物依存症にみられる症状・アセスメント 2) ダルクについて(ダルクの方の話を聞き、依存症から回復するために必要な援助を考える)	講義
7	主な精神の疾病・障がいと看護	気分障害がある人と家族への看護 1. うつ病がある人と家族への看護 1) うつにみられる症状・アセスメント 2) セルフケアレベルに応じた援助 3) 回復期の看護(自殺防止)	講義
		2. 双極性障害がある人と家族への看護 1) 双極性障害にみられる症状・アセスメント 2) 活動を調整して休息を確保出来る援助	講義
8		パニック障害・不安障害がある人と家族への看護 1. 不安障害がある人と家族への看護 1) パニック障害について(不安のレベル) 2) パニック障害の症状(広場恐怖症) 3) パニック発作時の看護 2. 急性ストレス障害・PTSDの看護	講義
		3. 強迫行為がある人と家族への看護 1) 強迫障害の症状とアセスメント 2) 強迫障害時の看護	講義
9	摂食行動障害・人格障害がある人と家族への看護	1. 摂食障害の特徴(母子関係、愛着関係) 2. 体重増加期の看護、関わり 3. 家族への関わり(家族会)	講義
		1. 境界性人格障害の特徴(見捨てられ不安) 2. 境界性人格障害の看護(治療契約) 3. 看護する上で気をつけること(巻き込まれること、転移・逆転移)	講義
10	地域における精神看護	1. 精神科訪問看護	講義
11 12	リエゾン精神看護	1. 看護師のメンタルヘルスへの支援 2. 身体疾患がある患者の精神保健 3. コンサルテーション	講義
13 14 15	看護過程	アセスメント 長期目標・短期目標の設定 具体策の立案	GW 個人ワーク
評価方法	筆記試験70点      看護過程30点		
使用テキスト	精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 メヂカルフレンド社 精神看護学② 精神障害を持つ人の看護 メヂカルフレンド社		
留意点	30分過ぎでの遅刻は欠課とする。 「精神障害の分類とその特徴と治療」の講義と関連しているので、復習して臨む。		

科目名	精神看護学実習		単位数	2	時間数	90
実習時期	2年次 後期	担当者	専任看護教員			
実習目的	精神に障害を持つ対象との関わりを通して、人が心を病むことを理解し精神看護のあり方を学ぶ					
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神に障害を持つ対象が理解できる</li> <li>2. 精神に障害を持つ対象の健康回復に応じた援助が考えられる</li> <li>3. 対人関係の大切さを知り、その人を尊重することができる</li> <li>4. 治療的環境の意味を知り、看護師の役割が理解できる</li> <li>5. 精神に障害を持つ人のリハビリテーション活動、社会資源に目を向け、今後の支援の方向性を考えることができる</li> </ol>					
実習内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慢性期・急性期・社会復帰にある対象の理解を中心に学ぶ。</li> <li>2. 対象との関わりをプロセスレコードで振り返り、対人関係を学ぶ。</li> <li>3. 実習期間：12月～2月</li> <li>4. 実習場所：成増厚生病院、薫風会山田病院 慈恵第三病院森田療法センター 就労継続支援施設</li> </ol>					
評価方法	所定の評価表を用いる。 実習状況・実習記録・カンファレンス・レポート等から総合的に評価する。					
科目履修上の条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習にあたり次の科目を履修若しくは履修条件を満たしていること。 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護学概論、精神看護の基本技術、精神障害の分類とその特徴と治療、精神障害を持つ人の生活と看護</li> <li>2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の4/5以上の出席が必要である。</li> </ol>					

## 5. 統合分野

---

在宅看護論

看護の統合と実践



## 1. 考え方

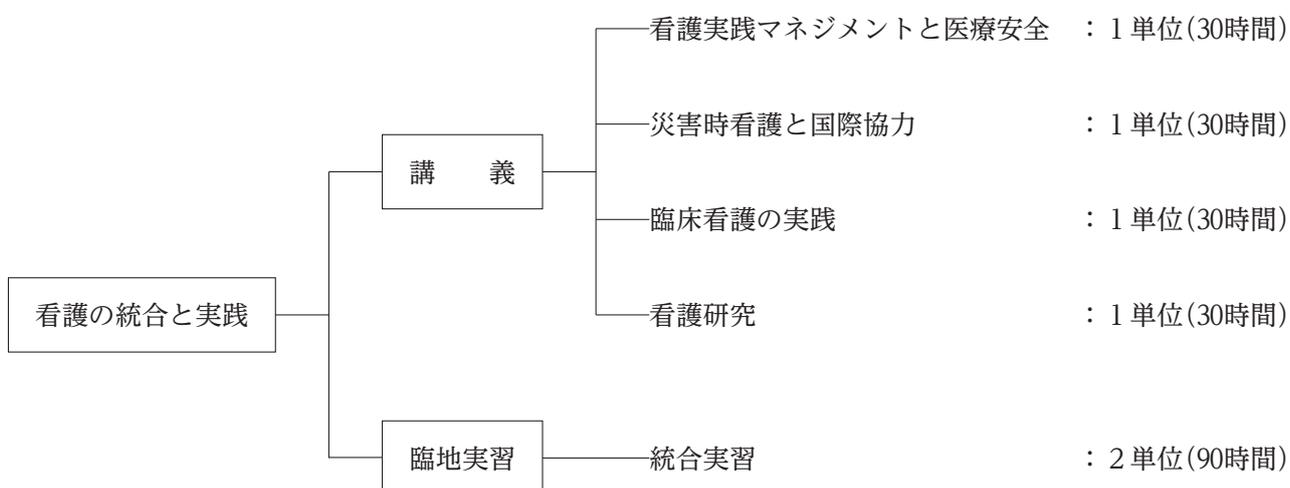
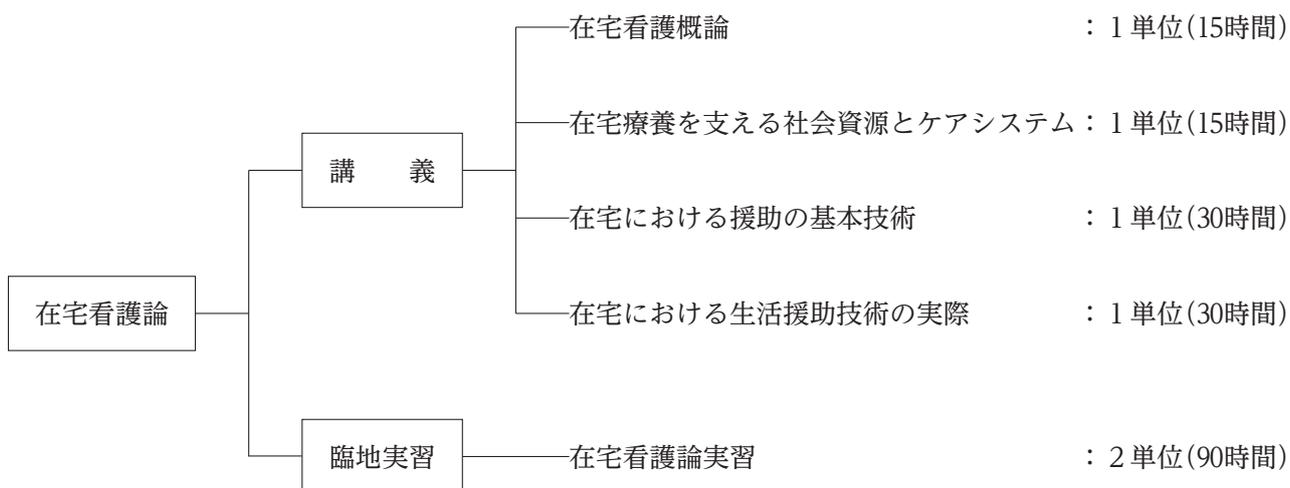
統合分野は、「在宅看護論」「看護の統合と実践」から構成される。

基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、Ⅱまでの学習内容を統合し、あらゆる看護場面で実務に即した看護の提供ができるようにすることをねらいとする。

「在宅看護論」は、母性、小児、成人、老年、精神の対象特性を超えて、地域で生活する療養者とその家族を対象とし、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱで学習した知識、技術を統合し在宅の場で適応する。

「看護の統合と実践」は、看護基礎教育の集大成に位置づけ、基礎分野から専門分野を統合し、場の設定と共に対象の状況に応じた看護の実践ができるようにする。

## 2. 構成





## 在宅看護論



## 1. 考え方

少子高齢化、慢性疾患の増加、国民医療費の増大に伴う医療保険制度の改革が進められ、社会における医療の役割が見直されてきている。また、在院日数の短縮、生活の質(QOL)を重視した良質な医療の提供、インフォームド・コンセントの推進など医療情勢が急速に変化している。近年のこれらの変化から、在宅看護の対象も様々に変化してきており、在宅看護への社会のニーズは大きい。

在宅看護は疾病や障害の予防活動や福祉的な生活支援活動も含む、地域での多領域、広範囲にわたって提供される看護である。具体的には、健康回復のためのリハビリテーションや悪化予防のための看護を中心に、終末期の看護までの医療的意味合いの中での、質の高い看護活動が必要となる。また、継続看護や在宅におけるケアマネジメント、地域における人々の日常生活における価値観に気付き、個人の生き方や生活の場のあり方を理解し、自己決定や生活の再構築を支援していく方法を学習する。また、在宅においては、療養者や障害者とその家族の力を引き出す、その家族ぐるみのセルフケア能力を確立させ、望んでいる生き方や生活ができるように支援することが重要である。

以上の在宅看護を理解し実践するために、在宅における基礎的な知識、技術、態度を統合し、生活の場における在宅看護をイメージして、学習できることをねらいとする。

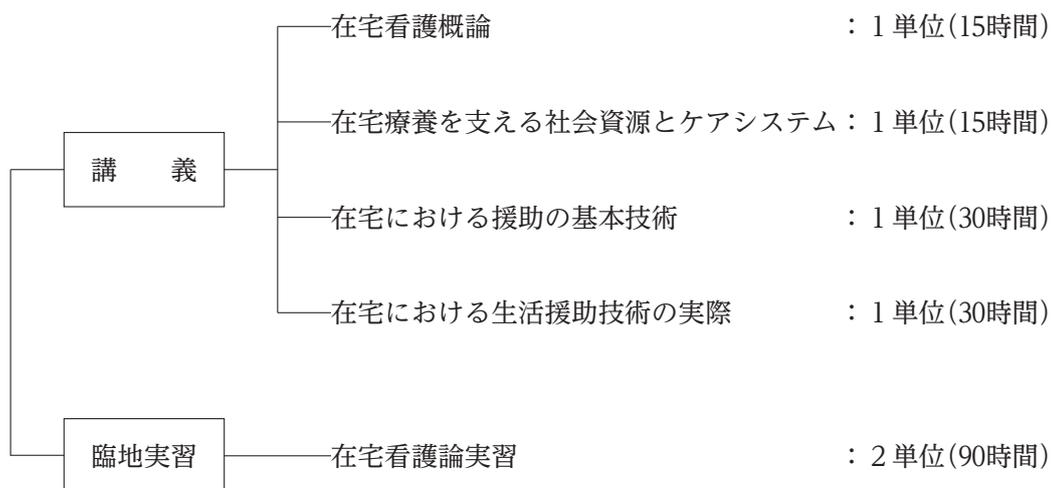
## 2. 目的

在宅看護を必要とする人々とその家族の特性を理解し、在宅看護に必要な知識・技術・態度を習得する。

## 3. 目標

- 1) 対象の身体的・精神的・社会的特徴を知り、健康上のニーズを理解する。
- 2) 対象の健康障害時の特徴と生活環境に対応して援助を理解する。
- 3) 在宅看護に対する社会的ニーズ及び動向について知り、看護の果たす役割を理解する。
- 4) 対象の多様な価値観を尊重し、倫理に基づいた行動ができる。
- 5) 社会資源を活用できるよう保健・医療・福祉制度について理解し、調整する能力を養う。

## 4. 構成



科目名	在宅看護概論		単位数	1	時間数	15
開講時期	2年次 前期(4月～6月)	担当者	伊藤百合子、総合医療支援センター師長			
設定理由	在宅看護論は、母性・小児・成人・老年・精神の対象特性を超えて、地域で生活する療養者とその家族を対象としている。その対象は様々で複数であり、既習の専門分野Ⅰ・Ⅱの知識、技術が統合されて在宅という場に応用できるように考えられるとともに社会情勢を加味した在宅看護を考えられる。					
科目目標	在宅看護の目的および在宅看護の対象について理解できる。					
回数	学習内容				学習形態	
1	在宅看護とは	1. 在宅看護論で何を学ぶのか 2. 在宅看護の位置づけ			講義 (DVD)	
2	在宅看護の理念と目的	1. 在宅看護が目ざすもの 2. 在宅看護における看護師の役割と機能 3. 在宅看護の変遷と社会背景			講義	
3	在宅看護の対象	1. 年齢・疾患・障害からみた対象者 2. 療養状態からみた対象者			講義	
4	在宅看護と家族	1. 家族の定義・形態・機能 2. 家族システム論 3. 家族で看護・介護すること			講義	
5	在宅看護の特徴① 「訪問看護」	1. 訪問看護の仕事 2. 訪問看護制度 3. 訪問看護における看護師の役割 4. 在宅看護における安全と危機管理			講義	
6	在宅看護の特徴② 「地域包括ケアシステム」	1. 地域包括ケアシステムとは 2. 地域包括ケアと保健・医療・福祉の連携 3. 地域包括ケアにおける看護師の役割 4. 在宅看護におけるケアマネジメント			講義	
7	在宅看護の特徴③ 「療養の場への移行」	1. 退院調整、退院支援、継続看護			講義	
8	在宅看護における倫理	1. 在宅看護の倫理と基本理念 2. 在宅看護において知っておきたい考え方 3. 在宅終末期の看護師の役割			講義 (DVD)	
評価方法	筆記試験					
使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院、国民衛生の動向(厚生労働省統計協会) ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版、					
参考図書	鈴木和子・渡辺裕子著、家族看護学－理論と実践第5版－(日本看護協会出版会)					
留意点	30分以上の遅刻は欠席とする。					

科目名	在宅療養を支える社会資源とケアシステム		単位数	1	時間数	15
開講時期	2年次 前期	担当者	遠山寛子			
設定理由	医療制度改革によって、医療サービス提供のあり方が在宅に大きくシフトしている。在宅で療養する人を支える社会資源について学び、他職種と協働する中で看護の役割が理解できる。					
科目目標	在宅療養を支える社会資源やケアシステムについて学び、在宅看護の役割が理解できる。					
回数	学習内容					学習形態
1	在宅看護の対象者	1. ガイダンス 2. 医療機器を装着している療養者を理解する。(PEG、HOT、ポート・IVH) 3. 終末期の療養者を理解する。				講義 DVD視聴
2	在宅療養を支える家族	1. 認知症高齢者を支える家族を理解する。 2. 終末期の療養者を支える家族を理解する。				講義 DVD視聴
3	在宅療養で活用する社会資源－1	訪問看護を支える制度(介護保険・医療保険)を理解する。				講義
4	在宅療養で活用する社会資源－2	障がい者総合支援法、難病支援事業について理解する。				講義
5	ケアマネジメント－1	1. 在宅療養に関わる多職種について理解する。 2. 多職種との連携について理解する。				講義
6	ケアマネジメント－2	1. 事例についての基礎知識の確認をする。 2. 事例をとおして、ケアマネジメントを理解する。				演習 講義
7	関連図を書こう①	1. 事例に関する関連図を作成する。 2. 作成した関連図から、課題とそれを解決しうる支援を理解する。				GW
8	関連図を書こう②	1. 各グループで作成した関連図を統合し、全体を理解する。 2. まとめ				GW 発表
評価方法	筆記試験、演習参加状況					
使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院、 ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版					
参考図書	症状別看護過程(照林社)					
留意点	積極的発言をしてください。					

科目名	在宅における援助の基本技術		単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 後期	担当者	伊藤百合子・山田たず子			
設定理由	在宅において、療養者を中心に家族を主役として看護を進めるために、必要な基本的態度や面接技術を学ぶ。その上で、看護問題を抱えている在宅療養者とその介護者の状況に価値のある変化をもたらす、人間関係づくりのプロセスについて考える。また、社会状況の変化に伴う訪問看護のニーズについて考える。					
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の基本姿勢が理解でき、家庭を訪問する時の看護師のあり方が考えられる。</li> <li>2. 社会状況の変化に伴う訪問看護ステーションのあり方について考えられる。</li> <li>3. 在宅看護の過程が理解できる。</li> </ol>					
回数	学 習 内 容				学習形態	
1	在宅看護の基本的な姿勢と技術について	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本姿勢</li> <li>2. 基本的な家庭訪問・初回訪問の注意点</li> <li>3. コミュニケーション</li> <li>4. 面接・相談の技術</li> </ol>			講義	
2～5	訪問看護ステーション設立する(演習)	理想の訪問看護ステーションを作ろう 演習の導入 (討議内容・予定・GWの注意点など)			GW	
6・7	訪問看護ステーション「発表」	プレゼンテーション・まとめ(教室)				
8～12	家庭訪問を考える(演習)	鈴木太郎さん宅への初回訪問を考えよう 演習の導入 (演習方法・予定・GWの注意点など)			GW	
13・14	家庭訪問演習「発表」	ロールプレイ・まとめ(在宅演習室)				
15	在宅における看護過程を理解する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護過程</li> <li>2. 訪問看護計画表の書き方 (ペーパーペイシエントを用いて)</li> </ol>			講義 個人ワーク	
評価方法	各演習点数【各40点×2】、筆記試験【20点】					
使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院、 ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版					
参考図書	正野逸子、本田彰子著、関連図で理解する在宅看護過程 メヂカルフレンド社 公益財団法人日本訪問者看護財団／監修 新版 訪問介護ステーション開設・運営・評価マニュアル 日本看護協会出版会					
留意点	主体的に参加すること。マナーを踏まえた講義とするため、講義開始時に着席していない場合はいかなる理由があっても欠席とする。GWのため協力して行っていないと教員が判断した場合は、グループの連帯責任とし減点する。					

科目名	在宅における生活援助技術の実際		単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 後期	担当者	伊藤百合子			
設定理由	在宅における生活において、療養者および家族の能力をアセスメントし、その援助技術の応用と実際について演習をとおして学ぶ。					
科目目標	1. 在宅看護における日常生活の援助技術および治療処置に関わる援助の方法が理解できる 2. 在宅における日常生活援助を考えることができる。					
回数	学 習 内 容					学習形態
1	在宅における援助技術の特性	1. “生活する”ことを支えるために 2. 在宅看護に求められる看護技術				講義
2	在宅における感染予防の意義と方法	1. 在宅ケアにおける感染症 2. 在宅療養者によくみられる感染症				講義
3	在宅における服薬管理	在宅における服薬方法と管理 (インシュリン、麻薬などを含む)				講義
4・5	在宅におけるフィジカルアセスメント	1. 在宅におけるフィジカルアセスメントの意義と方法 2. 在宅における観察の技術とは				講義 GW
6	日常生活動作の評価と目標設定	在宅における生活動作について				講義 GW
7	療養環境調整および活動と移動の援助方法	1. 在宅における療養環境の特徴と調整 2. 在宅における活動と移動の援助法				講義 GW
8・9	活動と移動の実際(演習)	片麻痺の療養者の移動方法を考えよう				演習 GW
10	食事と栄養管理の援助法	1. 在宅での食生活の特徴 (摂食・嚥下障害患者への援助を含む) 2. 経管栄養法(PEGの管理を含む) 3. 中心静脈栄養の管理				講義
11	排泄援助の方法	1. おむつ交換、排泄介助 (浣腸・摘便を含む)の注意点 2. 膀胱留置カテーテルの管理 (膀胱洗浄を含む) 3. 持続携行式腹膜透析(CAPD)				講義
12	清潔援助の方法	在宅における清潔援助方法 (清拭、陰部洗浄、洗髪、入浴介助の注意点)				講義
13	清潔の実際(演習)	自宅であるもので「洗髪」を実施しよう				演習

回数	学 習 内 容		学習形態
14	安楽な呼吸への援助方法①	1. 在宅における呼吸管理、ケアの特徴 2. 呼吸機能アセスメントと介助ポイント (排痰・吸入・吸引を含む)	講義 GW
15	安楽な呼吸への援助方法②	1. 在宅人工呼吸器について (気管カニューレの管理を含む) 2. 在宅酸素療法について	講義
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院、 ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版		
参考図書	角田直枝著、よくわかる在宅看護 改訂第2版 学研 基礎看護技術 I・II メヂカルフレンド社		
留意点	主体的に演習に参加すること。30分以上の遅刻は欠席とする。		

科目名	在宅看護論実習		単位数	2	時間数	90
実習時期	3年次 前期・後期	担当者	伊藤百合子 他			
実習目的	地域で生活しながら療養している人々とその家族を理解し、在宅における看護についての基礎的な能力を養う					
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康上の問題を持ちながら在宅で療養している人々を理解することが出来る</li> <li>2. 対象の生活環境に応じた看護の実際を学ぶ</li> <li>3. 地域の保健・医療・福祉に関するサービスの現状を知る</li> <li>4. 退院調整、継続看護のあり方を考えることができる</li> </ol>					
実習内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 訪問看護ステーションでは、訪問看護師と同行訪問し訪問看護を体験する。</li> <li>2. 総合医療支援センターでは、センターに訪れる対象への看護を見学・体験する。</li> <li>3. 地域包括支援センターでは、事業内容を見学・体験する。</li> <li>4. 実習期間：4月～7月、9月～10月</li> <li>5. 実習場所： <ul style="list-style-type: none"> <li>狛江市医師会訪問看護ステーション</li> <li>町田市医師会訪問看護ステーション</li> <li>訪問看護ステーションこまえ正吉苑</li> <li>調布市医師会訪問看護ステーション</li> <li>アウル訪問看護ステーション</li> <li>ケアプロ訪問看護ステーション東京</li> <li>東京慈恵会医科大学附属第三病院(総合医療支援センター、外来化学療法室、外来等)</li> <li>地域包括支援センター(狛江市、調布市、府中市、町田市)</li> </ul> </li> </ol>					
評価方法	<p>所定の評価表を用いる。</p> <p>実習状況・実習記録・カンファレンス・レポート・面接等から総合的に評価する。</p>					
科目履修上の条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習にあたり次の科目の単位を修得、または評価資格を有していることとする。 在宅看護概論、在宅療養を支える社会資源とケアシステム、在宅における援助の基本技術、在宅における生活援助技術の実際</li> <li>2. 実習の評価を受けるには、実習時間数の4/5以上の出席が必要である。</li> </ol>					



## 看護の統合と実践



## 1. 考え方

「看護の統合と実践」は、看護基礎教育の集大成に位置づけ、基礎分野から専門分野を統合し場の設定と共に対象の状況に応じた看護の実践ができるようにする。また、卒業後、スムーズに臨床に適応できるようにすると共に、看護の探究心を持ち、自己啓発できる素地を養うことをねらいとする。

従って、科目の構築にあたっては「看護基礎教育の充実に関する検討会報告書」で提示された6項目(①協働とメンバーシップ、リーダーシップの理解。②看護のマネジメントの基礎的能力。③医療安全の基礎的知識。④災害時直後から支援できる看護の基礎的知識。⑤国際社会における看護師としての協力。⑥看護技術の総合的評価。)を考慮し科目構成をする。看護の統合と実践Ⅰ〈看護実践マネジメント・医療安全〉、看護の統合と実践Ⅱ〈災害時看護と国際協力〉看護の統合と実践Ⅲ〈臨床看護の実践〉看護研究で構成する。

昨今の臨床の現場では新卒看護師の看護実践能力の低下が問題視されている。新卒看護師の多くは現場において様々なリアリティショックを体験しており、その内容には複数の患者受け持ち、コミュニケーション、看護技術などが挙げられていることは多くの研究報告から周知のことである。これを受けて改正カリキュラムでは、この問題解決に結びつく視点で、看護実践能力を高めるねらいで看護の統合と実践(以下統合実習)が位置づけられた。したがって、統合実習では、専門分野での実習を踏まえて、対象の状況に応じて、既習の知識・技術を引き出して統合し、実践能力をより高めることを目指す。また同時に、チーム医療や医療安全の理解、看護のマネジメントの必要性など領域実習での学びを再確認し統合することもねらいとする。そこで、統合実習はすべての臨地実習の最後に位置づけ、より実務に即した実習を行う事とした。その方法として、複数の患者を受け持ち、一勤務帯を通した実習、夜勤帯の実習なども取り入れる。

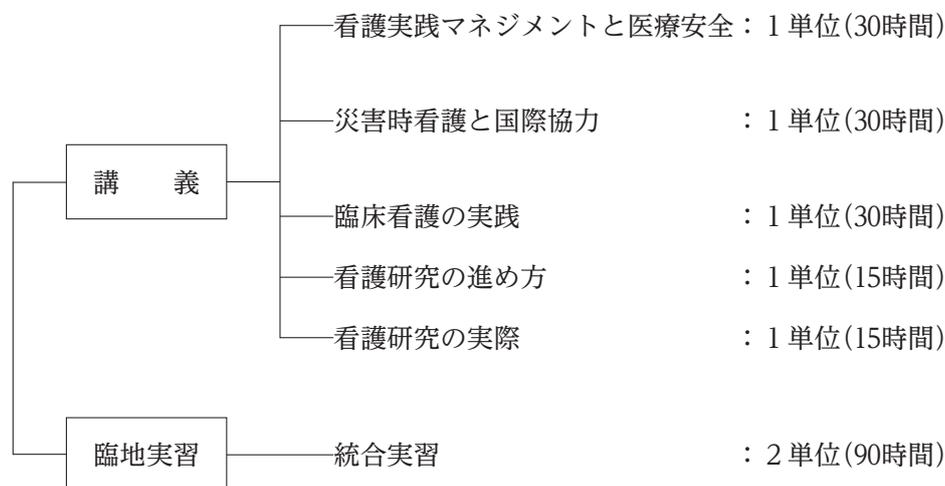
## 2. 目的

看護に求められている社会的ニーズを理解し、個人・集団・社会に対して対象の状態に応じた看護を実践する能力を養う。

## 3. 目標

- 1) 看護の役割を理解し、看護をマネジメントできる基礎的知識を習得する。
- 2) 災害時看護、医療安全についての基礎的知識を習得する。
- 3) 国際社会での諸外国の協力について考えることができる。
- 4) 多重課題に対して、総合的に判断し解決する能力を養う。
- 5) 看護学発展のための研究の重要性を理解し、看護研究の基礎的能力を身につける。

## 4. 構成



科目名	災害時看護と国際協力		単位数	1	時間数	30
開講時期	2年次 後期	担当者	小泉結香、救急看護認定看護師 李 祥任 他			
設定理由	人々の健康と生活の向上に向けた社会への支援として、災害医療・災害看護に関する基礎的知識と技術と看護の国際貢献についての基礎的な理解を深める。					
科目目標	1. 災害直後から支援できる看護の基礎的知識について理解する。 2. 国際社会において、広い視野に基づき、看護師として諸外国との協力を考えることができる。					
回数	学 習 内 容					学習形態
1	災害概論	1. 災害の特徴 2. 定義 3. 分類 4. 災害医療と災害時看護 5. 代表的な災害の特徴と疾病構造				講義
2	災害に関わる制度と支援システム	1. 活動の原則 2. CSCATTT 3. 法制度				講義
3	災害時のこころのケア	1. こころのケアを必要とする人々 2. 被災ストレスの種類 3. 時間経過と被災者の反応 4. 被災者へのこころのケア 5. 遺族のこころのケア 6. 救援者のストレスとケア				講義
4	災害各期の看護1 急性期	1. トリアージ 2. 応急処置 3. 広域搬送 4. 現場救護所における看護 5. 被災地病院における看護				講義
5	災害各期の看護2 亜急性期	1. 亜急性期の看護 2. 避難所における看護 3. 災害関連死の予防				講義
6	災害各期の看護3 慢性期	1. 慢性期の看護 2. 仮設住宅における看護				講義
7 8	災害発生時の技術	1. トリアージ 2. 搬送 3. 応急処置				演習

回数	学 習 内 容		学習形態
9	災害支援ナースとしての活動	1. 災害支援ナースの活動 2. DMATの活動 3. 派遣時の活動の実際	講義 認定看護師
10	被災者特性に応じた看護	1. 外国人 2. 妊産褥婦 3. 子ども 4. 高齢者 5. 慢性疾患をもつ人 6. 障害者	講義
11	国際社会の現状と国際看護活動の課題	1. 国際協力 2. プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション 3. 異文化理解	講義
12	国際看護活動の支援を必要とする対象	1. 在日外国人への医療 2. 外国人への医療	講義
13	国際保健概論	1. 国際機関 2. 国際協力活動	講義
14 15	国際看護活動の実際	1. 人材育成 2. 母子保健 3. 感染症 4. HIV/AIDS	講義 GW
評価方法	災害時看護 70点 筆記試験、参加状況、レポート等で総合評価する 国際協力 30点		
使用テキスト	看護の統合と実践② 災害看護学 メヂカルフレンド社 看護の統合と実践③ 国際看護学 メヂカルフレンド社		
留意点	授業を受けるにあたっては、世界各地で起きている紛争や災害、日本各地で起きている災害の報道に意識を向けて生活してください。無関心では学べません。		

科目名	看護研究の進め方		単位数	1	時間数	15
開講時期	2年次 後期	担当者	荒谷美香			
設定理由	看護に対する考えを深められるように研究の概念やプロセスの理解と共に、看護を多角的視点から深く考察し、質の高い看護を探究する能力を養う。					
科目目標	1. 看護における研究の意義がわかる。 2. 文献検索と文献検討の方法がわかる。 3. 看護研究における倫理的配慮の必要性和方法がわかる。 4. 研究に必要な基本的方法がわかる。 5. 研究計画書を作成することができる。					
回数	学 習 内 容					学習形態
1	看護における研究の意義	1. 研究とは 2. 看護における看護研究の意義 3. 学生にとって看護研究を学ぶことの意味 4. 研究課題の明確化に至るまでの過程				講義
2	文献検索と文献検討	1. 文献とは 2. 文献の種類 3. 文献検索の方法 4. 文献検討の方法				講義
3	看護研究における倫理的配慮	1. 看護研究における倫理的配慮の必要性 2. 指針となる倫理原則 3. 倫理的配慮の方法				講義
4・5	事例看護研究の方法	1. 事例研究の特殊性 2. 事例研究の種類 3. 事例研究の方法 4. 事例研究のまとめ方				講義
6・7	看護研究の方法	看護研究における基本的知識 研究デザイン、仮説、変数、用語の操作的定義、 変数のタイプ、尺度、サンプリング、データ収集 の方法、データ分析の方法				講義
8	抄録・論文の書き方、発表の仕方	1. 抄録のまとめかた 2. 論文のまとめかた 3. 発表の仕方				講義
評価方法	レポート：30点(研究計画書：20点、文献検索と文献検討：10点) 筆記試験・授業態度：70点					
使用テキスト	やさしい看護研究      メディカルフレンド社					
留意点	看護研究は自ら疑問を持ち、考える、自分の看護実践を振り返りながら主体的に臨むことを期待する。					

科目名	看護研究の実際		単位数	1	時間数	15
開講時期	3年次 前期	担当者	荒谷美香 他			
設定理由	看護に対する考えを深められるように研究の概念やプロセスの理解と共に、看護を多角的視点から深く考察し、質の高い看護を探究する能力を養う。					
科目目標	1. 収集したデータの分析の方法を学ぶ。 2. 看護研究論文の書き方がわかる。 3. 看護研究をまとめる上でのマナー、態度がわかる。 4. 看護研究の一連の過程を経験できる。 5. 発表会の運営の仕方がわかる。					
回数	学 習 内 容				学習形態	
1	ガイダンス	1. 看護研究の実際の進め方 2. グループワークの意義と方法 3. 論文提出に関する期限と留意事項			講義	
2	データの分析と整理	データの分析と整理グループ討論			GW	
3	データの分析と整理	データの分析と整理グループ討論			GW	
4	データの分析と整理	データの分析と整理グループ討論			GW	
5・6	東京都看護研究発表会	研究発表の仕方・座長の役割・質問の仕方 領域別実習時の看護実践を振り返る			学会参加	
7・8	看護研究発表	看護研究発表会の実際の運営			発表会運営	
評価方法	評価表(ガイダンス時に配布)に沿ってグループワークの参加度、研究をまとめる上でのマナー、論文、発表など総合的に判断する。					
使用テキスト	やさしい看護研究      メディカルフレンド社					
留意点	看護研究は自ら疑問を持ち、考える、自分の看護実践を振り返りながら主体的に臨むことを期待する。研究を進める過程でのマナー、時間外での計画的な取り組みを期待する。  提出期限と場所：提出期限はガイダンス時に告知、提出場所は教員室前の提出ボックス ① 論文と抄録の提出箇所は別々なので注意する ② 一度提出したら差し替えなし ③ 論文提出カード(ガイダンスで配布)と抄録はクリップでとめる					

科目名	看護実践マネジメントと医療安全		単位数	1	時間数	30
開講時期	3年次前期～後期		担当者	荒谷美香、伊藤百合子、大井田夏 鈴木亜都佐 他		
設定理由	<p>看護師として働くためには、看護管理能力が求められている。病院や看護部門の理念に合わせ、患者満足度を高める環境づくりの考え方や看護管理のサービスの管理について学ぶ。そして、卒後に臨床で働く素地として安全な医療と確実な看護を提供するための能力を養う。</p> <p>人は必ず間違えるものであるが、看護師は多様な業務を担当し、日常的に危険に関わる職業である。国や医療現場での取り組み、事故発生のメカニズムや発生防止の考えなどを学び、主体的に安全を守る方法を習得する。</p>					
科目目標	<p>1. 看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。</p> <p>2. 医療安全の基礎的知識が理解できる。</p>					
回数	学習内容			学習形態		
1	マネジメント	<p>1. マネジメントとは</p> <p>2. マネジメントプロセスの4つの機能</p> <p>3. PDCAサイクル</p> <p>4. 他職種とのチームワークとコミュニケーション</p>			講義	
2	看護マネジメント	<p>1. 看護管理の定義</p> <p>2. 看護過程と看護ケアのマネジメント</p>			講義 グループワーク	
3	組織の成り立ちと基本構造	<p>病院組織の管理者の区分と役割 (事例に学ぶ組織のしくみと管理)</p>			講義	
4	目標管理	<p>目標管理における組織目標と自己目標の関係</p>			講義	
5	医療の中の協働	<p>1. 病院における看護職集団のつながり</p> <p>2. 看護提供システム(看護方式)とは</p> <p>3. チーム医療とは</p> <p>4. クリティカルパスとは</p>			講義	
6	業務遂行のマネジメント	<p>1. 病院組織における労務管理</p> <p>2. 看護業務遂行のための業務管理</p> <p>3. 看護業務遂行のための物的資源・医薬品管理</p>			講義	
7	日本の医療制度と病院経営	<p>1. 医療制度のしくみ</p> <p>2. 診療報酬制度とは・看護必要度と評価</p> <p>3. DPC(診断群分類)とは</p> <p>4. 地域医療連携とは</p>			講義	
8	医療安全の基本的な考え方①	<p>1. 医療安全に関する用語の定義</p> <p>2. 事故発生のメカニズムと防止策</p> <p>3. 国の医療安全対策</p>			講義	

回数	学 習 内 容		学習形態
9	医療安全の基本的な考え方②	1. 医療安全のマネジメント 1) 安全管理体制の整備と医療安全文化の醸成 2) 医療事故・インシデントレポートの分析と活用	講義
10	実習における医療安全	事例で学ぶヒヤリハット	DVD
11・12	医療安全対策	1. 看護業務の特徴的な環境とリスク 2. 医療事故の種類と安全対策 1) 誤薬 2) 転倒転落 3) 医療関連感染(HCAI)対策 3. 医療安全の推進に向けて 1) テクニカルスキルとノンテクニカルスキル 2) <i>Team STEPPS</i> (チームステップス)	講義
13~15	医療安全の実際	1. KYTとは 2. KYTの実際	グループワーク
評価方法	看護実践マネジメント 50点、医療安全 50点 1. 看護実践マネジメント 筆記試験50点 2. 医療安全 筆記試験25点 レポート25点(グループワーク中の参加状況を含む)		
使用テキスト	新体系看護学全書看護の統合と実践① 看護実践マネジメント 医療安全 メヂカルフレンド社 セーフティマネジメントマニュアル		
参考図書	医療におけるヒューマンエラー第2版 なぜ間違える どう防ぐ		
留意点			

科目名	臨床看護の実践		単位数	1	時間数	30
開講時期	3年次 後期	担当者	専任教員			
設定理由	昨今の臨床の現場では看護実践能力の低下が問題視されている。新卒看護師の多くはリアリティショックを体験する。そこで、基礎教育から臨床での看護実践を円滑に進めるためには、卒業前より臨床実践に近い形で実際の看護業務遂行の疑似体験をし、複数課題での総合的な判断と対応を学ぶことが必要である。					
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数患者に実施すべき看護業務遂行計画ができる。</li> <li>2. 複数患者への看護業務が実践できる。</li> <li>3. 自己の能力に応じ、チームメンバーと連携を図ることができる。</li> <li>4. 複数患者への看護実践を振り返り考察できる。</li> </ol>					
回数	学 習 内 容				学習形態	
1・2	複数受け持ち患者に実施すべき看護計画立案	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 1人1人の優先度の高い看護問題を抽出</li> <li>2) 1日の看護計画立案</li> </ol>			講義/演習	
3・4	複数患者受け持ち時の1日の看護業務遂行計画立案	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護業務遂行のためのマネジメント 1日の業務の組み立て方 優先順位の判断基準 多重課題発生時の対処の原則</li> <li>2) 優先順位判断と時間配分を考慮した看護業務遂行計画の立案</li> </ol>			講義/演習	
5・6	医療チームにおける情報の共有	チームの連携の基本であるコミュニケーションエラーを防止する「SBAR」			GW	
7・8	複数患者受け持ちの業務の実際	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 計画した業務遂行計画に基づいた看護技術・実践の準備</li> <li>2) 患者の状態に合わせ、的確な看護技術の実施</li> </ol>			GW	
9～12	複数患者受け持ちの業務の実際	多重課題演習 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 優先順位の適切さ(割込み状況の対応も含む)</li> <li>(2) 援助の求め方の適切さ(連絡・報告・相談)</li> <li>(3) 看護業務の遂行の適切さ(看護技術の正確性・安全性を確保した技術の提供)</li> </ol>			演習	
13	看護実践の評価	看護業務遂行計画の評価・考察			GW	
14・15	複数患者業務遂行計画・実施・修正の学びの共有	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学びの共有</li> <li>2) 多重課題への対処の原則 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 優先順位の判断基準</li> <li>(2) 安全に業務を遂行する</li> <li>(3) 夜勤における多重課題への対処</li> </ol> </li> </ol>			発表	
評価方法	個人評価70点(記録用紙1、2、最終レポート、出欠席状況) グループ評価30点(複数患者演習、学びの共有、参加状況)等、総合的に評価する					

使用テキスト	新体系 看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント 医療安全 メヂカルフレンド社
参考図書	
科目履修上の条件	履修にあたり次の科目を履修若しくは履修条件を満たしていること 統合実習以外の全ての臨地実習

科目名	統合実習		単位数	2	時間数	90
実習時期	3年次 後期	担当者	専任看護教員			
実習目的	あらゆる対象の状況に応じて、既習の知識・技術を統合し、臨床での実践能力を養う					
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統合した知識をもとに対象の状態判断ができる</li> <li>2. 対象の状態に応じた援助の方法の選択とその実施ができる</li> <li>3. チームの一員としての役割と協働、メンバーシップ、リーダーシップが理解できる</li> <li>4. 看護をマネジメントする基礎的能力とその必要性が理解できる</li> <li>5. 医療安全のための基礎的知識と技術を理解できる</li> <li>6. 卒業時の看護技術の習得状況が総合評価できる</li> <li>7. 将来の看護師としての自己の看護観を考えることができる</li> </ol>					
実習内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習は、東京慈恵会医科大学附属第三病院で実施する。</li> <li>2. 実習期間 月曜日～金曜日(12日間)</li> <li>3. 実習時間 日勤帯・夜勤帯に実習する</li> <li>4. 実習の進め方 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 小児期・成人期・老年期にある対象を複数名(2名)受け持つ。</li> <li>2) 病棟オリエンテーション(夜勤業務・管理業務も含む)を受ける。</li> <li>3) 看護師1名が学生1名を担当する。</li> <li>4) チームの看護ケア全般の見学を行う。点滴準備や処置等の診療の補助技術を見学及び一部実施する。</li> <li>5) 受け持ち患者2名について、必要な看護の優先度を考えながら実施する。</li> <li>6) 実習期間中、管理業務を見学する。</li> <li>7) 実習期間中に、1回の夜間実習を体験し、夜間帯における患者の様子や病棟業務の見学をする。</li> </ol> </li> </ol>					
評価方法	<p>所定の評価表を用いる。</p> <p>実習状況・実習記録・カンファレンス・レポート・面接等から総合的に評価する。</p>					
科目履修上の条件	実習の評価を受けるには、実習時間数の4/5以上の出席が必要である。					





慈恵第三看護専門学校  
Nursing School of The Jikei